

最新中等西洋史

東京高等師範學校教授

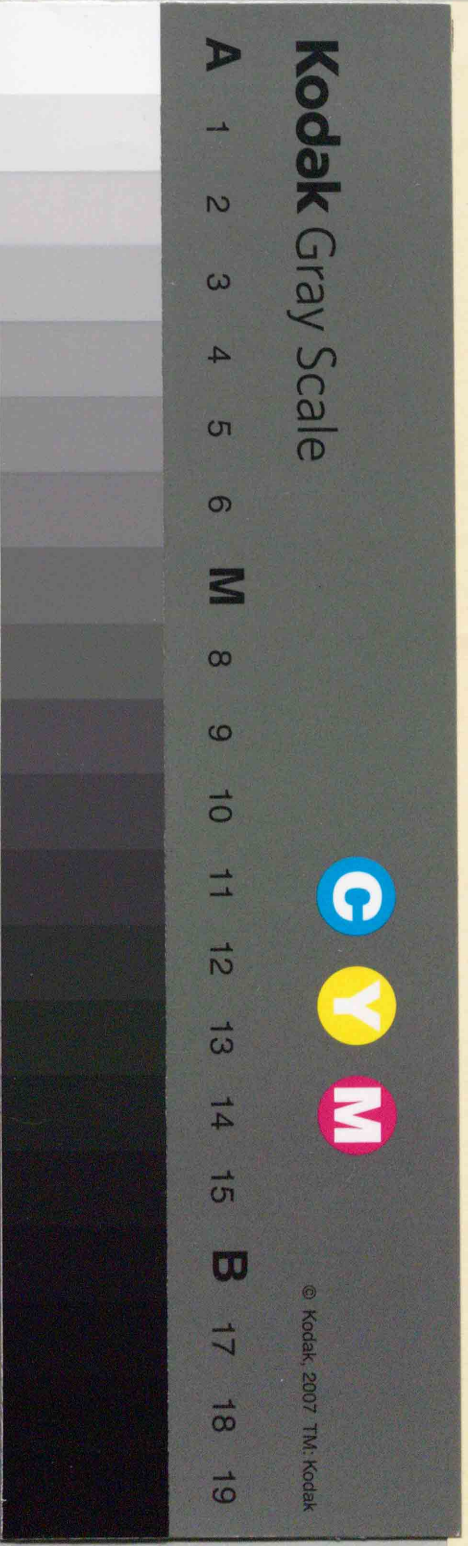
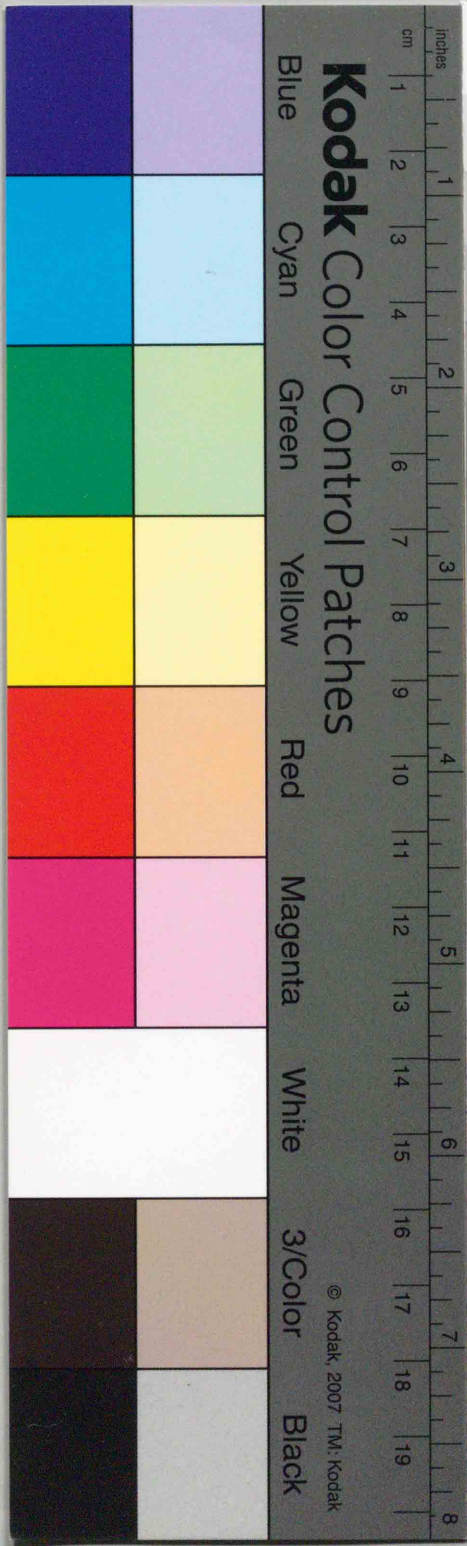
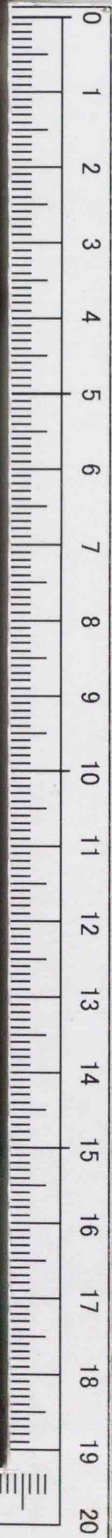
中川一男

著

(中學用)



最新教授要目標準



42998

教科書文庫

4
230
41-1943
20000 73476



資料室

濟定檢省部文
用科史歷校學中 日九月七年八十和昭

教科書文庫

4

230

41-1943

2000073476

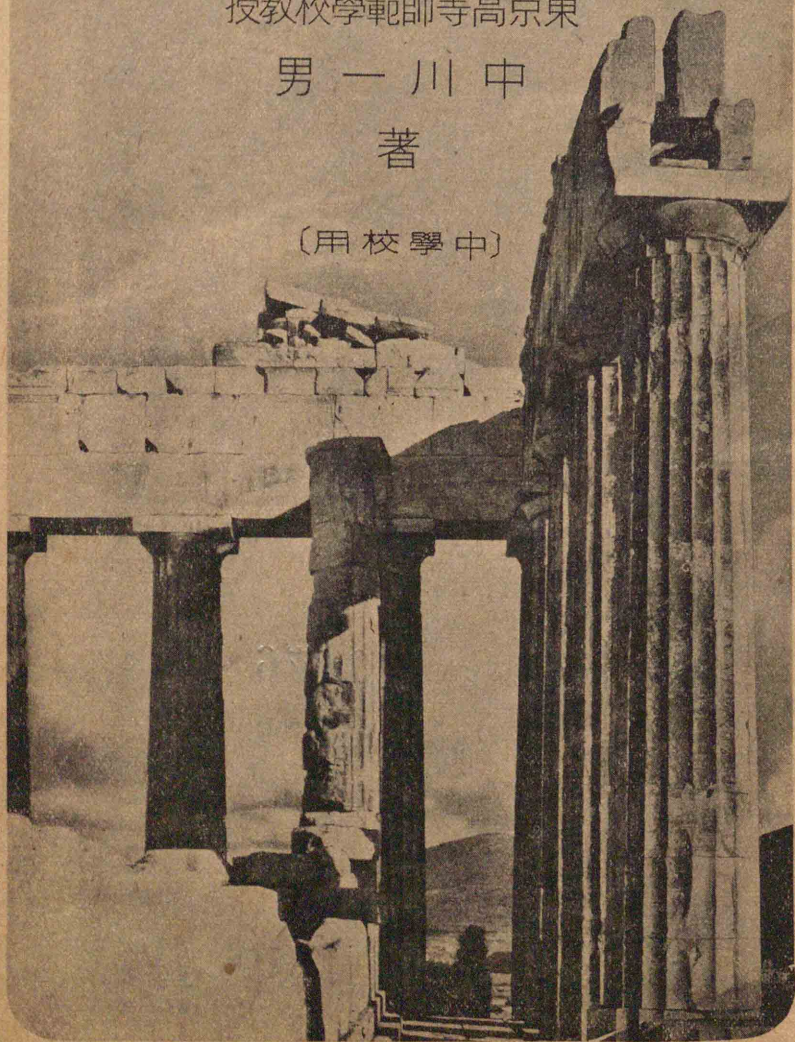
史洋西等中新最

授教校學範師等高京東

男一川中

著

(用校學中)



廊柱のノテルバ

42
230
BB18



例言

一、本書は今回改正せられた文部省所定の新教授要目に準據し、中學校用西洋史教科書として編纂したものである。

一、本書の眼目とするところは、西洋諸國の國家的發展と社會的經濟的發達體系とを知らしめ、同時にこれによつて世界に比類なき我が國體を愈々明らかにし、國民的自覺を益々鞏固ならしめることである。

一、本書は歴史教育の最新傾向に察し、零細の事實は多く省略に従ひ、専ら西洋史の根幹を把握し、列國國勢の推移を理解せしめることに努めた。しかも西洋文化の發達とその國民性については特に留意し、「中世の文化」「産業革命と社會上の變化等の數章を設け、國家の興隆と文化及び國民性との關係を明確ならしめた。

一、本書は飽くまで國史との關聯を保つことに終始し、各時代に於ける諸國家の成立・政治・文化を説き、就中十九世紀以後に於ける列強と我が國との文化的・政治的・經濟的交渉を比較詳述し、西洋史を取扱ふのに、徹頭徹尾日本國民としての立場からすることに重きを置いた。これはやがて我が國體を明徴にし、大國民たる資質を育成せしめようとの用意に外ならない。

一、本書の附録として、西洋文化の生成・發展、民族の移動・分布等の色刷地圖を挿入して、一目に概觀するに便した。なほ挿畫は著者が歐米に於て蒐集した典據あるものを多數掲出し、以て教授の徹底を期した。各位の十分なる活用を切望して已まない。

昭和十二年七月

著者識す

最新中等西洋史

目次

西洋史の意義……………一

第一篇 上古史……………一

第一章 古代東方諸國……………三

第二章 ギリシヤとその文化(上)……………一〇

第三章 ギリシヤとその文化(下)……………二二

第四章 ローマとその文化(上)……………二六

第五章 ローマとその文化(下)……………三六

第二篇 中世史……………三六

第一章 ゲルマニヤ民族の移動と建國……………四三

第二章 中世初期に於ける東方の形勢……………四六

第三章 中世に於けるキリスト教の興隆……………五

第四章 中世に於ける封建制度の發達……………五

第五章 十字軍とその影響……………六

第六章 中世後期に於ける諸國の情勢……………六

第七章 中世の文化……………七

第三篇 近世史

第一章 新機運の世界(上)……………七

第二章 新機運の世界(下)……………八

第三章 宗教改革と宗教戦争……………八

第四章 近世諸國家の發達(上)……………九

第五章 近世諸國家の發達(中)……………一〇

第六章 近世諸國家の發達(下)……………一〇

第七章 列強の植民地經營とアメリカ合衆國の獨立……………一一

第八章 近世の文化……………一二

第四篇 最近世史

第一章 フランス革命……………一六

第二章 ナポレオン一世……………一三

第三章 反動主義と自由主義……………一四

第四章 産業革命と社會上の變化……………一四

第五章 國民的國家の隆盛(一)……………一五

第六章 國民的國家の隆盛(二)……………一五

第七章 國民的國家の隆盛(三)……………一五

第八章 國民的國家の隆盛(四)……………一六

第九章 國民的國家の隆盛(五)……………一七

第十章 國民的國家の隆盛(六)……………一七

第十一章 最近世の文化……………一六

第五篇 現代史

第一章 列國の國力充實と世界政策(上)……………一七

第二章 列國の國力充實と世界政策(下)一九三

第三章 ヨーロッパに於ける國際關係二〇一

第四章 世界大戰二〇六

第五章 大戰後の世界情勢(上)二二三

第六章 大戰後の世界情勢(下)二二六

第七章 現代の文化二三一

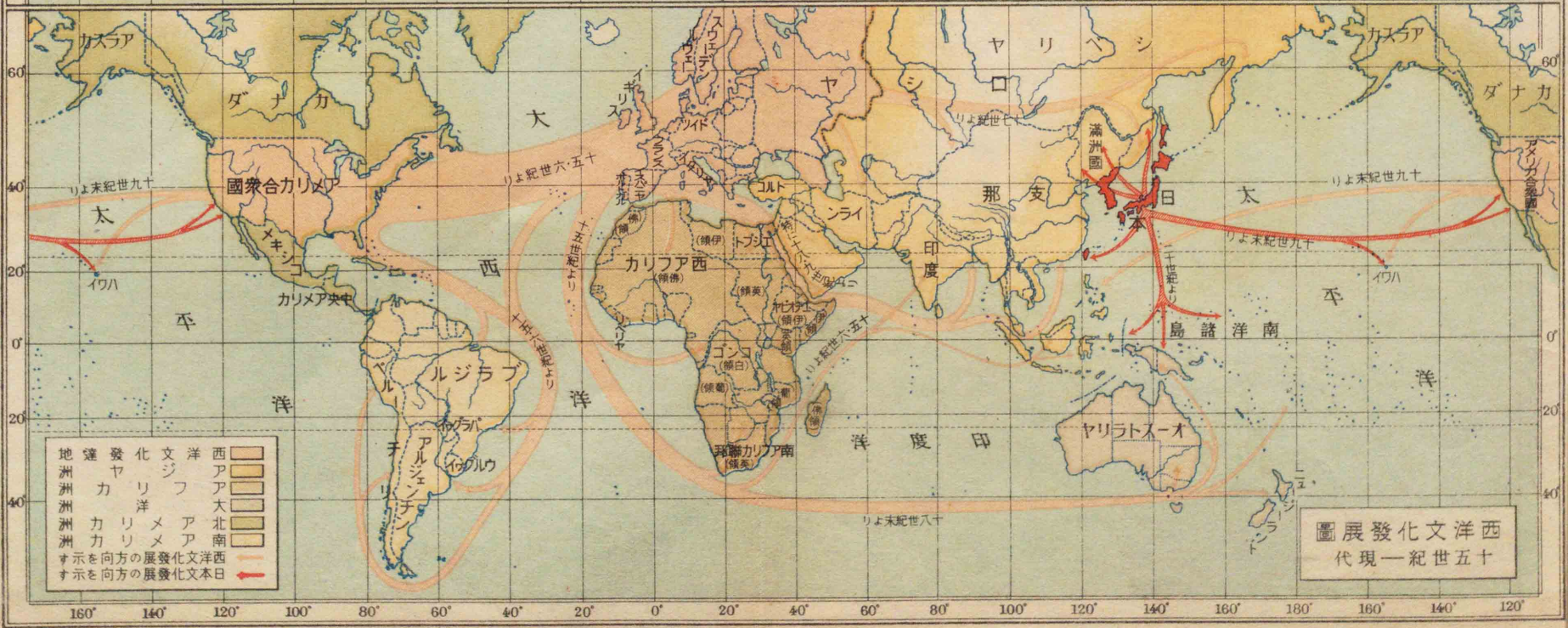
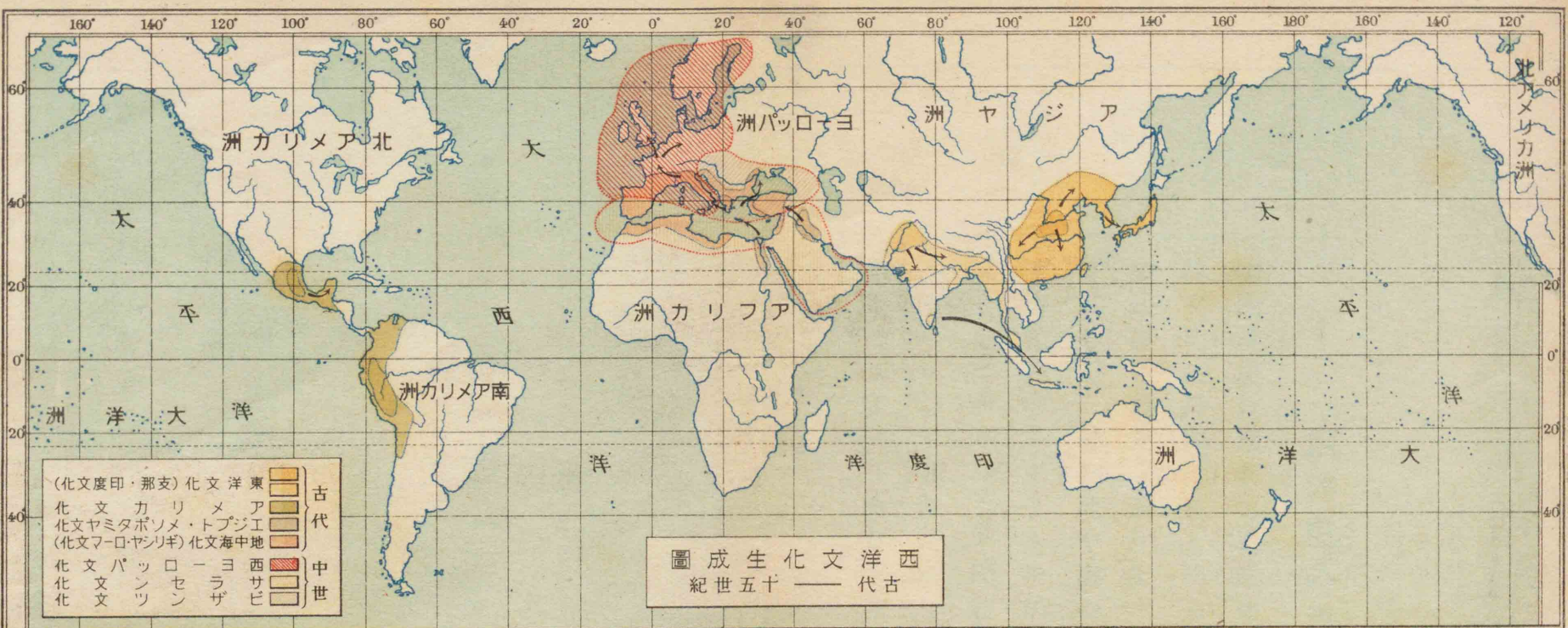
第八章 西洋史上より觀たる帝國の使命と國民の覺悟三三五

附錄

年表
地圖

- 中世ヨーロッパ要地圖 附(中世ヨーロッパ交通圖・十字軍時代のイエルサレム)
- ヨーロッパ諸國變遷圖
- 世界大戰前に於ける各國植民要地圖・世界民族の移動圖

中世ヨーロッパ要地圖 附(中世ヨーロッパ交通圖・十字軍時代のイェルサレム)
ヨーロッパ諸國變遷圖
世界大戰前に於ける各國植民要地圖・世界民族の移動圖



最新中等西洋史

西洋史の意義

西洋史の意義 西洋史は西洋諸民族諸國家の盛衰興亡並びに西洋文化の變遷特質を明らかにせんとするものである。

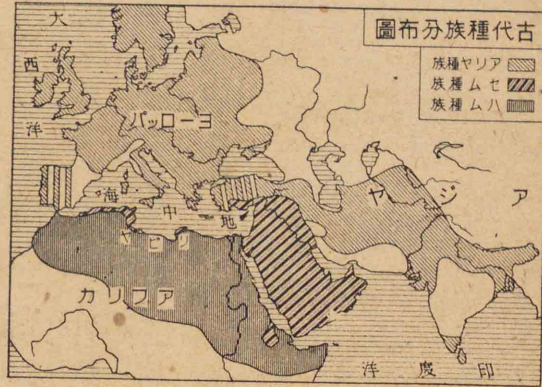
1 西洋史上の民族
2 諸民族の活動範圍

民族と歴史 西洋史上の民族にはハム種族セム種族アリヤ種族等がある。最初地中海の東部にハム・セム兩種族が勃興し、ついでアリヤ種族中のギリシヤ民族ローマ民族等が地中海を中心として活躍し、更にゲルマニヤ民族スラヴ民族等が起つてドイツ・フランス・イギリス・ロシア等の諸國を建て、ヨーロッパ大陸のみならず、大西洋を中心としてアメリカ・アフリカに、また太平洋を中心としてアジア・大洋

1 西洋史を學ぶ目的

2 東洋史との比較

3 國史との對照



洲にも發展し、今やその範圍は世界的となり、且つ優秀なる西洋文化をつくつて、人類生活の發展に偉大なる貢獻をなした。

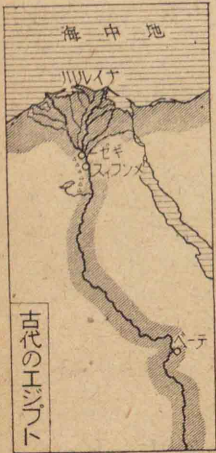
西洋史の學習 我等は西洋史の學習に於て、これら諸民族諸國家の由來、國體、國民性及び國運消長の跡を究むると共に、また西洋文化の發達とその特質とを明らかにしなければならぬ。なほ既に學んだ東洋史と比較して東洋諸民族及び東洋文化との差異を知るばかりでなく、常によく國史と對照して我が國體の尊嚴、國民性の優秀文化の特色等を一層明確にし、益、我が帝國の隆昌と文化の宣揚に つとめ、以て世界の舞臺に活躍し、世界文化の指導に任ずる我が國民の使命を全うしなければならぬ。

第一篇 上古史

第一章 古代東方諸國

西洋文化の曙光 今から凡そ五千年の昔、アフリカの北部にエジプト、アジアの西南部にバビロニアといふ、世界最古の二文明國が建設され、ここから西洋文化の曙光が輝き始めた。

エジプト エジプトは氣候炎熱で雨量の少い土地であるが、ナイル川の灌漑と洪水の跡に残す沃土とによつて、早くから農業が發達し、生活は豊かに、住民も増加して、紀元前三千年頃には既に統一した國家をつくり、紀元前



耕農の人トブジェ

1 土地と文化

2 文化の發達

象形文字による

エジプト王プトレミー(上)とクセオパトラ(下)で各字は物に象つてつくられ音を表はしてゐる

エジプト人が死後オシリス神(右方に坐す)の裁判をうけるところである。左端が死者。その心臓を中央の天秤にかけ、羽毛よりも軽い時は清淨なものと認められ、また神より多くの質問をうけ罪を裁かれた



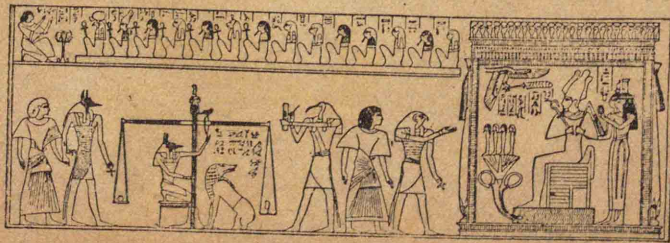
Ptolemy



Cleopatra

象形文字

千五百年の頃最も盛となり、文化も榮えた。國民は肥沃な土地に農業と牧畜とを營み、また工藝にも長じて、硝子・陶器等の製造も盛に、建築・彫刻の術にも秀でてゐた。なほ生活に必要な學問も發達して、測量學・天文學・醫學等が盛となり、太陽曆や象形文字を用ひた。宗教は多神教で、特に太陽を崇拜し、また靈魂の不滅を信じたので、立派な殿堂を建て、墓所を宏麗にし、死體をミイラとして保存した。それらの遺跡としてピラミッド・スフィンクス・オベリスク・神殿・陵墓などが現存してゐる。



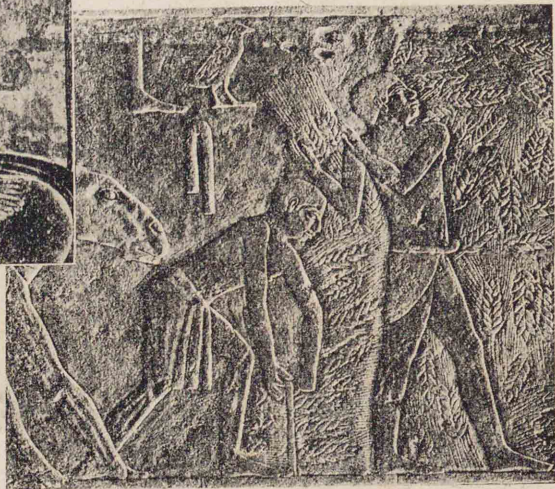
死人の書

3 社會・國家

エジプト人が死後オシリス神(右方に坐す)の裁判をうけるところである。左端が死者。その心臓を中央の天秤にかけ、羽毛よりも軽い時は清淨なものと認められ、また神より多くの質問をうけ罪を裁かれた

エジプト人の生活(下)

エジプトのアクソテップにある墳墓中の浮彫。農夫が豊にみられる麥を收穫する圖である。

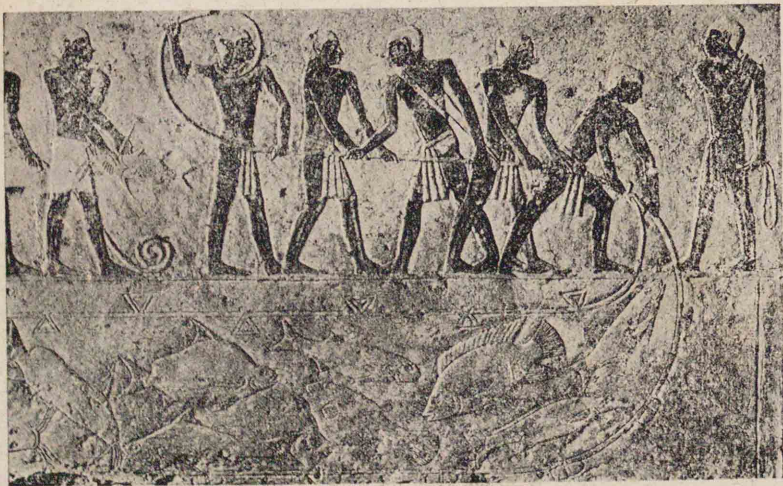


セチ一世の像(上)

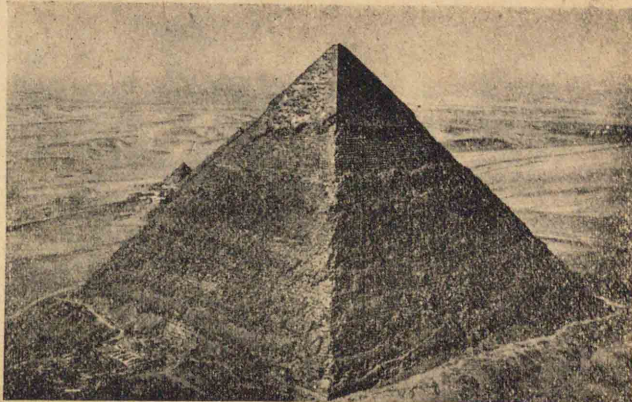
エジプト第十九王朝のセチ王の墳墓内にありし極彩色の薄浮彫である。今パリのルーヴル博物館に秘藏せられてゐる。

エジプト人の生活(左)

上圖と同所にある浮彫で、漁夫達がナイル川から引網によつて種々の魚をとつてゐるところである。

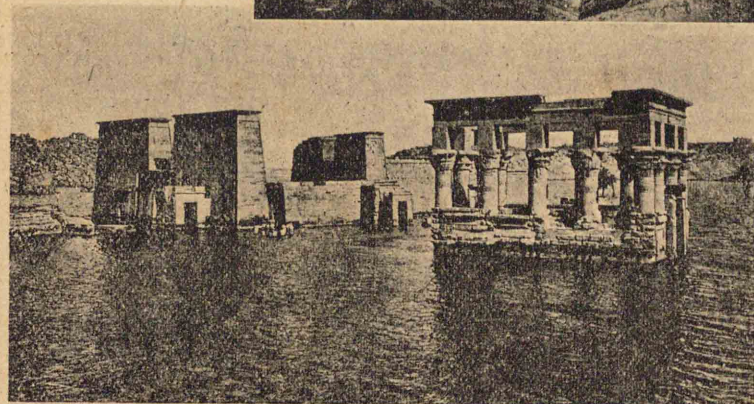


跡遺のトブジェ



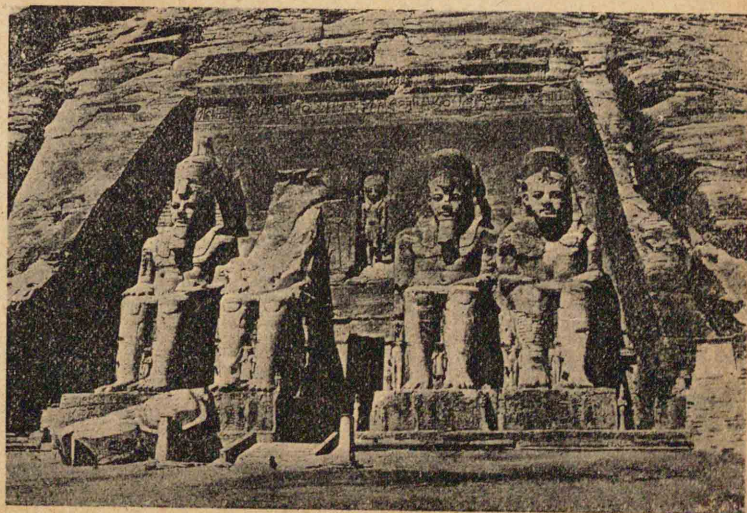
ピラミッド(右)

ピラミッドは巨大な切石を方錐形に積上げ、その内部に遺骸を安置する室、寶物を藏する室等あり、坑道によつて連絡してゐる。圖はカイロ附近のケフレ王の墳墓である。



フイレー島のイシス神殿(左)

神殿はナイル川中流にあり、イシスはエジプト人の最も崇拜した女神である。

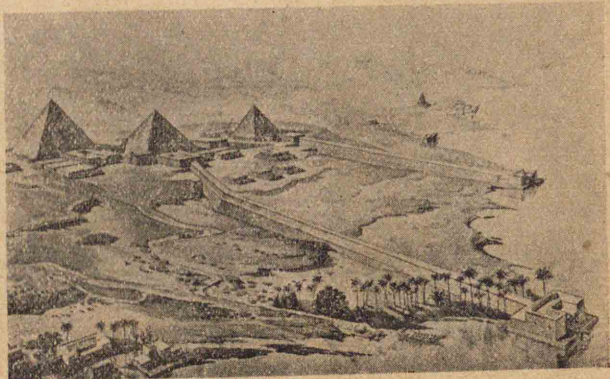


アブシンベルの岩窟神殿(右)

神殿はラムセス二世がハルト神(美の神)のために造營せる巨大雄偉なものである。

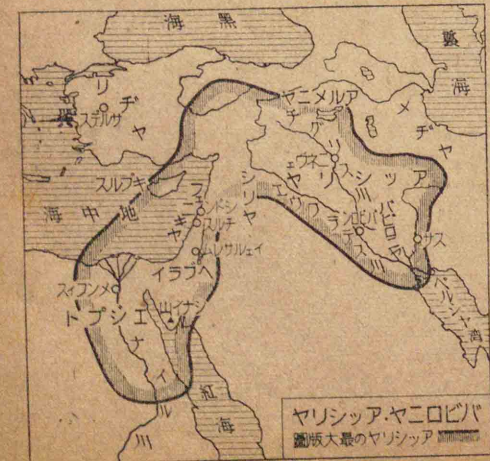
【圖釋(上)】
ピラミッドは國王の陵墓である。石または煉瓦を積み上げて造り、高さ一三八米に及ぶものがあり、沙漠の中に聳えて悠久の歴史を秘めてゐる。

1 土地と文化



(圖原復) ドゥミラビ

上、交通の便がよく各地の物産が集散したから、生活も豊かに、文化も榮えた。國民は農業と商業とを主として、國富



ヤリシニア、ヤニロビバ
圖版大景のヤリシニア

の區別は甚だ嚴重であつたが、それらを支配する國王の權力は最も強く、専制君主としてよく人民を統治することが出來た。
■ **バビロニヤ** エジプトと同じ頃、バビロニヤ王國が起り、バビロンに都した。この國もまたチグリス・エウフラテス兩河の恩恵をうけて農業が發達した

2 文化の發達

【圖説(下)】
ベルシヤ王ダリ
ウスとその子ク
セルクセスを楔
形文字で表はし
たものである

3 國家

1 流浪の民

2 宗教の民

【圖説(上)】
十六世紀の頃ミ
ケランジェロが
刻んだもので、
知識に優れ、尊
嚴の相に溢れて
ゐる



み、天文、數學、建築彫刻等に長じ、楔形文字を發明してこ
れを使用した。後エジプトとの間にも交渉が開け(前
紀頃)、兩國の文化は互に接觸することとなつた。國王
は専制君主であつたが前二十二世紀頃に出たハムラ
ビ王は、立派な法典をつくつてよく國內を治めた。
④ヘブライ へブライ人はもと流浪の民であつたが、
賢人モーゼに率ゐられ、後パレスチナの地に國を建てた。紀元前十
一世紀の頃ソロモン王出でて富強を極め、榮華を誇つたが、後イスラ
エルとユダヤの二國に分裂した。

Solomon

Moses

Hebrews

Palestine

Solomon

ゼーモ

國民は最も宗教心に富み、天に在
す唯一の神イェホヴァを信仰して、自ら
は特に神より選ばれた民であると
信じてゐた。

𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿

𐤀 𐤁 𐤂 𐤃 𐤄 𐤅 𐤆 𐤇 𐤈 𐤉 𐤊 𐤋 𐤌 𐤍 𐤎 𐤏 𐤐 𐤑 𐤒 𐤓 𐤔 𐤕 𐤖 𐤗 𐤘 𐤙 𐤚 𐤛 𐤜 𐤝 𐤞 𐤟 𐤠 𐤡 𐤢 𐤣 𐤤 𐤥 𐤦 𐤧 𐤨 𐤩 𐤪 𐤫 𐤬 𐤭 𐤮 𐤯 𐤰 𐤱 𐤲 𐤳 𐤴 𐤵 𐤶 𐤷 𐤸 𐤹 𐤺 𐤻 𐤼 𐤽 𐤾 𐤿

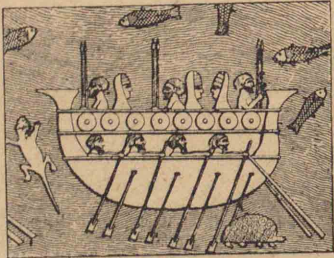
楔形文字

3 聖書

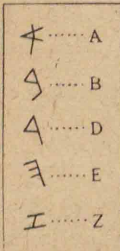
1 土地と文化

【圖説(上右)】
アッシリヤの國
都ニネヴェ附近
の宮殿内壁面の
彫刻で軍艦の中
央に並ぶ丸形
ものは楯である

2 交通・商業



艦軍のヤキニエフ

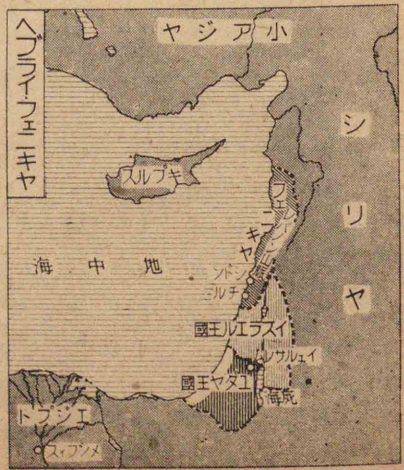


字文符音

舊約聖書 舊約聖書の中にはヘブライ人の
傳説、歴史等が記され、天地創造神の十誡、ソ
モンの榮華など興味深いものがあり、また多
くの詩篇などは立派な宗教文學であるとい
はれてゐる。キリスト教の宗教思想は舊約
聖書から出てゐるも
のが極めて多い。

⑤ フェニキヤ

フェニキヤ人は、國內に平地が少いた
め、山中の木材をもつて船をつくり、良港を利用し
て海上に活躍し、地中海のみならず、大西洋、バルチ
ク海にも出て、また古代バビロニア、印度にも達し
た。彼等はイスパニヤの銀、イギリスの錫、バルチ
ク海の琥珀、古代バビロニアの織物、アラビヤの眞



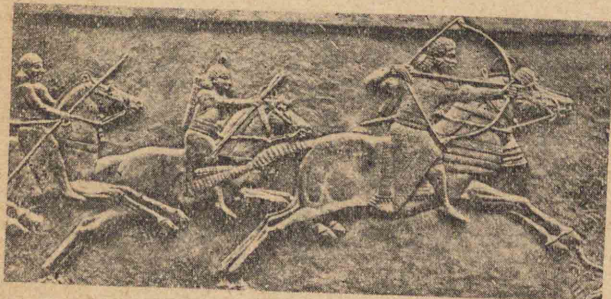
た。彼等はイスパニヤの銀、イギリスの錫、バルチ
ク海

3 植民と文字

アッシリヤ人は勇猛果敢で戦を好み、狩獵に長じてゐた

1 最初の世界統一

2 國情



アッシリヤ人の狩獵

珠・香料・自國の硝子・染料などを各地に運搬交易し、古代に於ける經濟の發達と東西文化の傳播に力を盡した。そのため國富みて生活も豊かに、シドン・チルなどの都市はよく榮え、その他地中海到るところに多くの植民地をつくつた。彼等は物品交換の不便をさとつて貨幣を用ひ、また簡易な音符文字を發明して廣く傳播し、後世の文化に大きな貢獻をなした。

アッシリヤ これらの地方を最初に統一したのがアッシリヤ人である。アッシリヤはもとバビロニヤの植民地であつたが、自立の後、次第に諸國を征服して一大帝國を建設した。けれども歴代の皇帝は頻りに戦争を事とし、國民もまた残忍であつたから、征服された國民は心服せず、

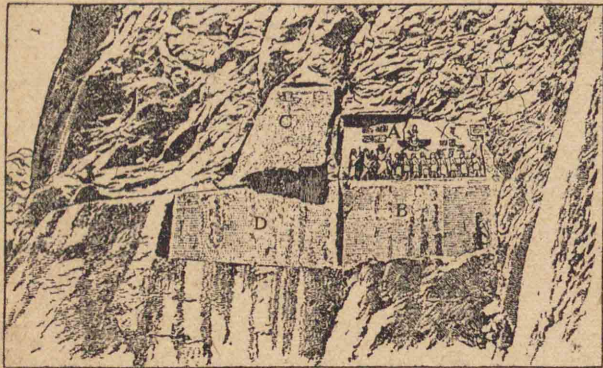
3 滅亡

アッシリヤの滅亡
神武天皇の御代

1 ペルシヤの獨立

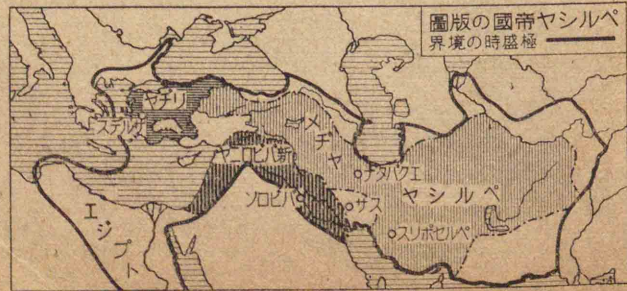
2 大帝國統治

ペルシヤのベヒスタンの岩壁に刻したダリウス一世の記念碑。
Aには王が篡奪者ガウマタを踏み叛王を捕虜として引見するところを刻し、なほ王の功業をバビロニヤ語C、ササ語D、ペルシヤ語Bで記してある



ダリウス王の徳碑

遂に新バビロニヤに滅ぼされ、その領土は分裂して多くの國家が對立した。
ペルシヤ この頃東方メヂヤの屬地からペルシヤが起り、その酋長キルスがメヂヤを滅ぼして自立し、更にダリウス一世(前五二一即位)の時、印度その他をも攻めて、アジヤ・フリカ・ヨーロッパに跨る大帝國を建設した。王



はこの大領土に交通をよくし、地方に知事を派遣して治めしめたので、政令よく行はれて王權は益々強くなり、立派な強い國家と

なつた。

【總括】 古代東方諸國の興亡は今から凡そ五千年前の昔より二千五百年前に至るまでであり、概ね我が神武天皇以前のことである。これら諸國の特色ある文化は相互に交換・傳播され、またギリシヤに移植せられて、後世に影響を及ぼしたものも多い。

第二章 ギリシヤとその文化(上)

1 土地と文化

■ギリシヤの土地 ギリシヤ半島は海岸線に富んで良港多く、またエーゲ海上には多くの島嶼が連つて、航海貿易に適してゐたので、住民は早くより東方文明諸國と交通して多くの文化を移植し、また地中海・黒海の各沿岸に發展して多くの植民地をつくつた。しかし内

2 商業と農業

1 都市國家

戰士が逞しい馬に引かせた戦車に乗り、楯と槍とをもつ武士と共に戦に出發せんとする颯爽たる威風である

2 スパルタとアテネ



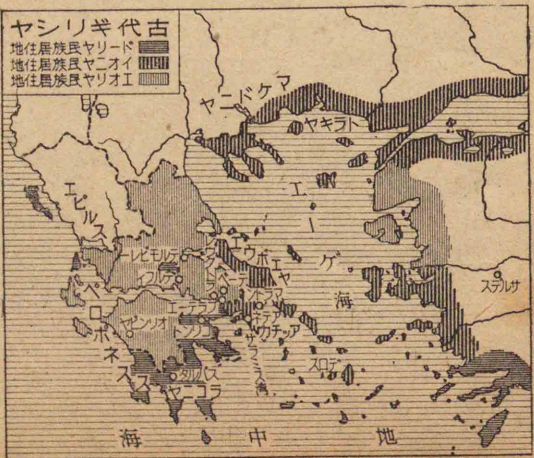
ギリシヤの戦士

地は山脈多くして小地方に分割されてゐたので、住民はそこに農業を營んで團結を固くしてゐた。

■都市國家 ギリシヤ

人の營む國家は都市國家であつた。即ち本國及び植民地の形勝の地に都市をつくり、城壁を設けて生活し、その郊外に多くの耕作地その他を附屬せしめてゐた。都市國家の中スパルタとアテネとが最も名高い。

■スパルタ Sparta
スパルタはドーリヤ人の建てた國家で、多數の平民が農業に従事し、少數の貴族がこれを



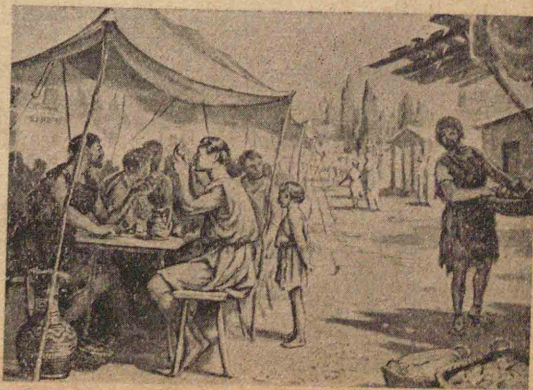
1 貴族政治

2 國家主義

3 陸軍國

【圖説】
スパルタ人は美食の風を禁じ、個人的の生活を戒めた。圖は國家の教育所に於て共同生活をなす一場面を示したものである

支配してゐた。貴族は政權を握つて貴族政治を行ひ、國家主義的な尙武教育を施して強健勇武な兵士をつくり、一身一家を顧みずして國家に奉仕する國民を養つたので、次第に強力な國家となり、その軍隊はギリシヤ諸國中第一といはれた。



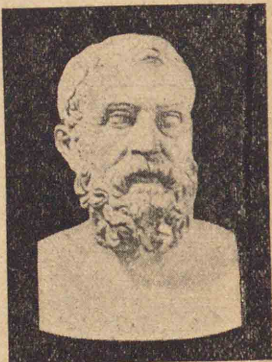
卓食同共の人タルパス

スパルタ教育 スパルタの憲法及び教育方針はリクルダスが定めたといはれる。男子が生れると國家で審査して強健なもののみを選び、七歳となれば國家の共同教育所に入れて嚴格な教育を施し、勇氣敏捷實剛健愛國等の精神を養ひ、二十歳になれば寢食を共にして戰爭分捕等の訓練をなし、三十歳に達して始めて獨立を許された。かやうな尙武的教育と國家的奉仕の精神とは、よく貴族の特權を保ち、國家を隆盛ならしめたものといつてよからう。

1 貴族政治

2 社會上の變化

【圖説(上)】
アテネの商人で詩才に富み賢明公平の聞え高く、よく政治を改革してアテネの危機を救つた



ソロン

の多く、また富豪は土地を買収して大地主となり、農民の困窮を顧みざるものも多く、政治上、社會上に改革すべき必要が起つた。またアテネ人は特に自由思想が強かつたから、貴族が政治を獨占することを嫌つた。

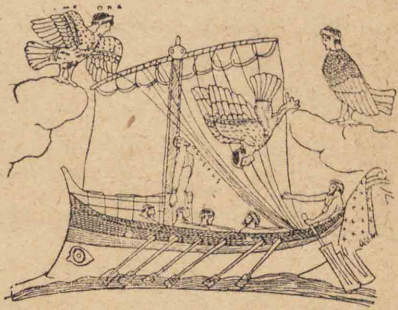
紀元前六世紀の頃ソロン及びクリステネスが出て政治上の改革をなし、富の程度によつて市民の權利・義務に差等を設け、且つ平民にも政權を分ち、また祕密投票によつて野心家の現はれるのを防いだので、人民の



ソコラトスオ

3 民主政治
4 商業國・海軍國

大英博物館蔵の
賽機様でオデー
セー物語にある
一節をとつたも
のである



船商のヤシリギ

總意によつて政治をする民主政治が發達した。アテネ人はまた商業に長じてゐたから、國富み、貨幣は多く集まり、諸國の物産も集散し、文化も大いに發達した。なほ海外に多くの植民地もあり、海軍も次第に強大となつた。

1 自由主義と
獨立割據

2 統一協同性

のも多かつた。従つて都市國家の間には反目競争が行はれ、獨立割據の風があつた。しかし一面には同一民族であること、言語風俗習慣を同じくすること、同一の神を崇拜すること等によつて、同一國民たることの觀念を強くし、且つ宗教同盟及びオリンピヤ大祭の競技會などに於てよく民心を統一した。そのため國家の非常時には、よく團結して國を守り、外敵を防ぐことが出來た。

1 原因

これはオリンピヤの復原圖である。中央にゼウスの神殿があり、その後方に陸上競技場がある。近時世に行はれるオリンピヤゲームは、このオリンピヤ祭の競技から起つたものである。第一回オリンピヤ祭は我が神武天皇以前のことである。

圖説(下)



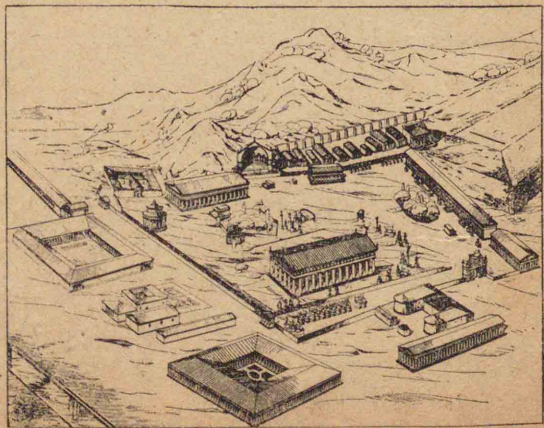
技 競 撰 相

オリンピヤ大祭 オリンピヤ大祭はゼウス神のために行はれるもので、ギリシヤ全土より選手を派遣し、五種競技、相撲、戰車競争等あり、優勝者には月桂冠を與へて絶大の名譽を表彰した。また詩歌美術等をも競つた。大祭は四年毎に行はれたもので、第一回は紀元前七七六年に行はれた。

ヘルシヤ戰役

ギリ

シヤ諸國が次第に隆盛に赴いた時、ペルシヤと開戦するに至つた。それはペルシヤ王ダリウス一世に征服された小アジア沿岸のギリシヤ植民地が、ペルシヤの支配から脱れようとして、ギリシヤ本土の



景全ヤピンリオ

ペルシヤの統一...
ギリシヤの自由...
経済的理由...
アテネの援助...
ギリシヤとその文化(上)
490 BC アルタエレス...
480 BC ミルチアデスの奮戦...
479 BC 一五...

2 戦況

○當時の畫に描かれた戦争畫による。ギリシヤ兵士の甲(かぶと)盾(たて)槍(やり)等(ら)に注意し、壯烈な戦闘の有様を想像せよ



ギリシヤ兵士の戦争

○サラミス海戦
・ 懿徳天皇の御代

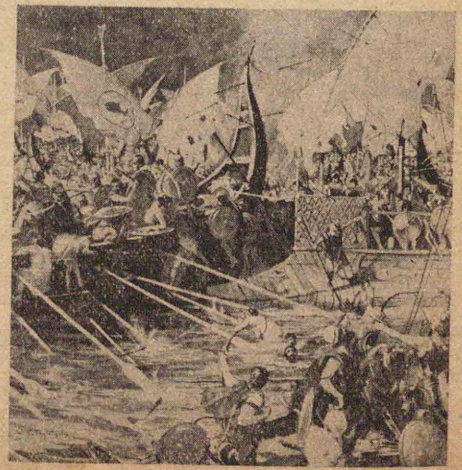
テネ等に援助を求めたので、ダリウスはこの叛亂を平らげ、更に進んで全ギリシヤを併呑しようとして攻め寄せたからである。490 B.C. ダリウスは最初の出兵に失敗したが、紀元前四九〇年再び大軍を派した。この時ギリシヤはこの強敵に對して共同一致することが出来ず、アテネひとり戦つたが、よくこれを Marathon の野に撃破することが出来た。ダリウス一世の死後、その子クセルクセスは父の志をつぎ、自ら海陸の大軍を率ゐて侵入した。この時ギリシヤ諸國は共同して國難に當り、スパルタ王レオニダスはテルモピレーに奮戦して勇名を馳せ、アテネの勇將 Themistocles はペルシヤの艦隊をサラミス灣に撃破して大勝を博した。かくてクセルクセスは狼狽してギリシヤから退却し、殘餘の

3 ペルシヤの敗北

○紀元前四八〇年四百隻のギリシヤ艦隊は、千餘隻からなるペルシヤの艦隊を撃滅し、ペルシヤ王クセルクセスのギリシヤ征服の野心を挫いた。非常時と人物

海陸軍も相ついで敗れ、ギリシヤは完全にこれを撃退することが出来た。この戦は兩民族の浮沈を賭けたものとして重大な意義があつた。

テミストクレスとアリスチデス マラトンの戦後、アテネではペルシヤの再来に備へて非常時が続いた。この頃アリスチデス・テミストクレス等が大いに活躍した。



サラミスの海戦

アリスチデスは頭腦明敏にして判断の公平な人であつたが、決斷力と實行力に乏しかつた。テミストクレスは豪毅果斷にして意志強く、危險に對しても常にこれを征服せんとする意志に燃えてゐた。アテネ市民はテミストクレスを選び政治をなさしめたといはれてゐる。

4 アテネの隆盛

アテネはさきにデロス同盟をつくつてその盟主となり、ペルシヤ戦役には大功をたてて、その國威大いに揚つた。紀

アテネの隆盛
デロス同盟
紀元前四八〇年
ペルシヤの艦隊を撃滅し、ペルシヤ王クセルクセスのギリシヤ征服の野心を挫いた。非常時と人物

2 ペリクレスの政治

【圖】(上)

ペリクレスは知識に富み、藝術を理解し、雄辯にして政治の才に長じてゐた。彼は理想的なアテネ人であり、第一の政治家であつた。

3 アテネの黄金時代

1 スバルタの覇業

2 テーベの覇業

3 諸國の争覇

【圖】(下)

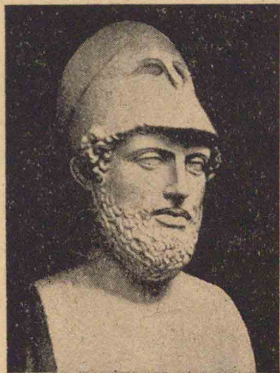
マケドニアの密集隊は、各兵に長槍を携へさせ方陣をつくり左右前後に方向轉換し第一線の補充に便にして威力を發揮した。

1 マケドニアの興隆

【圖】(上)

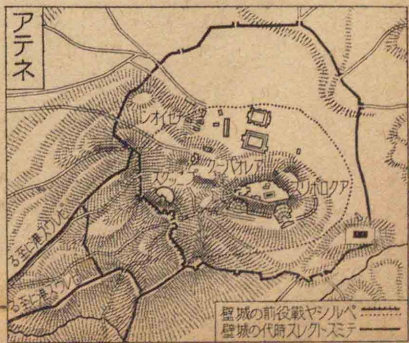
デモステネスは苦心練磨の結果、ギリシヤ第一の雄辯家となつた。北方の荒鷲マケドニアに對する演説は特に名高い。

元前五世紀の中頃、アテネにペリクレスといふ偉大な政治家が出て、政治を整へ、民主政治を完成した。彼はピレウスの港を修築して商業を盛ならしめ、また大いに土木を起して宏麗なる



スレクリベ

建築を營み、文學、美術等を盛にして、ギリシヤ文化の黄金時代をつくつた。



壁城の前後戦でソルバ壁城の代跡スレクリベ

を嫉んでスバルタが戦争を起した。兩國は各、同盟軍を率ゐて大いに戦つたが、遂にアテネが敗れ、スバルタが覇業をなした。スバルタは勢に乗じ、頻りに武力を用ひて諸國を壓迫した。この壓迫に反抗してテーベが立つたが、その將エパミノンダス等は大いに奮戦して

レウクトラにスバルタ軍を降し、覇權を獲得した。しかしテーベも間もなく衰へ、ギリシヤ諸國は互に争つて戦亂の止む時なく、國力は次第に疲弊し、遂に北方のマケドニアに統一さるゝに至つた。



隊集密槍長のヤニドケ

マケドニアの英主フィリップ二世は、頻りにギリシヤ文化を輸入して國力を充實し、長槍密集隊を編成して大いに兵



スネテスモデ

力を整へ、やがてギリシヤ諸國の内政に干涉した。アテネのデモステネスは得意の雄辯を以て國民に警告し、諸國を遊説して對マケドニア同盟を作つ

【註】(上)
パリのルーヴル博物館蔵

2 アレクサン
ドル大王の
外征

【註】(下)
アレクサンドル大王はギリシヤ・マケドニアの兵を率ゐ、紀元前三三三年にペルシヤ王ダリウスとイッソスに戦つてこれを破つた。左端槍を執れるは大王、中央戦車に乗れるはダリウスである

3 大帝國の建設

4 東西文化の融合

1 ギリシヤ人の素質と環境

2 生活と文化



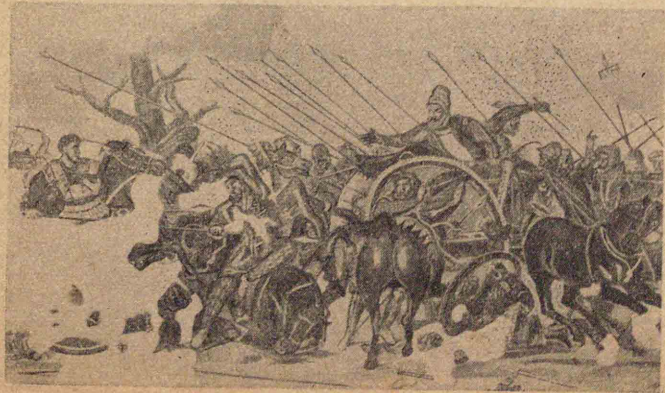
王大ルドンサクレア

たが、フィリップ二世は紀元前三三八年ケイロネヤの戦にギリシヤ軍を破つてその覇權を握つた。

フィリップの子ア

レクサンドル大 Alexander

王は、年僅かに二十歳にして王位に上り、父の志をついでペルシヤ遠征に上つた。紀元前三三四年自ら軍を率ゐてシリヤ・エジプト等を征服し、更に東に轉じてペルシヤを滅ぼし、印度の西北部を侵略して、後、バビロンに凱旋し、こゝを都として東は印度より西はギリシヤに亘る大帝國を建設した。かくて大王はこの大帝國を政治的に統



戦のススメイ

一すると共に、東西文化の融合を計らんとし、人種及び宗教の統合をはかり、また各地に多くのアレクサンドリヤ市を建ててギリシヤ人
を移し、その學問・美術・工藝・風俗などを傳へ、更にその地の文物をも保存採用した。しかし間もなく大王は病歿して大帝國は瓦解したが、
これらの地方に於ける文化は所謂ヘレニズム文化と呼ばれ、その影響は印度・支那・日本等の東洋各地にも及んだ。
323 B.C.

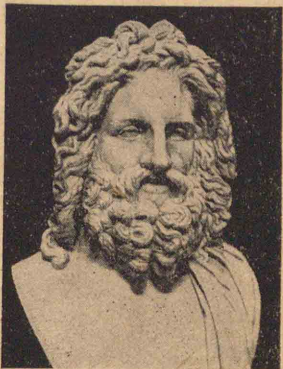
第三章 ギリシヤとその文化(下)

■ギリシヤ文化の發達
ギリシヤ人は自由を尊び、創造力に優れ、聰明なる素質と藝術的天分とをもつてゐたばかりでなく、交通の發達により早くから東方諸國の文化を採り入れ、これを同化した。その上國富み生活豊かにして雑役などを奴隸に委ね、専ら政治・學藝に勵み、物質生活よりも精神生活を尊んだので、哲學・文學・宗教・藝術など大

【圖説(上)】
ゼウスはオリムポスの山上雲深き處にある金殿玉樓に住み、天地萬物を支配すると考へられてゐた。

1 宗教

【圖説(下)】
巫女が神域内の三脚机の上に坐し、神を念じ、神の言葉を口走ると、それを僧侶が書き記すのである。ゼウス、アポロ等の神託は最も重んぜられ、國家の重大事をそれによつて決定した。



スウゼ

いに發達し、ギリシヤ文化は後世西洋文化の母といはるゝに至つた。

【宗教と哲學】 ギリシヤ人は自然及び自然現象を神として崇拜し、その神はまた人間をも支配すると考へてゐた。彼等は最高の神ゼウス、その妻ヘラ、その他アポロ・ミネルヴァなど多くの神を深く信仰して、宏麗な殿堂に奉祀し、またこれらの神を中心として團結し、大祭を行ひ、神託をうけて大事を決した。

ギリシヤ神話 これらの諸神に關する傳説は

ギリシヤ神話として名高い。ゼウスは天地萬物を主宰し、國家の運命を支配し、ヘラ(ジュノー)は婦人の運命と結婚とを掌り、アポロは日輪の神としてまた男子の運命を、アレス(マールス)は軍事



託 神

【圖説(上)】
ナポリ博物館藏

2 哲學

【圖説(下)】
向つて左はプラトーン、右はアリストートル。これは十六世紀の頃ラファエルの畫いたもので、ローマのヴァチカン宮殿内の壁畫の一部である。

1 文學



ステラクソ

を、ミネルヴァ(アテナ)は智恵と藝術とを、ミューズは文藝を掌つた。これらは後世の文學・藝術などにも深い影響を與へてゐる。

ス時代にソクラテス出でて深く人生問題を考究し、その高弟プラトーンは人間の理想について考へ、アリストートルは諸學を大成してギリシヤ哲學を完成した。これらは現代に至るまで西洋哲學の基礎をなしてゐる。

【文學と藝術】 ギリシヤ人はまた正しく美しいギリシヤ語で、多くの詩や文章をつくつた。古くはホー



ルトートスリアとートラブ

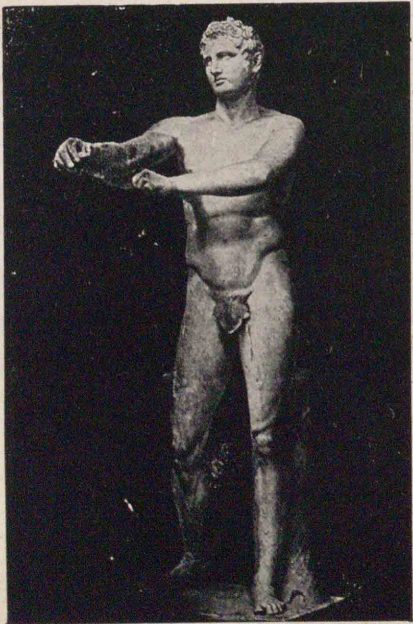
(一) 術美のヤシリギ



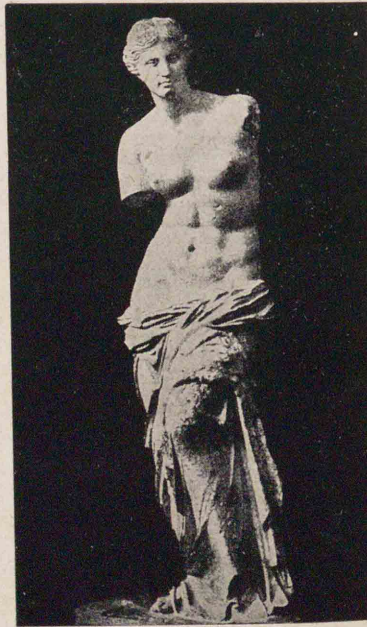
投盤圓②



像ヲテア①



スネメシキゴア④



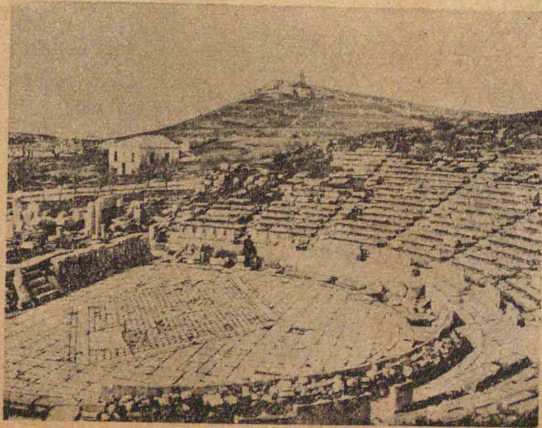
スナイヴのロミ③

【圖(上)】ギリシャ最古の大詩人、その叙事詩は吟詠に適する流麗な文體である。像はローマのカピトル博物館蔵



— マ — ホ

マーがイリヤッド・オディッセーの叙事詩をつくつたが、ペリクレス時代にはエスキルス・ソフォクレス・アリストファネス等が立派な劇詩をかいた。またヘロドツスは散文で古代諸民族の歴史をかき、史學の父と稱せられる。

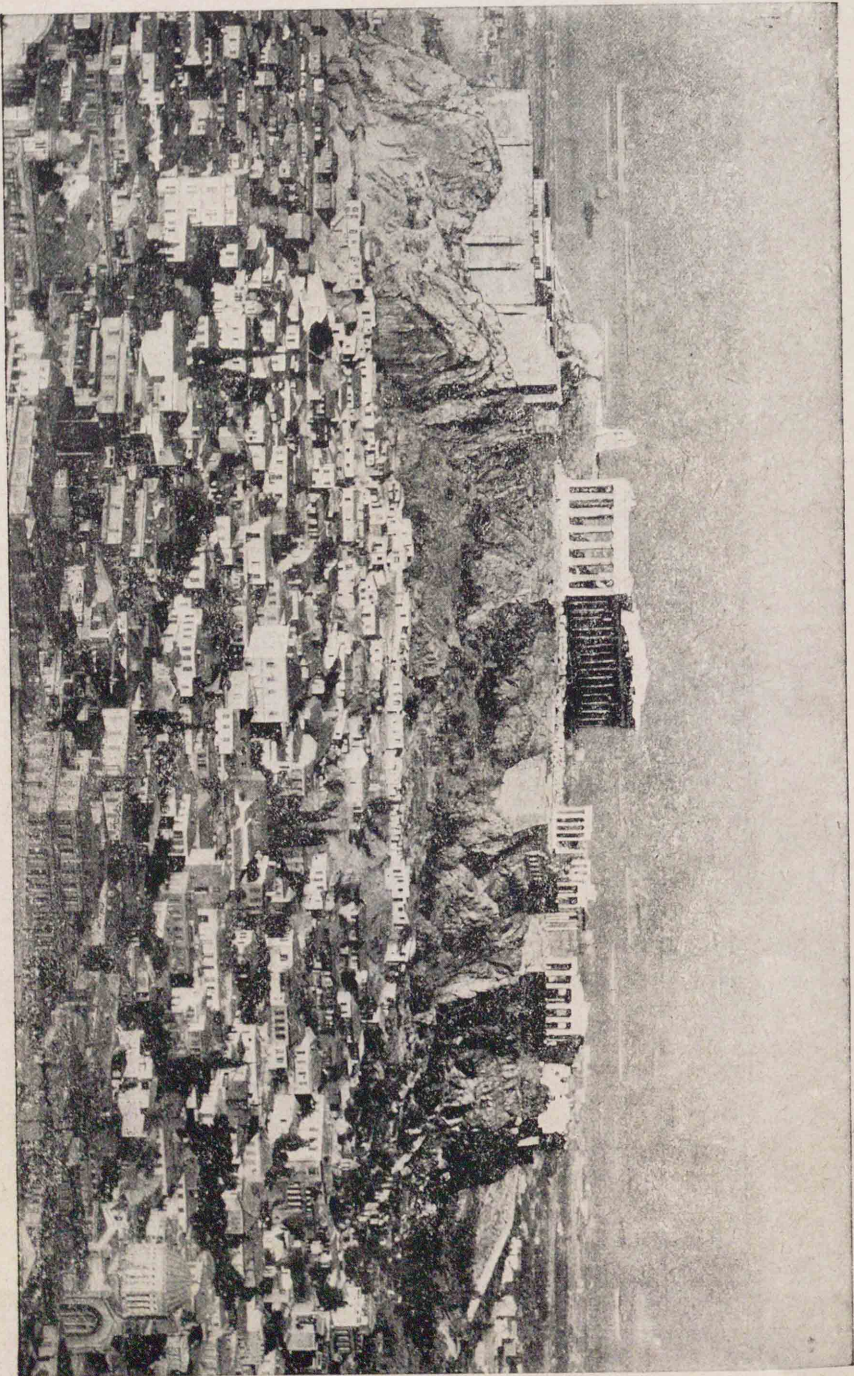


址場劇ヤシリギ

2 藝術

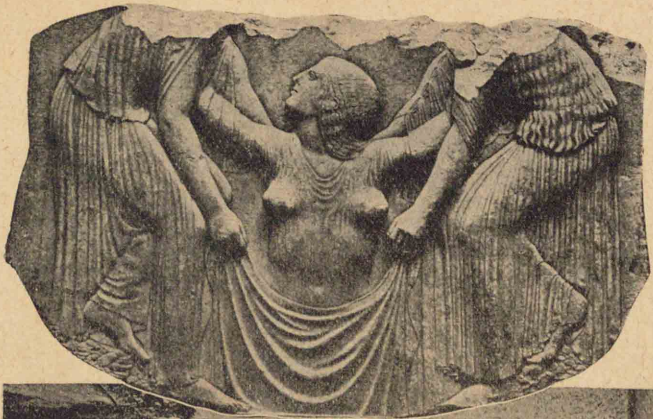
【圖(下)】アテネ市アクロポリスの麓にある劇場址で、本圖には半圓形の演技場と階段状の観覧席とがよく現はれてゐる

史をかき、史學の父と稱せられる。藝術には大理石で造つた宏麗な建築や美しい彫刻がある。建築にはペリクレス時代にアテネの中央丘上に建てられたパルテノン殿堂をはじめ、各地に莊嚴華麗な神殿があり、彫刻には神聖な神の像、オリンピックの勝者等主として人物が多く、フィヂヤス・プラクシテレス等が不



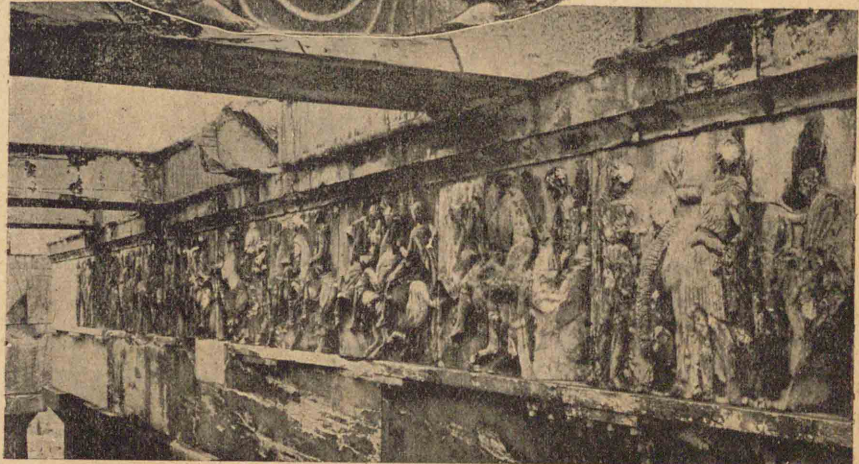
⑦ 島の都市ミティレネ

(三) ギリシャの美術



⑤ 美神の誕生(左)
⑥ パルテノン神殿内壁(下)

ギリシャの美術 (二)



ギリシャの美術 (一)

① アテナ像の原作は、フィヂヤスが心血を濺いで彫刻し、パルテノン神殿に安置せるもので、聰明端正にして莊重なる顔容を現はしてゐる。
② 圓盤投はミロンの原作。雄々しき青年が將に圓盤を投げんとする瞬間を刻み、よくその運動美を捉へてゐる。
③ ヴィナス像はミロの作といはれ、ギリシヤ婦人の典型的な肢體美を表現してゐる。
④ アポキシメネスの原作はリシッパスといはれ、ギリシヤ青年の均齊美を現はしてゐる。
⑤ 美の女神ヴィナスが二人の侍女に扶けられつゝ、水中より生れ出づる優雅簡素な浮彫(作者不詳)である。
⑥ パルテノン神殿の内側面(長押の中層)にあるもので、ギリシヤ市民の祭典に於ける華かな浮彫群像である。

(四) 術美のヤシリギ



⑤ テセイオン

ギリシヤの美術 (三) (四)

⑦ アクロポリス。本圖はその昔アテネの中心をなしてゐたアクロポリスの丘を北方空中より撮影したもので、前面は人口四十八萬を有する現代の都市アテネ、後方遙かにピレウスの港を望むことが出来る。

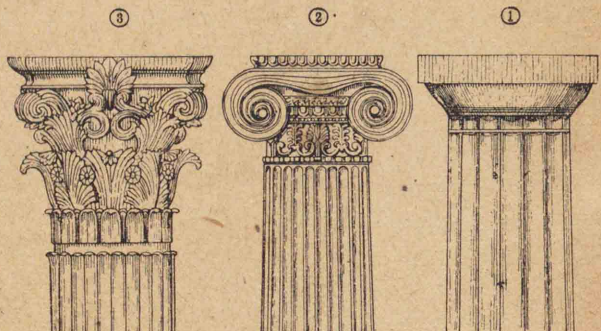
アクロポリスは海拔一八〇米ばかりの石灰岩丘で、丘上には、中央に名高きパルテノン神殿、その右方にエレヒテオンとニケの兩神殿があり、右端に入口の正門があつた。神殿は何れも純白の大理石をもつて築かれ、雄大莊嚴の氣にみちてゐた。廢墟となりながらも、南歐の丘上に聳ゆるこの偉容は、まことに往時の盛觀を偲ばせて餘りあるものがある。

⑧ テセイオン。アテネの勇者テセウスに捧げられた殿堂で、アクロポリスの麓にある。建築はドーリア式の莊重雄偉なもので、今もなほ觀るものの曠賞をほしいままにしてゐる。

- ① ドーリア式
② イオニア式
③ コリント式

1 數學・物理學
右はヘロン(前二世紀頃)の消火ポンプ、左は蒸氣力應用機械

2 アレクサン
ドリア圖書館



式様三の築建ヤシリギ

朽の傑作を遺した。建築彫刻もまた後世の模範と仰がれてゐる。

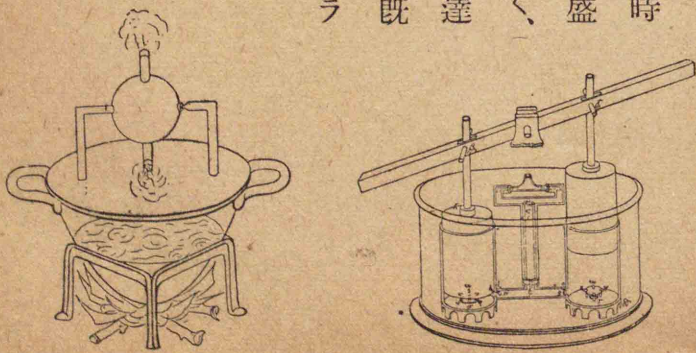
四 科學

ギリシヤ風時代には、哲學・學藝等が盛であつたばかりでなく、科學もまた著しい發達をなした。數學では既にギリシヤにピタゴラス(前六世紀頃)が現はれたが、この頃エウクリッドが

出で幾何學に秀で、アルキメデスは物理學に

優れて多くの原理を發見した。アレクサン
ドリアには學藝書數十萬冊を藏する一大圖

第三章 ギリシヤとその文化(下)



械機學科の代時風ヤシリギ

書館があつたといはれ、學藝の中心となり、天文學・地理學・醫學及び動物學もまた大いに研究されてゐた。

【總括】

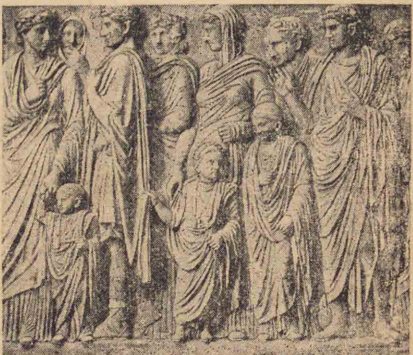
ギリシヤ文化の特質は自由の精神を尊び、人間性を究め、獨創的な美の世界を發見するにあつたといふことが出来る。これらのうち或るものはローマに傳はり、中世紀に研究され、近世初頭に復興し、以て現代西洋文化の基調となつた。なほ印度の佛教藝術にも影響してガンダーラ様式佛教藝術を産んだが、それがまた支那朝鮮を経て我が國に傳はつた。推古式建築及び佛像にはその面影が認められる。ギリシヤ文化と民主政治形態とは共にギリシヤ人が世界文化に貢獻せる最大のものといつてよい。

第四章 ローマとその文化(上)

1 國民性
2 文化の傳播
3 ギリシヤ藝術と我が文化
1 國民性
2 文化の傳播
3 ギリシヤ藝術と我が文化
ローマの國情
ギリシヤが東方に榮えてゐた頃、西方イタリア半島にはローマ人(ラテン人等)が興起した。ローマ人は農業を主とし、質

2 家族制度

これはアウグスツスの偉大なる功績を記念するために建てられた平和の祭壇にありし浮彫の一部である。彼(右端及び夫人、子供等)を見ると堅實溫和にしてよく融合せる家族の姿がうかがはれる。

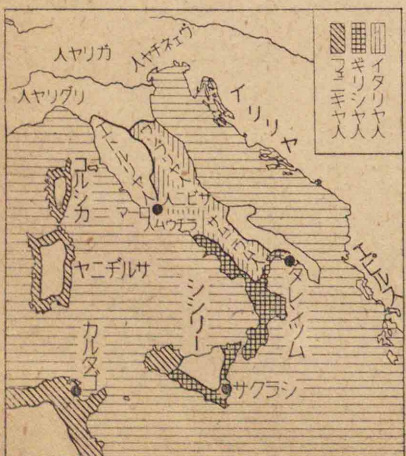


ローマ人の家族

實剛健にして武勇の氣象に富み、且つ家族制度を重んじ、家名を尊び、家長権が強大で家族は絶対にこれに服従してゐた。従つて國家に對しても一致團結して奉公の念に富み、一身を捧げて國家のために盡す犠牲的精神が盛であつた。ローマがやがて諸民族を征服して強大な國家を建設したことも、この國民精神に負ふところが多い。

2 諸民族征服
1 建國
この國民精神に負ふところが多い。

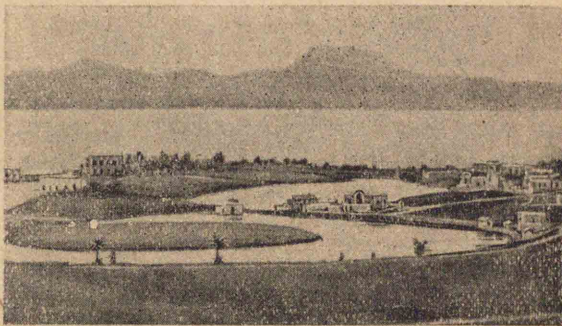
ローマの興隆
ローマは紀元前五三年に建國したといはれ、チベル河畔に都を定めて、後次第に諸民族を平定し、紀元前二七二年遂にイタリア半



上古イタリア要地圖

3 諸民族統治

圖 中河のやうに
彎入してゐると
ころは即ち昔の
カルタゴ港の跡
である



城廢のゴタルカ

島の大部を統一した。ローマはこれらの征服地を巧に統御し、要處にローマ人を移住せしめ、また軍道を開いて聯絡を便にした。

やがてローマは海を越えてその頃アフリカの北部に勢力のあつたカルタゴを攻め、ここにポエニ戦役が始まつた。

ポエニ戦役 *Punic War* カルタゴは航海貿易によつて國富み、強大な海軍を擁してゐた。ローマは海軍弱く最初敗れたが、敵艦を模して軍艦を造り、その戦法を研究してカルタゴを破つた(第一回)。ついでカルタゴの

勇將ハンニバルがイタリアに侵入してローマの大軍をカンネーに破つたので、ローマは一時危かつたが、名將スキピオが急にカルタゴの本國を襲ひ、ザマの戦いでハンニバルの軍を破つた(第二回)。その後カルタゴは孤城を守ること三年、擧國一致して戦つたが、奮戦及ばず遂に屈した(第三回)。

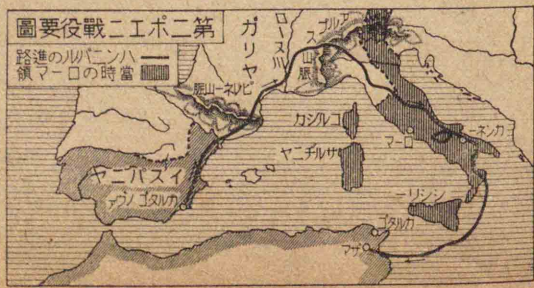
5 カルタゴの滅亡

6 東方征伐

かくてローマは前後三回に互り約百二十年間を費して、遂にカルタゴを征服した。

この頃またローマは東方を征伐した。即ち紀元前一九〇年にはシリヤを攻めて小アジアを奪ひ、カルタゴ滅亡の年ギリシヤ・マケドニヤをも併呑した。ここに於てローマは地中海沿岸に互る大國家を建設することが出来た。

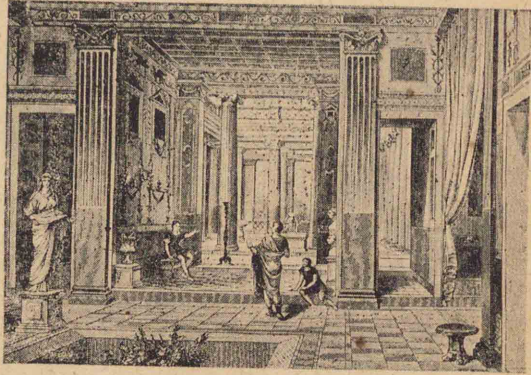
- 1 王政
- 2 共和政となる
- 3 社會上の變化



ローマの政治 *Rome* ローマは初め王政であつたが、紀元前六世紀の末共和政となつた。けれども貴族は常に權力を専らにして平民を壓迫したので、その闘争は久しく續いた。しかし紀元前四世紀の末リキニウス法の公布により、貴族平民とも殆ど同等となつて、多年の闘争は止んだ。

ローマには地中海沿岸征服後、海外の屬州より莫大なる富が流入

④ **4 貧富兩黨の争**
ポンペイ市より發掘した家屋によつて構圖したものである。家屋の中央に石を敷きつめた廣間、噴水のある廣間、花園などが連なり、その周圍に多くの部屋があつた。内部の柱、天井、壁床などの裝飾は實に壯麗である



部内の庭家流上マ一ロ

したため、多くの富豪が現はれたが、これらの富豪は廣大なる土地を兼併し、諸種の公職を獨占して勢力を占めた。これに反して奴隸使用の風は國民に失業者を増さしめ、且つ安價なる穀物の輸入は國家の中堅たる農民を貧困に陥らしめた。そのため貧富兩黨の反目鬭争が絶えなかつた。ゲラックス兄弟はこれを改革しようとしたが失敗し、貧富兩黨は社會上政治上に愈々激烈な争を起し、國內は紛擾を極めた。

1 三頭政治

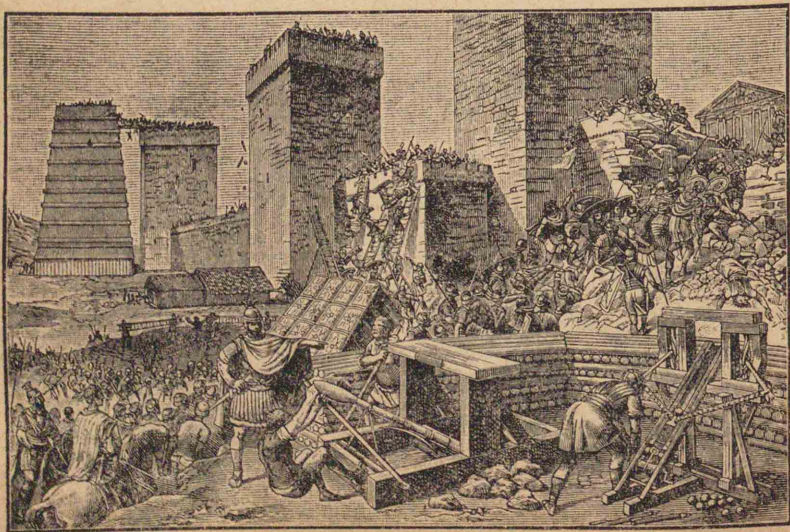
④ **ケーザルの偉業** この時貧民黨から偉大なる英雄ケーザルが現はれて、ポンペイウス、クラッススと共に所謂三頭政治をたて、三人が政治の要職について權勢を専らにした。ケーザルはやがてアルプス

2 ケーザルの武勳

を越えてガリヤ(今のフラ)を平定し、ブリタニヤ(今のイギリスの地)の南部を従へ、更に彼を敵視せるポンペイウスを追つてエジプトに入り、轉じてシリア、アフリカ沿岸及びイスパニヤを征服し、大いなる武勳を輝かしてローマに凱旋した。かく

3 ケーザルの内治

てケーザルは文武の大權を一身に集めて帝王の如く、弊政の改革、貧民の救済、産業の保護、曆法の改正などを斷行して、大いに國運の發展を計つたが、反對派のため共和政を破壊するものなりとて暗



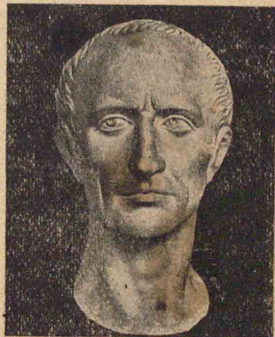
城攻の軍マ一ロ

4 ケーザルの人物

○ケーザル
●崇神天皇の御代

この圖によつて彼の偉大なる人格と絶倫なる精力とを窺ふことが出来る。元老院にて殺さる時は身に寸鐵を帯びず、二十三日をうけて薨れた。葬儀の時アントニウスは棺前で演説して市民を感動させたといはれる

1 第二回三頭政治



ルザーケ

殺せられた。

44 B.C. ケーザル ケーザルは名門の家に生れ、少年の頃身體虚弱であつたが、よく節制を守り體力を練つた結果、非常に偉大な體格と絶倫なる精力とをもつに至つた。その上、文事にも長じて法律歴史天文詩文辯論等に優れ、彼の著はしたガリヤ戦記などは名高く、エジプトから輸入したジュリヤ曆も十六世紀頃まで使用せられた。彼こそは文武兩道に秀でたローマ第一流の英雄であつたといへる。

5 アウグスツスの帝政

Octavianus
アントニウス等と共に第二回三頭政治をたてたが、アントニウスがエジプトのクレオパトラと結んで専横を極めたので、彼はこれを討ち、更に進んでエジプトをも征服してローマに華やかな凱旋式をあげた。これより彼の威名は天下に高く、元老院よりアウグスツスの尊號を

帝の皇后の別荘址から發掘された大理石彫刻による。左手に持てる棒は皇帝の権力の表章である

2 帝政實施

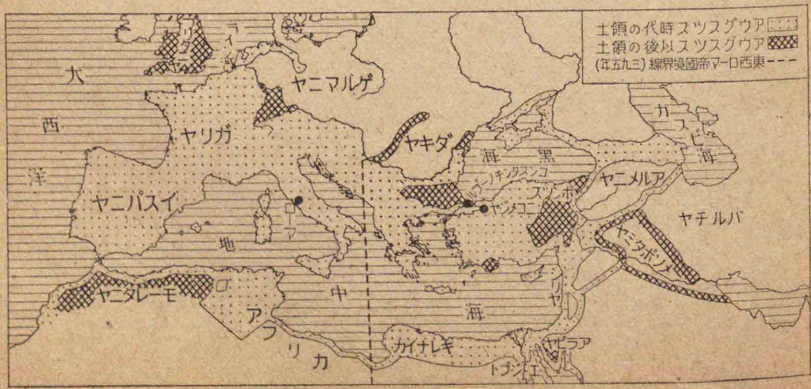


スツスグウア

うけ、ローマの全權を握り、須要なる官職を一身に集めて、帝政を行ひ、共和政は名のみとなつた。史家は以後を帝政時代といふ。

3 大帝國の政治

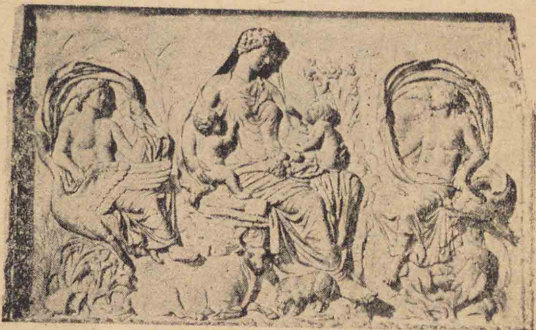
アウグスツスはローマの大版圖を治むるため、諸所に城壁兵營等を設けて防備を嚴にし、交通を開き、産業を奨め、土木を起し、建築を營み、また文藝を奨励したので、ここにローマの黄金時代が出現した。



圖裂分西東と圖版の國帝マロー

1 ローマの平和

【圖説(上)】
 アウグスツスのためにたてられた「平和の祭壇」の正面にある浮彫である。左右には空と水とを象徴する女神が坐し、中央には五穀ゆたかな樂土に大地の母なる女神がその子(民)を慈んでゐる。



ローマの平和の象徴圖

え、國民の権利も伸張して法治的の制度も整ひ、ローマ文化は廣くその領土内に傳播さるるに至つた。

しかし三世紀から四世紀に互つて、上に



ローマの forum

2 帝國の没落

【圖説(下)】
 ローマ市にあるフォーラム遺跡でローマ時代の宏麗なる殿堂が立ち並び政治上・社會上の中心地であつた。

は良君出でず、下軍隊は國民皆兵の制が廢れて傭兵を主としたため、奉公護國の精神を缺くばかりでなく、遂には政治上に跋扈して皇帝を廢立し、または暗殺した。また國民は安逸を貪り遊惰に陥つて質實剛健の風なく、個人の幸福のみを追つて國家を思ふの念に缺け、國民精神は著しく頹廢した。社會經濟上に於ても大地主が出現して中産階級が没落し、貧民が著しく増加した。かくて帝權は漸く弱くなり、國內は亂れ、蠻族の侵入などあつて國運は著しく衰へた。

3 帝國の分裂

やがてコンスタンチヌス大帝が出て、内亂を鎮め、再び帝國を統一して、都をコンスタンチノーブルに定め、一時は國勢も伸張したが、帝



コンスタンチヌス大帝

の歿後はまた衰へ、遂に三九五年東西ローマ帝國に分裂した。西ローマ帝國は四七六年に滅亡したが、東ローマ帝國はその文化と共に長く續いた。

○西ローマ帝國の滅亡
 ・雄略天皇の御代

第五章 ローマとその文化(下)

1 生活と文化

ローマ人は一般に男女とも體格が立派で質實・剛健・雄偉な姿があらはれてゐる。服装はトীগと稱する布を身體に巻いてゐた。女子の服装はギリシヤ風を多く加味してゐた。

2 国民性と文化

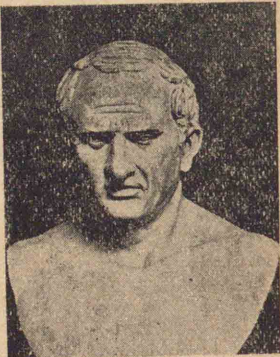
ローマの文化 ギリシヤ人が精神生活を尙んだのに反し、ローマ人は實際生活を重んじた。ローマの文學・哲學・美術・工藝等は何れもギリシヤ文化の模倣であり、宗教もまた外國より輸入したものであるが、家族・社會・國家等の團體生活を尊び、法治的精神に富み、且つ組織的に統一する長所があつたから、法律・制度等がよく發達した。その上廣大雄偉なことを好んだから、壯大な建築・土木が到るところに設けられた。



羅馬人の服装

1 ラテン文學

キケロは哲學・政治・雄辯等にすぐれ、また公平・正義の士として陰謀・不正等を得意の辯舌を以て摘發し、名聲を博した。その文章もまたラテン文學の模範といはれてゐる。



黄金時代を現出した。その他ローマ人は、歴史を重んじ、雄辯術・修辭法などを研究した。タキツスは歴史家として優れ、キケロは政治家にしてローマ第一の雄辯家といはれた。

2 實用學

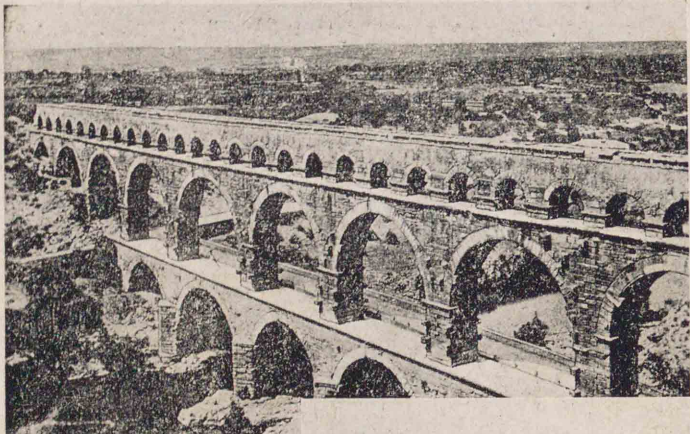
1 生活と法律

2 法典編纂

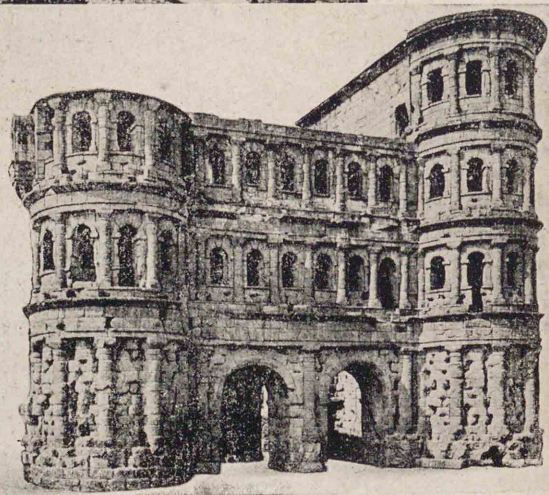
法律と法典 法律はローマ人の社會國家生活上最も必要なものであつたから、特によく發達した。既に共和政時代に十二表法(Law of Twelve Tables)の成文律をつくつたが、その後官吏・裁判官・皇帝等より多くの法律・訓令が發布され、それによつてローマ人の權利・義務が確保され、安寧秩序が維持された。従つて法律の研究や法典の編纂が大に行はれ、ローマ法典は後世の模範となるに至つた。

土木建築 ローマの土木建築は、實用的にして偉大なことが特色であり、ギリシヤの様式にエトルリヤ(ローマの北部にゐた民族)のアーチ形を混用し

(一) 跡遺の代時マ-ロ



ガール橋(左)
フランスのニームといふ町に水を引くためにつくられたローマ時代の水道(最上段と橋梁(下段)で、アーチ形建築を用いたものである。



トリエルの城門(右)
ドイツのトリエルの遺る城門である。ドイツにはこの外アウグスブルグ・マインツ・ケルン等にローマ時代の遺跡がある。



オランジュの凱旋門(左)
フランスの南、ローヌ河中流のオランジュにある大凱旋門、紀元十二年アウグスツス帝によつて建てられたものである。

2 娯樂的・實用的建築

カラカラ帝の建てた大浴場の復原圖 廢墟は今ローマ郊外にあり、右方の建物は入浴前後の大娯樂場である

1 初めは質實剛健

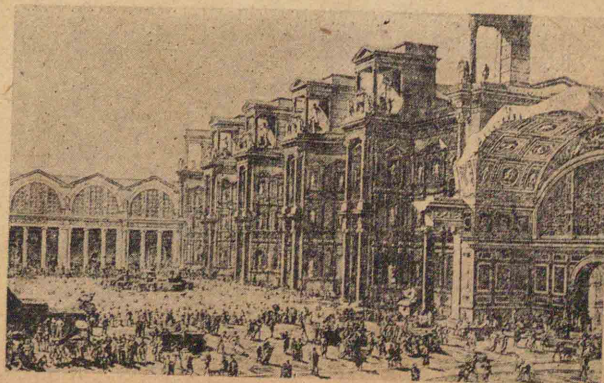
2 後に風俗頹廢す

1 キリストの出現

て新形式を造つた。凱旋門・記念碑・大浴場・劇場・圓形競技場は戦勝記念及び娯樂のために、道路水道橋梁等は實用のために、パルテノン・神殿・宮殿等は宗教用・政治用のものであつた。しかし娯樂のための建築はローマの風俗を益・頹廢せしめた。

風俗 ローマの風俗は、國民精神が緊張してゐた時には質實剛健にして道徳も堅固であつたが、戦勝と富裕の結果、人心弛緩して安逸遊惰に流れ、奢侈の風起り、道徳が頹廢し、市民は劇場浴場競技場等に於て享樂的生活を送ることを喜んだ。

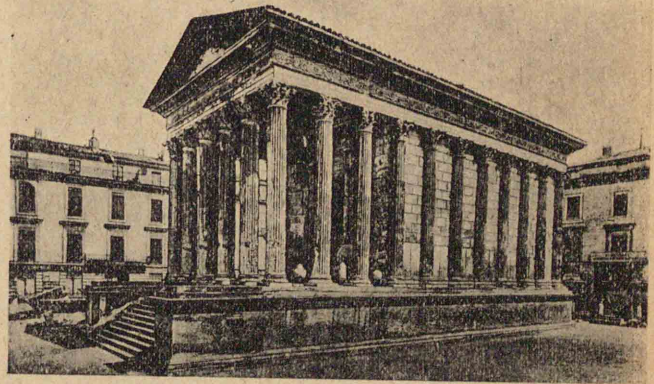
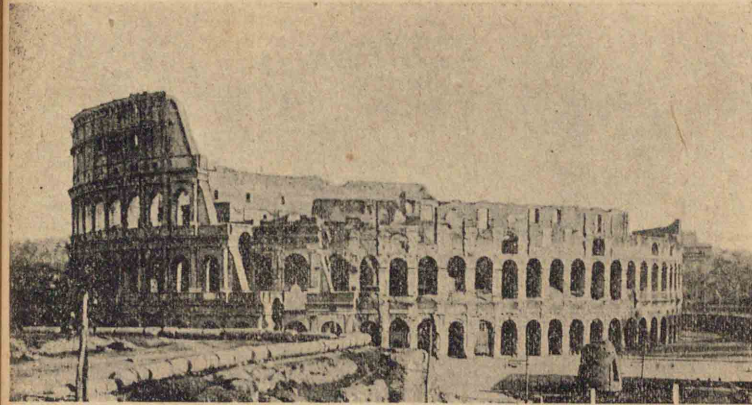
キリスト教 アウグスツス帝の頃、ユダヤにイエスキリストが生



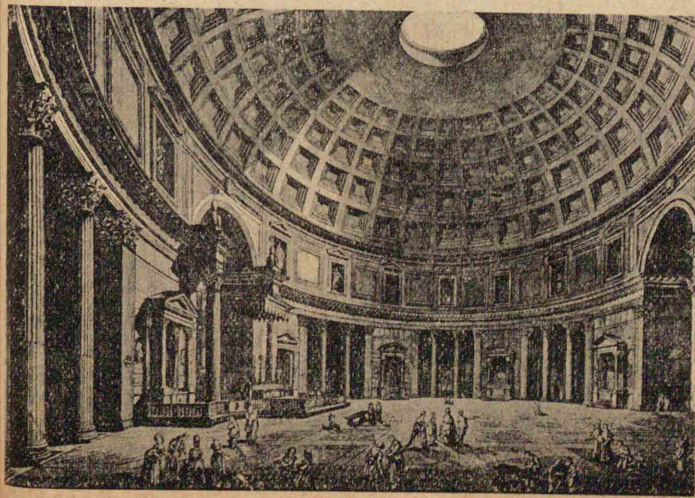
カラカラ大浴場

(二) 跡遺の代時マ—ロ

ローマの大圓形競技場(左)
紀元一世紀の頃竣功。高さ四八米餘。約
五萬人の觀衆を收容したといはれる。



ニームの祠堂(右)
南フランスのニームに残るローマ時代
の小祠堂。完全に保存せられたローマ
時代の建築として大いに珍重せられて
ゐる。



パンテオン殿堂の内部(左)
ローマが諸國の神をまつるために建てたるもの。
この神殿はハドリアヌス帝の時の建造といはれ、
大圓蓋を有する特殊な建築である。

れ、ユダヤ教の教義を改善し、愛に基づきキリスト教を説いた。

キリスト イエスキリストは紀元前四年ユダヤのベトレヘムに生れた。母を

マリヤといふ。二十九歳の頃ヨハネといふ豫言者

の洗禮をうけ、後大悟して、自ら天帝の使者と稱して
説教を始めた。やがて彼を信する者も多くなり、救
世主として仰ぐに至つた。けれどもユダヤ人が望

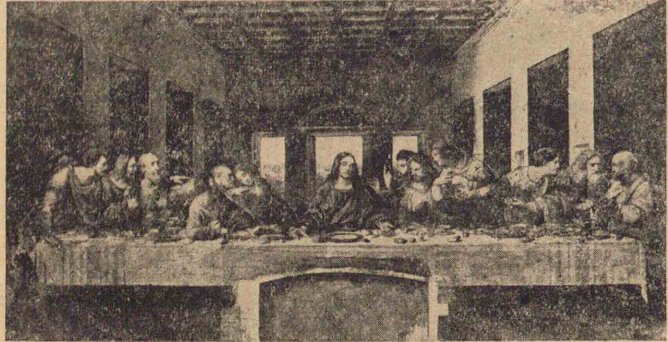
んでゐたのは現世に富み榮ゆる王國であつたのに、
彼は神の王國即ち精神的天國を説き、この世の富や
名譽を捨てて四民平等なる神の愛と幸福の世界と
を説いたので、大いに失望し、彼を偽善者なりと罵り、
ローマの役人に訴へた。キリストは後遂に捕へら
れ、十字架上で刑死した。キリストの傳記や教義は
新約聖書に詳しい。

キリストの教義はその後、ペートルやパウ

Peter Paul

2 キリスト教の弘通

レオナルド・ダ・
ヴィンチの筆で
イタリヤ、ミラ
ノ一寺院の壁
畫。紀元二九年
四月逾越の祭の
夜弟子達を集め
て、この中に我
を賣るものあり
と告げ、弟子達
が驚く中に自ら
は靜かに最後の
晩餐につく圖で
ある



最後の晩餐

3 キリスト教徒迫害さる

ローマでキリスト教が迫害された時代に信徒はこの墳塋(カタコンブ)で秘密に信仰をつづけた



ローマ初期キリスト教の信仰の跡

4 教會組織の完成

シウス帝の時國教としてすべての國民にこれを信仰せしめた。かくてローマ・コンスタンチノーブル・エルサレム等には大本山が現はれ、各管長があつて教區の宗務を統べ、教會組織が整つて監督牧

師等の僧侶も置かれたので、その基礎は益々固く、また全ローマ領内に廣く傳播さるるに至つた。

【總括】ローマ文化の特質は實際的組織的であるばかりでなく、その領土の如く世界的であつた。従つてその土木建築法律言語宗教等も世界文化に偉大なる貢獻を與へたといふことが出来る。特にローマ法典は世界法典の基礎となり、ラテン語は中世及び近世以降の歐米語に影響するところ多く、キリスト教とその世界精神は、その後長く人心を支配するに至つた。これらの文化は西ローマ帝國の滅亡後もゲルマニヤ民族に繼承されて消ゆることなく、また東ローマ帝國内に於ては東方諸國の文化をも加へて榮え、後漢及び唐の頃は僅かながら東洋にも傳播さるるに至つた。

1 世界的貢獻

2 ゲルマニヤ民族の文化繼承

第二篇 中世史

第一章 ゲルマニヤ民族の移動と建國

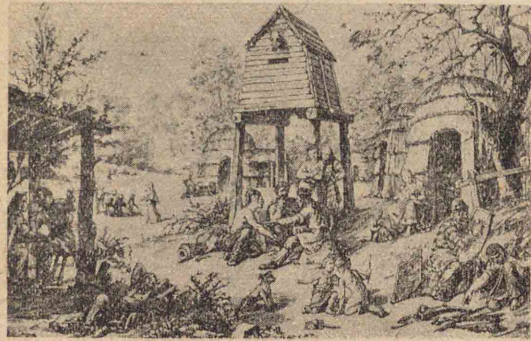
1 民族移動

2 ローマの混

亂

ゲルマニヤ村落の有様で、ローマ市にあるアントニヌス圓柱の表面の彫刻である

3 西ローマ帝國の滅亡



活生の人ヤニマルゲ

ゲルマニヤ民族の移動 ゲルマニヤ民族はローマ帝國の北部に住み、狩獵・農牧を營む勇猛好戰の民族であつたが、四世紀の中頃、東方のフン族匈奴に追はれて移動を始め、相ついでローマ領内に侵入した。その頃ローマは國民精神頹廢して力なく、國を守るに傭兵ヨウヘイを以てする程であつたから、國內は蠻族の荒掠クワリヤクにまかせ、混亂凡そ百餘年の後、遂に四七六年西ローマ帝國は傭兵の長オドアケルオウデアケルのために滅ぼされた。かくてアウグスツス以來凡そ五百年を保つた帝國

4 ゲルマニヤ民族の建國

ドイツ畫家デュレーの作、ニューロンベルヒ市ゲルマニヤ博物館所藏。左手に握る地球に十字架を附けたのは神意による世界統治の意、また劔は武力征服の意を示す

の大半は四分五裂し、華やかな文化もまた荒廢するに至つた。

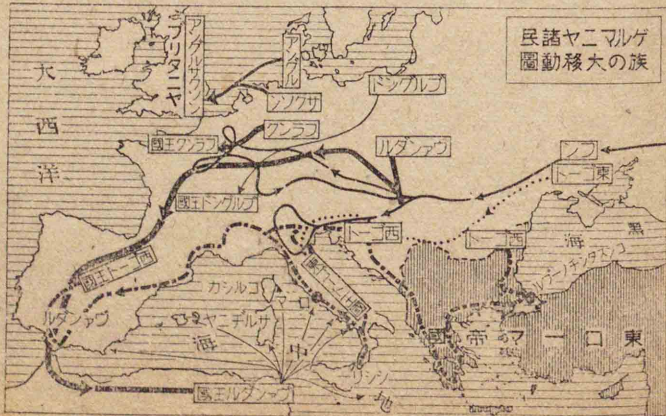
その間に、ゲルマニヤ民族中の西ゴート族はイスパニヤに、ヴァンダル族はアフリカ北部に、フランク族はガリヤ北部に、アングロサクソン族はブリタニヤ南部に、Anglo-Saxons フランクスに國をたてた。これらのうち最も盛となつたのはフランク王國とイングラン



帝大スルーヤチ

ド王國とである。フラン

ク王國 フランク王國では九世紀の始、チャールス大帝Charlesが出て、各地に征戰し



圖動移大の族民ヤニマルゲ

1 チャールス大帝

チャールス大帝はその都アーヘンに寺院を建て、ローマの文化を盛んに採用した。圖の中央にある六角形の禮拜堂は即ちローマ様式で、内部の裝飾など實に立派である。

2 内治と文教

○チャールス大帝
●桓武天皇の御代

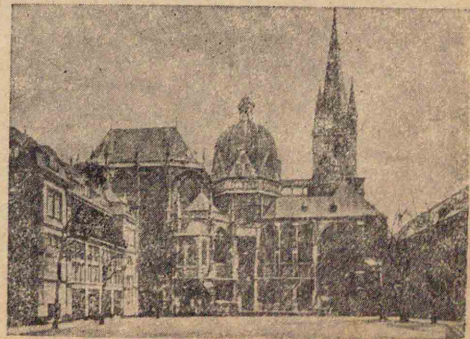
3 帝國の分裂

4 ドイツの起原

て大いに領土を擴め、ゲルマニヤ諸部落をも統一し、また領内にキリスト教を弘布せしめたので、ローマ教會より皇帝の冠を授けられ、西ローマ帝國を再興した。

大帝は都をアーヘンに定め、地方制度を整へ、産業を勵まし、教育を奨め、學問の興隆を圖つたので、數百年間混亂してゐた西ヨーロッパの天地もやうやく整頓され、一たび蹂躪されたローマ文化もまた復興するに至つた。

しかし大帝の死後、その子孫は遺領を争つて國亂れ、ヴェルダン條約メルセン條約によつて東西フランクとイタリヤの三國に分裂した。東フランク國には十世紀の中頃オットー一世が出て北イタリヤを平定し、ローマ教會より帝冠を授けられて神聖ローマ皇帝となり、ドイツ國の基礎を築いた。西フランク國には十世紀の終り頃、ユーグ・カペーが出て王統を確立し、フランス國の起原をなした。



院寺ンヘーア

5 フランスの起原

フランスのパユに殘る十一世紀頃の刺繍の一部である。

1 イングランド王國の成立

2 ウィリヤムの勝利

3 ウィリヤムの内治

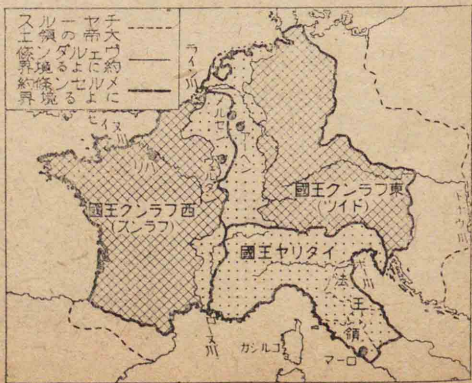


入侵ドンラゲンイのムヤリィウ

ツ國の基礎を築いた。西フランク國には十世紀の終り頃、ユーグ・カペーが出て王統を確立し、フランス國の起原をなした。

■ イングランド王國

アングロ・サクソン族は始め七王國を建ててゐたが、九世紀の頃統一せられてイングランド王國となつた。その後ノルマンディー公ウィリヤムが海を渡つて侵入し、ヘースチングスの戦に勝つてイングランドを征服し、王統を確立した。王は文物制度を整へ、よく國內を治めたので、この頃から國力が益々充實した。



圖裂分のそと土國の帝大スルーチ

かくてゲルマニヤ民族によつて、今日のドイツ・フランス・イギリス諸國家の基礎が築かるゝに至つたのである。

第二章 中世初期に於ける東方の形勢

ゲルマニヤ民族が西ヨーロッパに活躍してゐる間に、東方では東ローマ帝國とサラセン帝國とが相ついで榮えた。

東ローマ帝國 東ローマ帝國は、ゲルマニヤ民族の侵入後一時衰へたが、六世紀の始、ユスティニアヌス帝が即位してから國勢大いに伸張した。大帝は廣大な領土を得て内治に勵み、キリスト教内部の紛争を鎮め、ネストル教(支那では景教といふ)を排して宗教的・社會的不安を一掃し、セントソフィヤ以下多くの寺院を建立して



ユスティニアヌス大帝とその隨員

1 ユスティニアヌス大帝の治

イタリヤ、サン・ヴィタレ寺院内部の寄石細工(モザイク)である。その色彩は燦然としてまことに壯麗である。

宗教を盛にした。またトリボニヤヌス

Triboonianus

以下の法學者を集めて有名なローマ法典を編纂して後世の模範とした。帝はなほ壯麗なる宮殿寺院等を建築して帝都を飾つたが、複雑なアーチ形の建築様式や内部の華麗なモザイク裝飾等はビザンツ式藝術の粹として尊ばれた。

Byzantine

ビザンツ文化 ローマ文化が西方に於て蹂躪されてゐた頃、東方に於てローマ文化が立



セントソフィヤ寺院の外観

2 ビザンツ文化

この寺院はイスタンブールにある、ビザンツ建築の代表的のもので、内部の裝飾は多彩なモザイク・大理石等を以てし、絢爛を極めてゐる。しかし十五世紀にトルコ人の有となつてから回教寺院に使用され、四方の尖塔などが増築されて原形が餘程變つた。

派に保存せられ、ビザンツ文化として花を開いたことは、世界文化のため誠に幸福なことであつた。ビザンツ文化は現今トルコ・ギリシヤ・イタリヤ等に多くの遺跡を残して居り、近世初期の文化に大きな影響を與へてゐる。

サラセンの興起

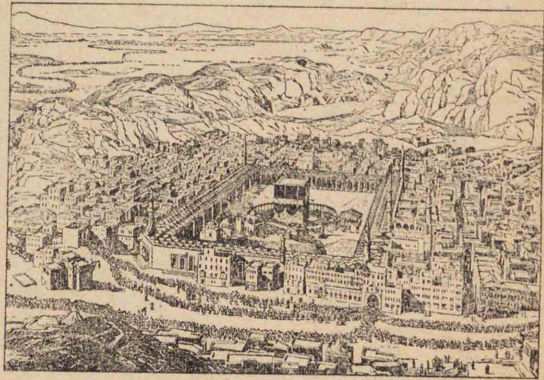
Saracens

サラセン人はアラビヤ地方に住み、遊牧と隊商

1 マホメット教

2 政治と宗教

回教の靈場として毎年回教信徒の巡禮者が多い。廻廊で囲まれた廣庭の中央にカーバといふ方形の建物がある。その中に黒色の隕石があつて信徒は七度カーバを廻つた後その隕石に接吻する



メッカの靈場

とを業としてゐた。七世紀の始、マホメットが出て、マホメット教を創め、自ら天帝アラの豫言者と稱して説教し、宗教によつて諸部落を統一した。彼は紀元六二二年メッカ市民の迫害をうけてメヂナ市に逃れたが（これをヘジラといひ、回教にて紀元元年とする）、その後武力を以てメッカを回復し、更にアラビヤ全土を征服し、進んで東ローマ帝國を侵さんとして病死した。

1 領土の擴張
2 帝國の分裂

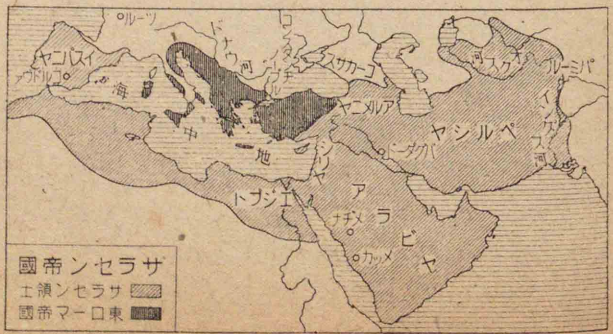
リフといひ、政治、軍事、宗教上の大權を握つてゐた。歴代のカリフは教祖の意志をついで熱心に征服と布教とに従事したので、その宗教と版圖とは大いに弘まり、東は印度より西はアフリカを経てイスパニヤに至る廣大な帝國となつた。その後東西二國に分裂し、東サラ

3 帝國の隆盛

セン帝國はバグダードに都してアジャ・アフリカを支配し、西サラセン帝國はコルドヴァに都してイスパニヤを治めた。この兩國は東西相競うて學藝を奨励し、航海貿易を盛にしたので、八世紀の後半より九世紀に入つて著しく富強となり、文化も榮えた。

1 交通と商業

四 サラセン文化 サラセン人はもと商業に長じ、遠く支那、唐、印度にまで貿易すると共に、東洋の文化を西歐に移植することに力めた。貿易品の主なるものは、支那の火藥、火砲、絹、陶器、印度、南洋の香料、寶石、アラビヤの薔薇、サフラン、織物などである。サラセン人はまた土地不毛なるにも拘はらず農業を勵み、工業をも營んで



2 農・工業

リンネル・モスリン・天鵝絨等の織物及び紙などを多く製造した。

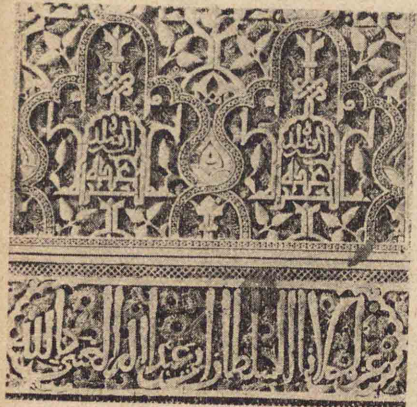
3 學問

學問では科學が發達し、特に天文學、數學、理化學に優れ、その他地理、歴史等も研究した。

天文學は占星術セシジユツなどの必要により大いに發達し、各地に天文臺などが設けられ、數學は十進法によりアラビヤ數字を用ひて代數、球面三角術などを研究し、理化學は錬金術等より發達してアルコール、アルカリ、硝酸、硫酸等を發見した。國內にはこれらを研究する大學も設けられ、從つて當時は西ヨーロッパよりも遙かに優れたる學術をもち、中世紀後半には最新科學として西ヨーロッパに傳播するに至つた。

4 建築

これは多くの曲・直線の外花弁等を探り入れたアラビヤ模様で、材料は漆喰(シッコヒ)を用ひ、彩色を施してある



部一の飾装内室のヤビラア

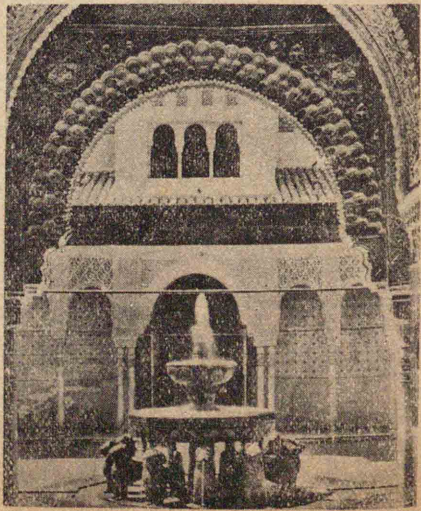
建築は主としてビザンツ様式に則る宏大な寺院、宮殿を建て、内部の裝飾は曲直線等を巧みに配合せるアラビヤ模様、に絢爛華麗なる色彩を施してゐた。コルドヴァの寺院、グラナダのアルハンブラ宮殿などはサラセン美術の粹といはれ

5 サラセン文化の世界的貢獻

この宮殿はイスパニヤのグラナダにあり、アラビヤ建築と裝飾の粹をつくしたものである。本圖は獅子噴水園庭の中心部である

てある。

サラセン人の科學及び藝術が、西歐文化の發達に著しい貢獻をなしたことはいふまでもないが、彼等はまた東洋方面に於ても、大食國人といはれて、貿易の傍ら、マホメット教、回教を弘め、アラビヤ文化を移植することに努めた。かやうにサラセン人は自國の文化を海外に移植したばかりでなく、東西文化を交換融合し、以て世界文化に輝かしき功績をのこした。



庭内の殿宮ラアンハラ

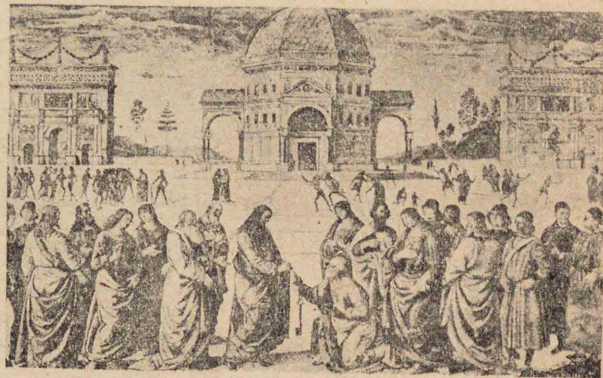
第三章 中世に於けるキリスト教の興隆

マホメット教がアラビヤを中心として興隆してゐた頃、西ヨーロッパ

1 キリスト教の隆盛

ベルヂノの作で、ローマのシヌチン禮拜堂所藏。鍵を與へられたことは全權を與へられたことを意味する。歴代の法王が法王たる印として鍵をうけついでのも、ここに起原する

2 ローマ教會とローマ法王



キリスト聖ペテロに天國の鍵を與へる圖

3 精神界を支配す

のと信ぜられ、また歴代多くの英僧が出たので、最も重んぜられてローマ法王といはれ、多くの教會僧侶を支配すると共に、信者より最も深く尊信せられた。かくてローマ法王はヨーロッパ人の精神界を支配するに至つた。

配するに至つた。

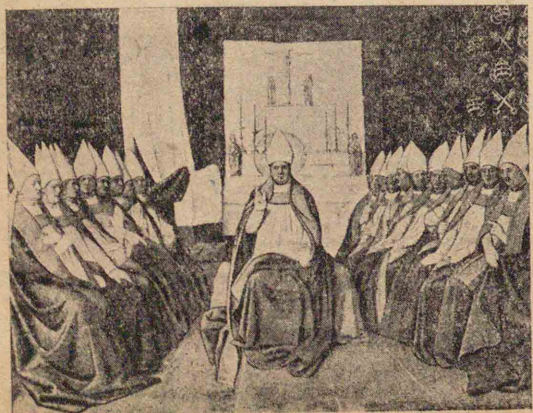
4 東西教會の分裂

これはパールの宗教會議に多くの僧正が集つてゐるところである。一般に宗教會議は宗教上の教義・規範、その他の重要な事を決めるもので、最も重んぜられた

5 法王領

6 世俗界を支配せんとす

然るに八世紀の初葉、ローマ教會は偶像崇拜のことより東ローマ皇帝レオ三世と争ひ、遂に東ローマ教會ギリシャ教會と絶縁し、キリスト教はギリシャ正教とローマ正教とに分るることとなつた。その後ローマ教會はフランク王國の宮宰ピピンが王位を奪つて自立したのを承認して、その正當なることを證したので、ピピンよりラヴェンナの地を寄進せられた。これが法王領の始であり、これよりすべての教會は土地を所有することが許され、それが擴大するにつれ教會の經濟も豊かとなり、社會的勢力も強く、世俗界をも支配せんとするに至つた。



宗教會議

1 世界統一の衝突

【圖(上)】法王が教權を象徴する杖をもち冠をつけ、僧侶の頭に手をかざして僧官任命の言葉をとなへてゐる圖である

2 僧官任命權

3 ヘンリー四世哀訴

【圖(下)】原圖はカノッサ法典挿畫、ヘンリー四世がマチルダ夫人によつて法王グレゴリーに謝罪のとりなしを乞ふ圖



僧官任命圖

れた。ドイツ諸侯の中にはこれを見てヘンリーに叛くものさへあつたから、ヘンリーは遂にイタリヤのカノッサに到つて法王に謝罪し、漸く破門を許された。

その後、教權と政權との争は屢起り、ドイツ及びイタリヤには法王黨と皇帝黨



カノッサの辱屈

【法王と皇帝の争】かくて法王は僧俗兩界を支配し、世界を統一せんとする理想を抱き、遂にドイツ皇帝と覇を争ふに至つた。

法王グレゴリー七世は英才に富んで雄略の志あり、先づ教會を刷新して後、僧官任命權を皇帝より奪はうとした。ドイツ王ヘンリー四世は大いに憤つて法王を廢せんとしたが、却つて破門せら

4 法王の勢力強くなる

1 インノセント三世

2 法王權の強大

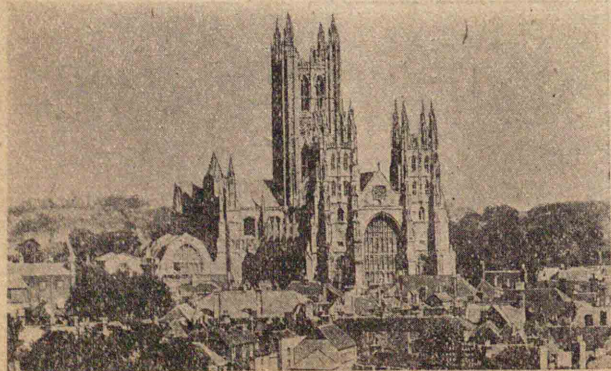
【圖(下)】これはイギリスの有名なカンタベリー寺院である。十三世紀頃の建築であるが、町家よりも遙かに宏大にして堂々あたりを威壓してゐる姿は、まことに中世寺院の社會的勢力を如實に表現してゐる



インノセント三世

は神聖ローマ皇帝を廢立し、フランス王を左右し、イギリス王を破門してその領土を獻ぜしめ、後これを臣下とした。この頃法王の權力は強大を極め、その勢望は全ヨーロッパに及び、帝王諸侯の上に立つてこれを支配し、政教兩權を把握して、殆ど世界統一の理想を成就した。

【教會の勢力】中世の民は學問に暗く宗教心が厚かつたから、精神的に僧侶の言を



ゴシック寺院

信じた上に、教會のためには多くの財物・土地をも喜捨するものが多かつたので、教會の經濟は租税の徴收と相俟つて豊かとなり、廣大なる土地とその住民を支配して諸侯の如く權力を振ふものが多かつた。かくて教會は宏大なる寺院を建築し、權威を以て人民に臨んだから、中世の社會と文化は著しく宗教的色彩をもつに至つた。

④修道院の隆盛 この頃キリスト教會と共に修道院が隆盛となつた。修道院は四世紀の頃ローマに起り、六世紀の頃にはベネデクト

1 ローマ時代の修道院

これは修道院の僧侶が眞心をこめて聖書を寫してゐる圖である。寫經は神に奉仕する大きな道の一つと考へられてゐた。



僧侶寫經圖

Benedict

が僧院を設け、戒律を定めた。その後一般教會が世俗化するに及び、再び修道院が盛となり、十一・二世紀の頃フランスのクリュニーの外多くの僧院が起り、イタリヤには十三世紀の頃フランシスコ・ドミニコ等の僧團が現はれた。

Francisco

Dominic

3 教義と戒律

これらの僧侶は、何れも嚴重な戒律の下に生活することを誓ひ、世俗の富と榮華とを捨て、身を清貧に甘んじて粗衣粗食をとり、ひたすら神に奉仕する傍ら、教義を研究し經文を書寫し、鋏をとつては田畑を耕し、または貧民・病者を救つて神の道を説いた。これら修道院の慈善教化事業及び農耕・技藝は地方民に多くの恩恵を施し、産業を開發せしめたことも著しく、また學問・寫經等は中世文化の維持にも貢獻するところがあつた。

4 慈善・教化事業

これはアッシジの僧院を飾る大壁畫の一つである。天上の愛の光を讃仰する聖フランシスコが、春の野の小鳥にまでも教を説いてゐる圖である。



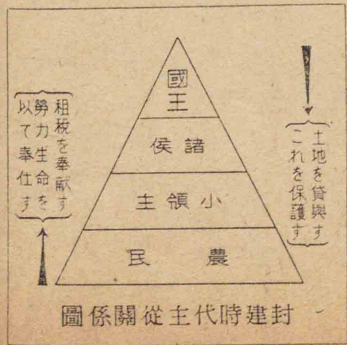
聖フランシスコ

聖フランシスコ フランシスコはイタリヤのアッシジの商人の子で、人生の深き惱を解くため、富と榮譽とを捨てて僧院に入り、清貧・純潔・服従を教義とする戒律を設け、謙讓・慈愛・祈りを信條とする僧團をつくつた。今もアッシジには立派な僧院が残つてゐる。

第四章 中世に於ける封建制度の發達

この派の僧侶は江戸時代の初期に我が國にも來つて布教した。
中世に於ては僧侶が教權を振つてゐたが、武士もまた政治上社會上に勢力を占め、武士を中心として封建制度が成立した。

■封建制度 中世初期に於ては外敵の侵入が多いのに、國內の秩序は全からず、不安混沌コンフュージョンの状態であつたから、ヨーロッパ諸國では君臣の關係を固くし、武力を中心として國を治めようとする風が起つた。即ち國王は諸侯に土地(土封)を與へて恩惠を施すと共にこれを保護し、諸侯は平時兵馬を養つて國王に忠誠を誓ひ、更に諸侯も自己の領土を割き與へて數多の武士を養ひ、武士もまた諸侯に忠勤を約した。これを封建制度といひ、土地關係と恩義觀念とにより主従の關係を鞏固にしてよくその領土を治めたのである。これは十世紀の頃までに完備して約五百年の間廣く行はれ、國內の秩序もまたよく維持された。



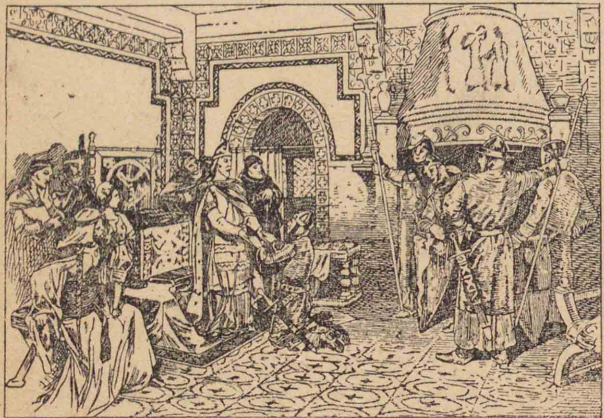
- 1 君臣關係
- 2 土地關係
- 3 恩義關係

1 階級制度

武士は二十歳頃となれば嚴肅なる元服式を行ひ、主君の前に跪き誓を立てた。本圖によつて封建時代の城内の有様を窺ふことが出来る。

3 武士道

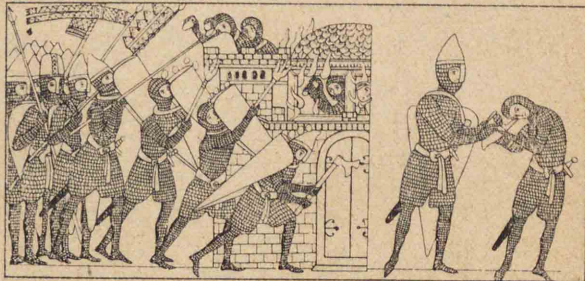
2 武士の教養



武士任命圖

■武士階級 封建時代に於ては階級制度が嚴重であり、貴族(諸侯)、武士、平民(農工商民)等に區別されてゐた。さうして貴族と武士とが政治上社會上最も勢力をもつてゐたので、その生活氣風は一般社會にも影響するところが大きかつた。
武士は幼少の頃より嚴重な教養と訓練とをうけ、一定の儀式をへて騎士Knightとなつた。騎士は平常武藝を勵み、武勇を尙び、演武會に於てその技を競ひ、また神を

十二世紀頃の武士の戦闘圖である。この頃は武器として鎖帷子(クサリカビラ)を常用してゐた



中世武士の戦闘

4 東西武士道の比較

武士道 西洋の武士道と我が國の武士道とはよく似てゐる。この外家名を尊び、家紋を定め、祖先を重んずること等も共通であるが、西洋の家族制度を尊重することや祖先崇拜には、その根本に於て我が皇室中心主義に當るべき思想なく、従つて忠孝一致の根本道義にも缺けてゐる。また我が國の武士には猛きが中にも

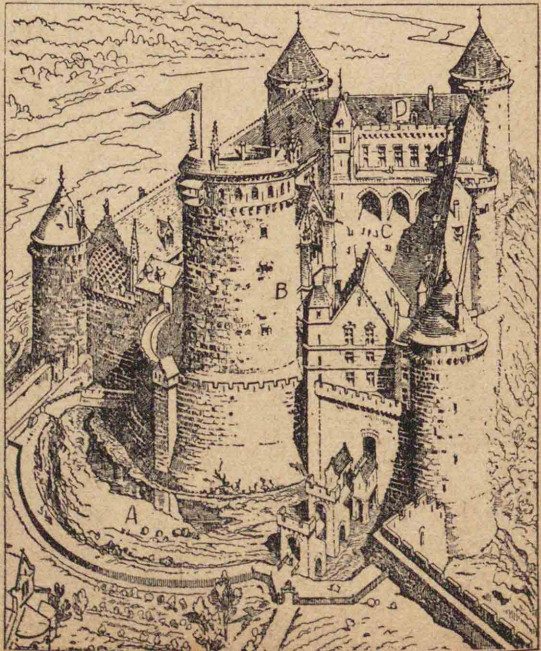
5 武士の政治

文雅の道に秀でたものが多かつたけれども、西洋には比較的少かつた。武士の棟梁たる諸侯には、公侯伯等の階級があり、何れも宏大堅固な城郭に住し、多くの武士を養ひ、藩領を支配し、國王には忠誠を盡し

フランスのクイシーロシヤトで十三世紀の築城である。城郭は險崖の上にあり、城濠(A)と城壁とを繞らし、その中に天守閣(B)、政廳・居館(D)、廣庭(C)等があつた

1 農民と農業

た。しかし諸侯は殆ど獨立の政治をしてゐた。平民階級 農民は領主及び教會所有の土地を耕作して生活し、主人には租税として多くの收穫物を納め、またその庸役に服した。農具は犁、鋤、鎌等を用ひ、肥料など少く、春蒔地、秋蒔地、休耕地等を作つて所謂三圃式農法などをなす所が多かつた。従つて生産物は豊富であつたが、多くは武士僧侶階級に奉獻したので、自らは貧しい生活を送つてゐた。



中世の城郭

2 職人と工業

工業は寺院の建立や貴族の高級生活等に伴つて次第に發達した。

十五世紀頃のド
イツ農民の生活
を描いたもので
ある。畑を耕す
もの、灌漑をよ
くするもの、雜
草を焼くもの、
水を呑むもの、
鐵砲・鐘等にて
鳥を追ふものな
どあり、遠くに
人家と井戸とが
見えてゐる。



中世の商人

従つて職人は多く教會や城郭の附近に住
み、職人組合を設けて製産や販賣及び相互
の利益を保護して
ゐた。商業は教會
前の廣場、市内の廣
場、郊外などに市場、
大市等を開いて行
ひ、或は各自の店舗
で賣買した。その
ため門前町や城下



農民の生活

3 町人と商業

十四世紀頃の商
人が商談をした
り、金錢を支拂
つたりしてゐる
圖である。

町が次第に發達した。

第五章 十字軍とその影響

。十字軍の起り

院政の始め

1 トルコの巡禮者迫害

2 クレルモン大會

1 第一回十字軍

中世時代の巡禮
者の圖で、特殊
の杖を持ち、鏑の
廣い跳ね返つた
帽子に帆立貝が
ついてゐる。こ
の貝が巡禮者の
象徴である。



中世の巡禮者

中世紀に於ける宗教的情熱が、封建社會の勢力を動かして、遂には
十字軍といふ大運動を誘起するに至つた。

十字軍の起原 西ヨーロッパのキリスト教徒は、信仰のためパレス
チナの聖墓に參詣するものが多かつたが、セルジューク・トルコがこの
地を占領してから、盛に巡禮者を迫害したので、西ヨーロッパ諸國の信
者は大いに憤慨した。この時法王ウルバン二世はフランスのクレ
ルモンに大會を開き、聖地回復の必要を説いたので、會衆はみな從軍
を誓つた。一〇九六年諸國の人々
は、何れも十字の記章をつけ、勇んで
出征した。

十字軍の經過 第一回十字軍は
あらゆる困難をもともせず、遂に
聖地を回復して、エルサレム王國を

2 第三回十字軍

十字軍が十字の旗を立て、十字架をふりかざし、熱狂して出發する光景である



十字軍の發出

つくり、これを保護することとなつたが、間もなくトルコ人のために滅ぼされた。第三回十字軍は最も大規模で、イギリス・フランス・ドイツ等の諸王・皇帝がこれに参加し、海陸より大軍を動かしたけれども成功しなかつた。かくて前後七回に亙り、凡そ二百年の間、七百萬の軍が出征したといはれてゐる。けれども十字軍は遂にその目的を達することが出来なかつた。

十字軍の影響 　しかし十字軍の影響は頗る大きかつた。即ち(一)出征に當つて法王の約束

した功德も現はれず、且つ神のための戦が敗れたため、法王に對する信頼と宗教に對する信仰熱とが衰へ、(二)出征した諸侯武士は多く戦死し、また歸還したものも自費出征のため經濟に苦しんで勢力なく、

- 1 宗教熱の冷却
- 2 封建制度の凋落

- 3 經濟の發達
- 4 新機運の勃興

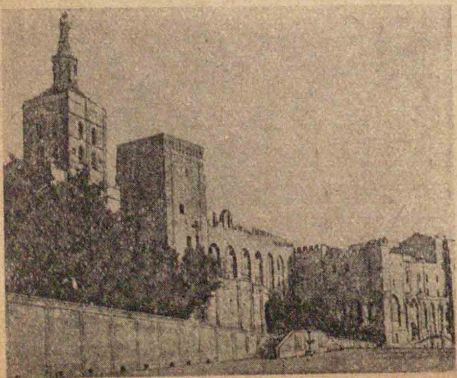
アヴィニオンは今フランスのヴァルクリューズ州の首都になつてゐる。この宏大なる宮殿は十二世紀のロマネスク式建築である

- 1 王權の伸張
- 2 國家的統一の機運

ために封建制度が衰頹した。しかし(三)交通の發達により商業・貿易が盛となり、都市が勃興し、また(四)東方の文化を輸入して學藝・思想上に新機運が起つた。

法王權の衰微 　法王權の衰頹と共に教會内部も多く腐敗して勢力なく、法王はフランス王フィリップ四世に壓迫せられ、遂に法王廳を南フランスのアヴィニオンに移して、その支配下に立つた。ドイツに於ても法王黨と帝王黨との争が益々激烈となつて、法王の勢力なく、これより法王權は愈々衰微するに至つた。

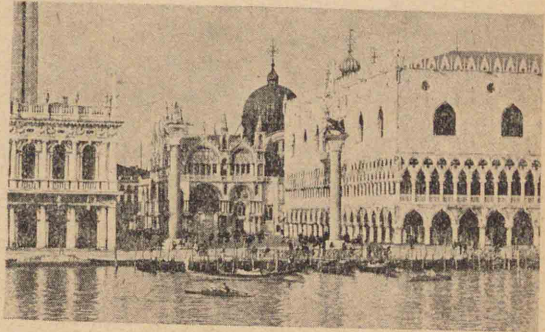
王權の伸張 　十字軍の結果、諸侯・武士が凋落し、獨り國王の權力のみが増大した。殊にイギリス・フランス等に於て中央集權の實次第にあがり、國家的統一の機運が著



アヴィニオンの法王宮

1 交通の發達

【圖説(上)】
アドリア海の奥にある水の都ヴェニス、外國貿易の都であるとともにまた富の都である。圖の右方はヴェニスの富強を誇る宮殿で中央がサン・マルコ寺院である。



繁榮のヴェニス

商業と都市の發達 交通の發達による商業・貿易の發達は特に著しかつた。先づ地中海貿易が盛となつて、ヴェニス・ジェノヴァ・ミラノ・フロレンスなどイタリアの諸都市が繁榮し、ついでライン・ドナウ・ロヌ等諸大河の沿岸にあるアウグスブルグ・ケルン・リオン等が



ガッファ邸宅

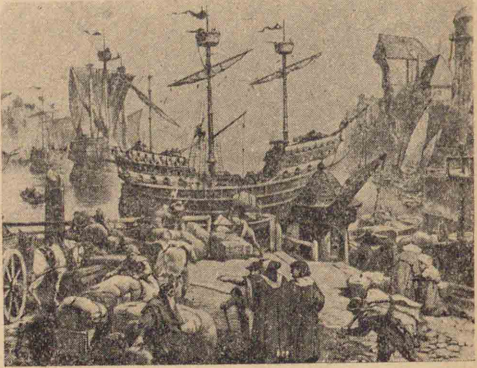
2 都市の發達

【圖説(下)】
アウグスブルグにあり、フガ一家は十四五世紀頃の豪商で、一世を風靡した。今もその豪華な跡を偲ぶことが出来る。

隆盛となり、更に北海沿岸のグブレーメン等が活況を呈した。その結果高價な東方の贅澤品も、ヨーロッパ各地の重要生産品も、廣く各方面に貿易せられて、一般文

3 經濟の進歩

【圖説(上)】
この圖は港内と埠頭の實況を示し、當時の商船の船體や構造、港灣の設備、商品の包装・輸送など殷盛の様が想像される。



ハンザ同盟加盟港の活況

化の發達と生活の向上とを促し、また貨幣經濟も進歩して、銀行業・爲替業・兩替業等の金融制度も次第に伸展した。

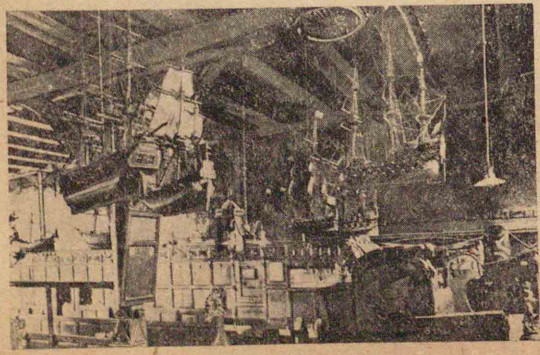
これらの諸都市は諸侯の困窮に乘じ、これに經濟的援助をなし、その代償として經濟上有利な特權や自治權を得て、

4 自由都市の出現

5 都市同盟

【圖説(下)】
集會場の一室で、食堂に當てられてゐる。天井より船の模型が吊されてゐる。

全く諸侯の支配より獨立せる自由都市をつくり、更にまた相互に同盟して王侯その他の壓迫に對抗した。これが所謂都市同盟である。都市同盟の中でもロンバルディア同盟・ライン都市同盟・ハンザ同盟などが名高く、殊に



リッペク市海商組合の内部

6 貨幣經濟と市民階級

ハンザ同盟は八十四の都市が加盟して艦隊をもち、盟主リュベックは富強を極め、時には王侯を凌ぐ勢であつた。

かくて商業と都市發達の結果は、封建時代の土地を中心とする自然經濟が衰へて貨幣經濟が盛となり、また市民階級が勃興して社會上の新勢力となり、都市を中心として新文化が發生するに至つた。

第六章 中世後期に於ける諸國の情勢

十字軍以後、西ヨーロッパ諸國に於ては王權が伸張して國勢振ひ、東ヨーロッパに於ては蒙古人の侵入とトルコの勃興とがあつた。

イギリス・フランスの發展 イギリスでは十二世紀の中頃、國王ヘンリー二世が立ち、相續によつてフランス國內にも廣き領土を得て勢力を振つた。然るにその子ジョン王は暗愚にしてフランス國內の領土を奪はれ、法王と争つて屈服したばかりではなく、國內では大い

1 ジョン王

2 大憲章

テームス河中の一小島に於て、ジョン王が貴族・僧侶等の面前で署名してゐる圖である



大憲章に署名するジョン王

に人民を抑壓した。そのため一二一五年貴族・僧侶は國王に迫つて彼等の起草せる大憲章に署名せしめ、王權の濫用を止め、國民の權利を尊重せしめた。これがイギリス憲法の基である。

我が憲法とイギリス憲法の比較 我

が帝國憲法は欽定憲法であるのに比し、イギリスの憲法は人民が國王に迫つて定めたものであり、且つ人民が王の權力濫用を制限し、民權の伸張を計つたものである。ここに根本的な差異があることに注意せねばならぬ。

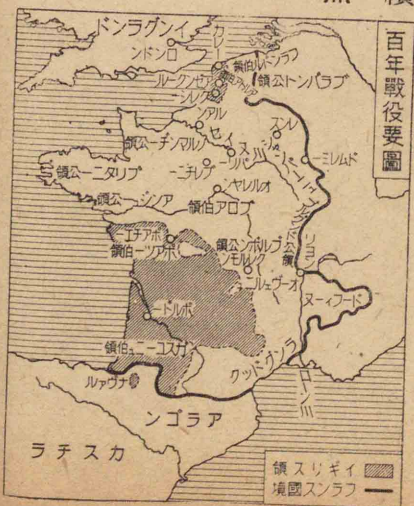
しかしジョン王の子ヘンリー三世はこの憲法を無視したので、シモン・ド・モンフォール等は王の專權を抑へるため、貴族・僧侶と地方都市の代表者を集めて國事を議せしめた。この議會は後更に上下兩院と

3 議會の始

なつたが、これがイギリスに於ける議會政治の始である。

フランスには十世紀末より引つゞいて名君が現はれた。十三世紀の始、フィリップ二世は國內にあるイギリス領を奪ひ、フィリップ四世は一三〇二年貴族・僧侶・平民の代表者よりなる三部會を開き、國民の後援を得て法王と争ひ、勝利を収めて王權を鞏固にした。

イギリス・フランスの争 十四世紀の始、イギリス・フランス兩國の間に相續權の争ひ起り、百餘年間斷續して戰つた。その間にイギリスの黒太子エドワード、フランスの少女ジャンヌ・ダルクなどは大いに奮戰した。
ジャンヌ・ダルク 十五世紀の初期、フランス軍は頻りに敗れ、チャールス七世の時は僅かにオルレヤン附近を保つのみであつた。



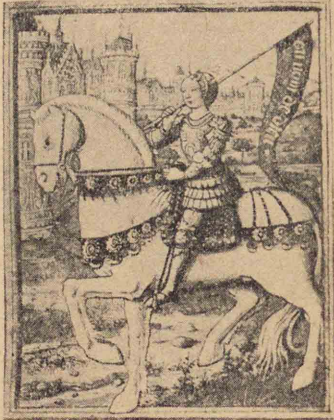
百年戰役要圖

4 フランスの三部會

1 百年戰役

2 ジャンヌ・ダルク

ジャンヌ・ダルクが「神の御名に於て」といふ旗を擔ひ、白馬に跨つてゐる雄姿である



クルダマシヤ

この時ジャンヌ・ダルクは神より「祖國を救へ」といふ命をうけたと稱して自ら陣頭に立ち、士氣を鼓舞したので、フランス軍は大いに振ひ、遂にオルレヤンの圍を解き、國王をしてレンスに戴冠式をあげさせた。その後彼女は捕へられて焚殺されたが、これよりフランス軍はイギリス軍を撃退して殆ど舊地を回復した。

イギリス・フランスの隆盛

この戰の結果、フランスはその諸侯武士を多く失つたけれども、王權は却つて伸張して中央集權の實あり、イギリスに於ても薔薇戰爭があつて後、王權は次第に強大となり、且つ兩國とも外國との戰爭により國民的自覺を高め、その國家的結合は益々鞏固になつた。

イスパニヤ・ポルトガルの統一

イスパニヤでもサラセン帝國が衰へてキリスト教諸國が勃興し、一四七九年アラゴン王フェルディナンド

Ferdinand Aragon

1 イスパニヤ王國

2 國民的自覺

1 王權の伸張



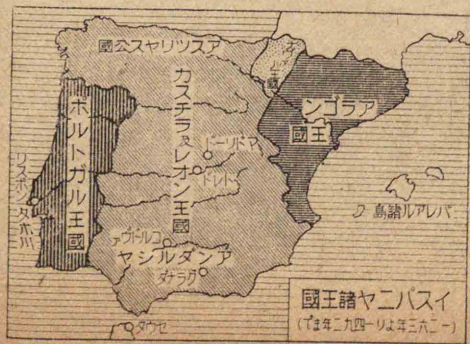
ドンナゼルエフ

ドはカスチラ女王イサベラと婚して
Castile Isabella
イスパニヤ王國をつくり、やがて全國
を平定して國威をあげた。

ポルトガルも十一世紀末獨立し、十
五世紀にはジョン二世が出て中央集權

を確立した。この二國はやがて海外にも雄飛
するに至つた。

ドイツの情勢 ドイツでは諸侯の權力強く
して帝權は輕んぜられ、十三世紀の中頃には所
謂大空位時代さへあり、一三五六年には黄金文
書を發して皇帝選舉侯を定めたので、帝權は一
層弱くなり、一三八六年には帝國の一部であつ
たスウイスが獨立した。近世の始、ドイツの發達



2 ポルトガル
王國

フェルデナンド
は一四六九年イ
サベラと結婚
し、國內の貴族
を抑服した後、
グラナダを攻め
てサラセン人を
降し、完全に國
内を平定した

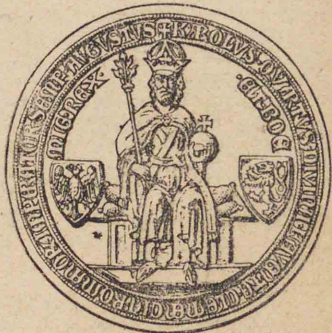
1 大空位時代

2 スウイスの
獨立

神聖ローマ皇帝
の坐像である。
黄金文書にはこ
の玉璽を黄金の
延板の上に捺し
てあつた

1 蒙古人の西
征

蒙古軍がドイツ
のリーグニッツ
城攻圍の光景で
城内の武士は
塔で防禦して
ゐる

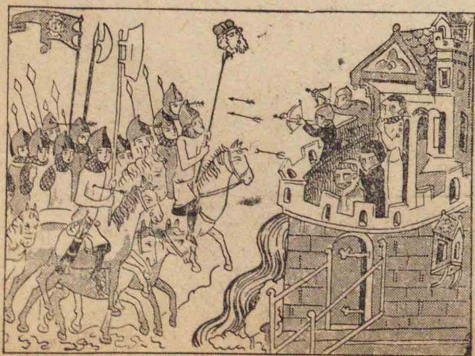


印金書文金黃

がイギリス・フランスに後れたのは、この國內
不統一の結果によることが多い。

蒙古人の侵入とトルコの勃興 東ヨーロッパに於ては、十三世紀の始、アジアに興つた蒙古帝國のバツ拔都が大軍を率ゐて侵入し、ロシア各地を征服して

ポーランドを掠め、一二四一年にはリーグニッツの戦にドイツ・ポーランドの聯合軍を破つて西ヨーロッパ人を震駭せしめ、進んでホンガリアを征して後、その一部は南ロシアの地にキプチャク汗國を立てた。その後蒙古のフラグ旭烈兀はサラセン帝國(天食國)を滅ぼしてイル汗國を建設した。



戦のツェーグーリ

2 トルコ族の勃興

この頃オスマン^{Osmán}トルコ族が勃興して小アジアに國を立て、更にバルカン半島を侵して勢威を振つてゐたが、遂に一四五三年には皇帝マホメット二世がコンスタンチノープルを陥れて、東ローマ帝國を滅ぼし、三大陸に跨る大帝國を建設した。

3 ロシヤの建國

同じ頃またロシヤに於てもキプチャク汗國の衰へたるに乘じ、モスコイ^{モスクワ}太公イワン三世が自立して獨立國をつく



世四ノワイ

り、東ローマ皇帝の姪を娶つてその後繼者と稱し、ギリシヤ正教の大本山をモスコイに移して自らその保護者となつた。その孫イワン四世より帝號を稱し、ロシヤは次

像は四世在位當時の木彫による

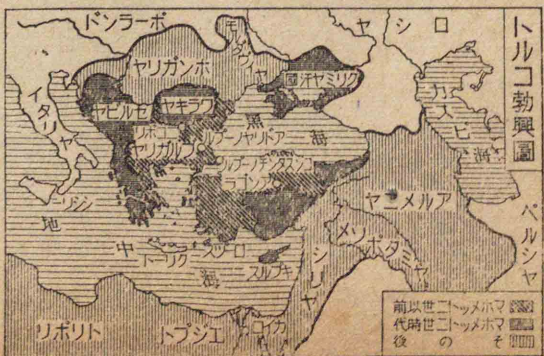
第に強大となつていつた。

【總括】 十字軍の頃は我が平安鎌倉時代で、支那の宋・元時代にあたるが、この頃西ヨーロッパ人が盛に東方に移動すると共に、東洋人もまた西方に遠征し、軍事外交交通貿易文化上に東西の交渉が頻繁であつた。元の世祖の頃は南方海路のみならず、北方陸路の交通も開けて西洋人の東洋に來る者も少くなかつた。

また西ヨーロッパに於ては、王權が伸張し對外交渉が盛となるに従ひ、諸國民の間に國民的意識が旺盛^{ワウエイ}となり、國民的結合も鞏固となつて、國家的發展の傾向が顯著^{ケンギョウ}となつていつた。

第七章 中世の文化

■ 中世文化の特質 中世に於ては一般に人智進まず、文化はあまり發達しなかつた。たゞ教會が深く人心を支配してゐたから、學問藝術等には宗教的色彩をもつものが頗る多く、また武士の影響をうけて文學には武士物語などが流行した。



1 哲學

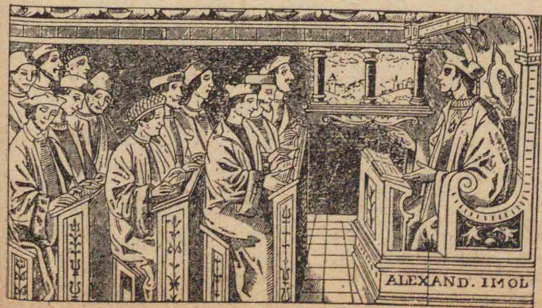
トマス・アクィナスはイタリヤの人、中世第一の哲學者で、神學大系の名著あり、アリストートルの哲學とキリスト教思想を結合した思想體系を樹立した



スナイクア=スマト

紀の頃トマス・アクィナスは、神學及びギリシヤ哲學等を總合してスコラ哲學を大成し、中世の思想界を風靡した。

十二・三世紀の頃ヨーロッパの各地に大學が設立せられたが、中にもイタリヤのボローニヤ、フランスのパリイ、イギリスのオックスフォード、ケンブリヂなど名高く、神學、哲學、語學等を研究する外、法學、醫學、天文學、數學等を教ふる所もあつて、近



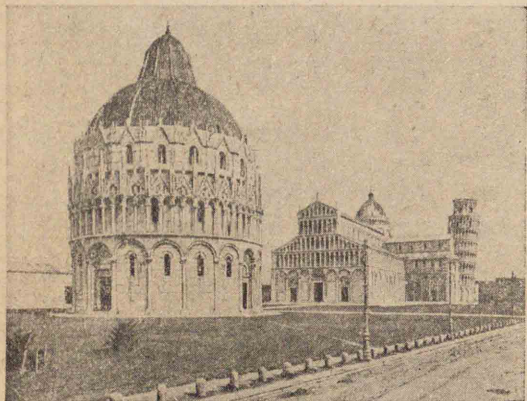
學大の世中

學問 學問は主として教會及び大學に於て研究せられた。教會に於ては五世紀の頃ローマに現はれたアウグスチヌスの神學を中心として研究し、教父哲學を立

1 ロマネスク建築

2 ゴシック建築

ピサ大寺はイタリヤの西北岸ピサにあり、主として大理石を用ひた宏麗な建築である。圖の左方は洗禮堂、次は本堂、その後には有名な斜塔が見えてゐる



寺大サピ

世科學發達の端をも作つた。

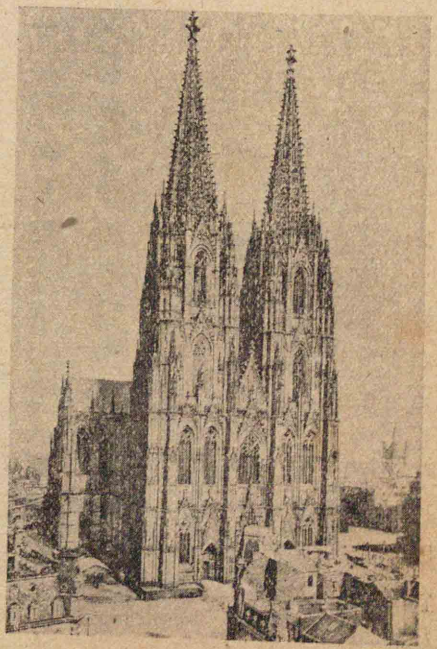
藝術 藝術の中では繪畫彫刻などよりも、宗教のための建築が大いに發達した。中世の中頃、イタリヤを中心としてローマ風とビザンツ様式とを加味するピサ大寺等の如きロマネスク建築が始められたが、また十一世紀より北フランスを中心として獨特のゴシック建築が起り、十五世紀頃まで全ヨーロッパを風靡するに至つた。ゴシック建築は莊嚴偉大で裝飾に富み、その威容は中世宗教の偉大さを表現してゐる。パリイ、ロンドン、ケルン、ミラノ等にある寺院は最も名高い。

文學 文學には武士を中心とする物語が多かつた。けれども他の時代に比

ケルン大寺は十三世紀の中頃竣工し十九世紀の末頃に竣工したもので、ゴシック建築として最も優秀なものの一つといはれる。正面の兩塔は高さ一三〇米ばかりあり、高く天上に聳えてゐる。

して極めて不振であつた。

武士物語 武士物語にはフランスのローラン物語、イギリスのアーサー王物語、ドイツのニベルンゲン物語などが名高い。これらの物語は多く諸國を巡る詩人が貴人の饗宴などに於て吟誦したものである。



ケルン大寺

【總括】 中世の文化は、西ヨーロッパに於ては宗教と武士生活との影響を受け、哲學は神學に隨從するものの如くなり、文學は振はず、たゞ宗教藝術のみが稍盛であつた。これに反し、却つて東ローマ帝國及びサラセン帝國に於ては學問藝術が大いに發達してゐたのである。しかし十四、五世紀の頃からヨーロッパには新文化が大いに勃興することとなつた。

第三篇 近世史

第一章 新機運の世界(上)

■ **新機運の擡頭** 十四、五世紀の頃よりヨーロッパに於ては學問思想、藝術等に新生面が開かれて、文藝大いに復興し、諸種の新發明もあり、經濟界の進歩も著しかつた。

■ **古學の復興** 中世時代には學問も藝術もすべて宗教の支配をうけたが、十字軍の結果、武士僧侶の勢力が衰へ、東西の交通が發達して、學藝文物の輸入も著しくなり、見聞が廣まるにつれて、次第に文藝が復興し、宗教の束縛を逃れて自由に學問を研究せんとする風が起つた(所謂人文主義)。彼等はギリシヤ・ローマの古典を読み、神よりも人生を研究することに専心従事した。この傾向は先づイタリヤの諸都市に現はれ、イタリヤ文學の祖といはるるダンテを始め、ペトラルカ、ボッカチ

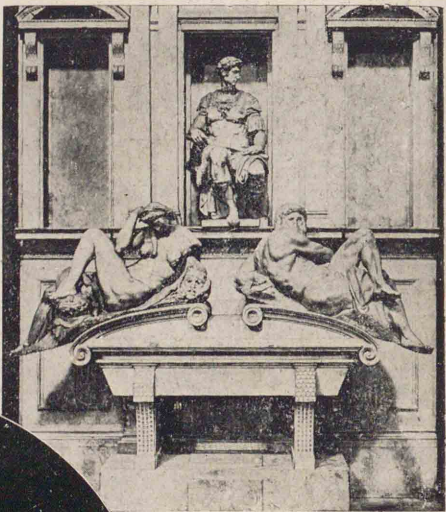
19
30
37
61 61 16
6
186

1 古學復興

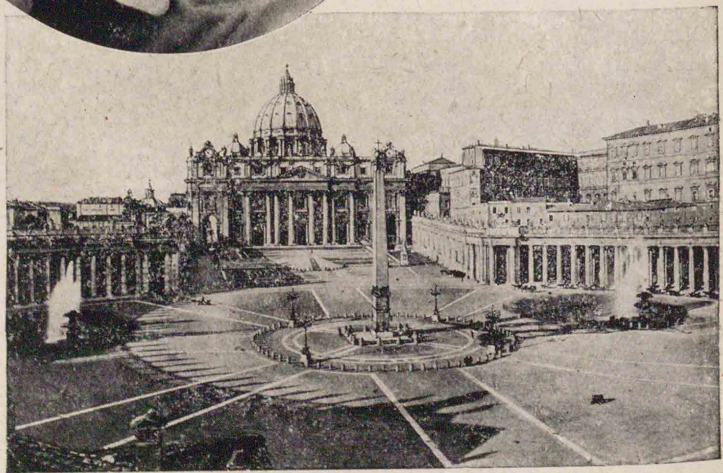
2 人文主義

3 人文學者

ミケランジェロ作メヂチの墓
 フロレンスにあり最も藝術的なもの一つである。上部はジュリヤの潑刺たる青年時代の姿を刻み、その下方、棺の兩側には晝(右)と夜(左)とを象徴する彫刻が安置されてゐる。蓋しこれは人生の姿そのものを寓意したものであらう。



ローマのセント・ペートル寺院(下圖)
 プラマンテ・ミケランジェロ等の設計になる文藝復興時代の代表的建築で、中央に圓蓋が高く聳え、その前面には迴廊が附屬してゐる。



ラファエル作 マヂヤ像(中圖)
 フロレンスのピッチ宮殿蔵

4 人文主義風潮の傳播

【圖(上)】
 ダンテはフロレンスの人、詩人にして思想家であり、また政治にも干與した。後、故郷をはなれて各地にさすらひ、その間に神曲を完成した。最後まで故國に憧れてこれを熱愛しながら、歸ることなく客死した。圖はフロレンス博物館の壁畫

【圖(下)】
 ロンドン博物館所藏古寫本による。ボッカチオ(左)がベトラルカ(右)と文學について論議するところである



テンダ

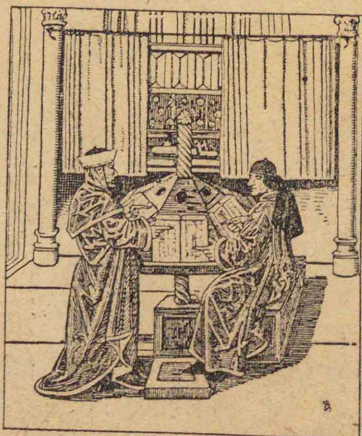
オなどの偉才が相ついて現はれ、清新なる人文主義の風潮が盛になつた。

神曲その他 ダンテは不朽の名作「神曲」を著したが、これは地獄界に入つて世俗に多くの罪を犯したる人々を見、淨罪界

に於て罪を洗ひ淨むる人々を見、天上界に入つて愛の光輝く天國の姿を見たることを描いた一大詩篇である。ベトラルカ・ボッカチオなどは宗教と關係なく、人生を主題として當時の世態・人情を描いた。

この風潮は次第に他の諸國にも及んで、ドイツ・フランス・イギリス等に多くの人文學者を出し、新しき學藝の發達を促すに至つた。

美術の發達 美術もまたこの頃宗教的様式を離れて自由清新な

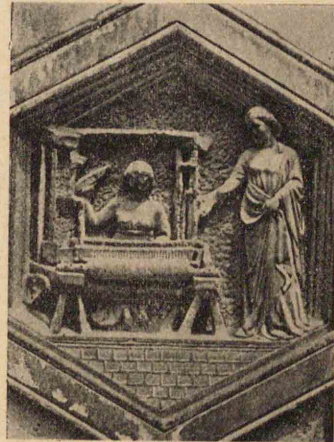


オチカッポとカルラトベ



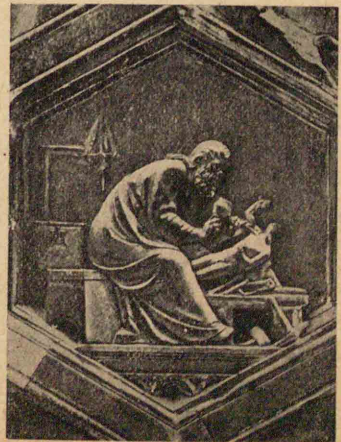
文學者

天文學者



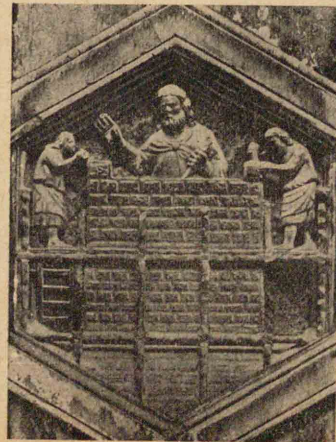
織匠

鍛冶師



彫刻師

建築師



1 新藝術の創造

2 藝術家達

フロレンスの人、畫家、彫刻家、建築家として、何れも世界的巨匠の域に達してゐた。誠に藝術的天才といふべきである。圖はローマ繪畫館所藏

1 磁針盤

2 火藥

3 印刷機



ロエジンラケミ

る藝術を創造するに至つた。ミケランジェロの繪畫彫刻、レオナルド・ダ・ヴィンチ・ラファエルの繪畫、ブラマンテの建築など、何れも不朽の傑作といはれる。

四 諸種の發明 學問の

發達に伴つて、また諸種の發明があり、政治上、文化上に大きな變化を與へた。中にも十三世紀末に發明せられた磁針盤は、航海に用ひられて地理上の發見に資し、十四世紀の頃發明せられた火藥は銃砲に用ひられて、戰術の變化と封建城郭の崩壊を來さしめ、十五世紀の頃發明せられた金屬活字と印刷機とは、書物の刊行を容易ならしめ、學問の普及發達に偉大な貢獻をなした。



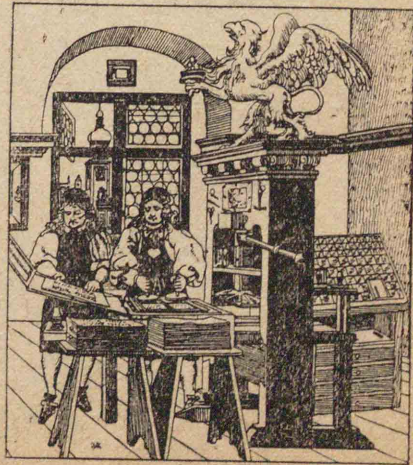
砲火の頃紀世五十

1 工藝の發達

左の職人は植字をやり、右の職人は活版にインキをつけてゐる。その右に印刷機と活字箱がある

2 イタリヤ人の活躍

經濟界の發達 文藝復興によつて工藝が發達し、東方貿易が隆盛になるにつれて、イタリヤ北部の諸都市の經濟的活躍は著しかつた。それらの商人は東方の物資を西ヨーロッパに輸入すると共に、また自らも天鵝絨、絹等の織物、硝子、金屬細工、美術裝飾等の工藝品を製産して、これを西ヨーロッパ諸國に賣り捌いた。従つてイタリヤ人はユダヤ人と共にヨーロッパの貿易界及び金融界にも勢力を振ひ、西ヨーロッパ諸國の經濟的發達に大きな刺戟を與へた。



活版印刷發明當時の印刷工場

第二章 新機運の世界(下)

地理的發見の機運 十字軍の東征や蒙古人の西征があつてから、

1 東洋の物産

2 東方見聞録

3 トルコの妨害

トルコは東洋に行く陸路を塞ぎ、或は貨物に重税を課して妨げた

1 印度航路の發見



ローボ=コルマ

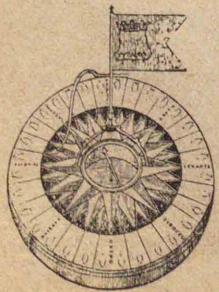
東西の交通は頻繁となり、西洋人は東洋の物産を珍重して多く印度から輸入した。偶々十三世紀の末頃、マルコポーロが元の世祖に仕へ、歸國の後、東方見聞録を著はして東洋の富を説き、その貿易の有利なことを傳へてから、東洋に志すものが益々多くなつた。けれども

トルコが勃興して東洋との交通貿易を妨げたので、西洋人は直接東洋に赴く新航路を求め、ことに努めた。

新航路・新大陸の發見 ポルトガルの王子ヘンリーは、早くより航海を奨励し、盛に磁石を利用せしめたが、一四八

六年、バートロメウ・ディアズはアフリカ南端の喜望峯に達し、ヴァスコ・ダ・ガマは一四九八年印度のカリカットに達した。

Calicut



地理上發見當時の羅針盤

2 アメリカ航路の發見



マガダコスアヴ

この頃イタリア人コロンブスは地球の球形であることを信じ、西航して印度に達せんとし、イスペインヤ王后イサベラの後援を得



陸上地陸新のスブソコロ

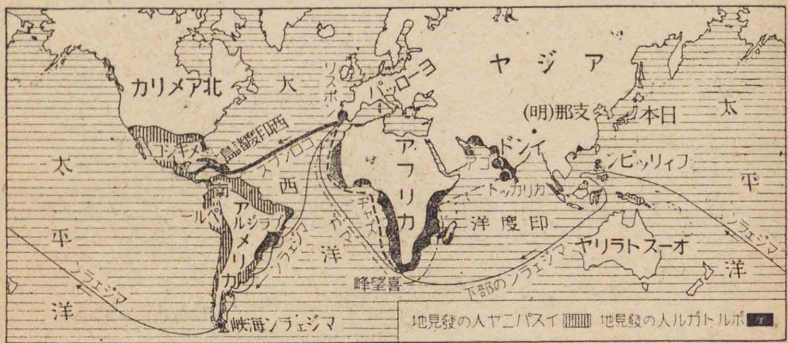
一四九二年十月十二日コロンブスが最初に上陸したる時の風景。船員はその島に十字架を立て、土人は手に手に珍奇なものを携へてゐる

3 世界一周

て、一四九二年大西洋を横断し、七十餘日を経て今の西印度諸島に達した。彼はその後度々の航海によつて中央アメリカ、南アメリカ大陸を探検したが、十六世紀の始めにはアメリカゴビウスプッチが南アメリカの地理を明らかにした。なほマジエランは一五一九年、イスペインヤ王の命を受けて大西洋より南アメリカの南端を周つて太平洋に出て、フィリピン群島を發

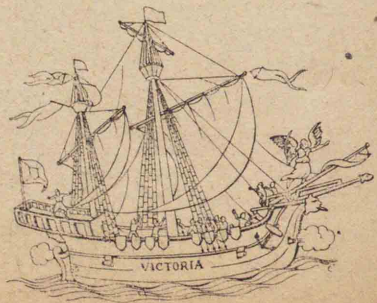
1 東洋物産の輸入

マジエランは五艘の船を以て世界一周を企てた。この船は二本橋、百噸餘の帆船で、大砲を備へてゐる。この船が始めて世界を一周し、地球の球形なることを證明した。マジエランはフィリピンに於て土人のために殺された



圖勢形代時見發路航新

見し、更にその部下は印度洋を横切つて喜望峯より本國に歸つた。出發以來四箇年を費して始めて世界一周を完成したのである。地理的發見の結果かくて西洋諸國は相競うて海外に發展したが、ポルトガル人は印度のゴアを根據地とし、マラッカ、セイロン、マカオ等の要地を占領して東洋經路に従ひ、廣大なる土地と貿易の利とを獨占すると共に、アラビヤ人に代つて香料その他の重要物産を西洋に輸入した。



船のソラエジマ

2 新大陸物産の輸入

これは十六世紀頃の貿易業者(左及び船主)右を寫したものである



貿易業者

イスパニヤ人は主としてアメリカに發展し、殊にメキシコ・ペルー等には豊富なる金銀鑛を發見し、その他珍奇なる物産を得て巨利を博するに至つた。なほこれらの二國は海外に莫大なる植民地を獲得し、航海貿易の中心勢力をつくり、その富は世界に冠たり、そのため十字軍以來盛であつたヴェニス・ジェノア等を中心とする地中海貿易は衰へて、大西洋が

世界商業の本舞臺となり、リスボン・カヂス等が隆盛となつた。

Lisbon Cadix

4 經濟の發達

我が國と西洋文化 イスパニヤ・ポルトガルの富強は他の諸國を刺戟して航海貿易を益隆盛ならしめ、またその豊富なる金銀によつて貨幣經濟を發達せしめ、

5 東洋との交渉

今後の經濟界に新生面を開くに至つた。これら兩國人は我が國及び支那に來航して通商を盛にし、また宣教師も多く渡來して、キリスト教天主教や西洋の學術等を傳へた。我が國と西洋との交渉が始まつたのはこの時代からである。

我が國へ鐵砲の傳來 一五四三

第三章 宗教改革と宗教戰爭

宗教改革の機運 中世末期に於けるローマ教會内の腐敗と、十字

軍による宗教熱の衰退とにより、フス・ウイクリフ等を始め、教會の改革を叫ぶものがあつたが、成功しなかつた。しかし、やがて學問が

Hus Wycliffe

進歩し、自由に聖書が研究されるやうになつて、改革の運動は頗る顯著となつた。

ルーターの宗教改革 十六世紀の始、ロー

マ法王レオ十世はセント・ペートル寺院改築

St. Peter

のため、免罪符を各地に販賣させ、それによつて罪障の消滅を説いたので、ドイツの僧マル



免罪符の販賣

1 免罪符の販賣

免罪符の販賣は特にドイツ地方に多かつた。僧侶が地方出張して、この箱に貨幣を入れる音と同時に罪は消ゆると説いたといはれてゐる

2 ルーテルの蹶起

Martin Luther
チンルーテルはこの非法を責め、教會の腐敗を攻撃したので、遂に法王から破門された。しかしルーテルはこの破門狀を焼き捨て、蹶然立つて宗教改革を唱ふるに至つた。

3 ウォルムスの宗論

Worms
ドイツ皇帝チャールス五世は、法王の歡心を買はんがため、ウォルムスに國會を開いてルーテルを召喚し、その説を取消さしめんとしたが、彼は頑としてこれを拒絶し、益々新教義を高唱した。やがてルーテル

4 新教の公許と傳播

Augsburg
の新教は次第にドイツ國內に弘まり、皇帝もトルコフランス等との戦に忙しくてこれを抑へることが出來ず、遂に一五五五年アウグスブルグの國會に於てこれを公許した。これよりルーテル派の新教はドイツ、デンマーク、スウェーデン等に傳播さるるに至つた。

ルーテルはワルトブルグ城内に於て聖書をドイツ語に翻譯したので、聖書の意味がよく一般に普及した。圖はクラナツハ筆肖像畫による



ルテール

ブルグの國會に於てこれを公許した。これよりルーテル派の新教はドイツ、デンマーク、スウェーデン等に傳播さるるに至つた。ルーテルは幼少より厳格な母の教をうけ、鐵のやうな強い意志と深い信仰をもつて

Wittenberg
みた。彼は後にウittenベルヒ大學の神學教授となつたが、眞摯なる信仰に燃えて、宗教の改革を志し、皇帝法王の威力をも恐れず、飽くまで自分の信念を貫かうとした。彼の如き人格にして始めてこの大事業に成功したのである。

目 カルヴィンの宗教改革

John Calvin
ルーテルより稍遅れてスウイスにジョン・カル

ヴィン(スラン)が來り、新教を唱へ、多くの信者を得た。カルヴィンの新教はスウイス・フランス・ネーデルランド・スコットランド等に弘まつた。



カルヴィン

宗教改革の反動
新教の勢が盛となるに従ひ、ローマ教會も反省を促され、その積弊を

改革して厳格な教義戒律を設け、また宗教裁判所等により異心を懐くものを嚴罰に處したので、フランス・イスパニヤ・イタリヤ等に於て舊教の勢力は漸く復活した。

Inquisitio Loyola
この頃またイスパニヤ人イグナチウス・ロヨラは同志フランシス

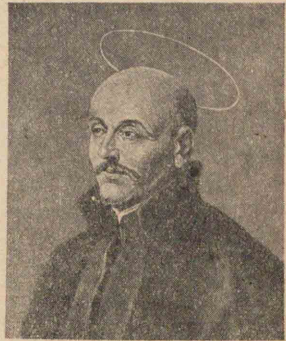
2 耶蘇會

1 舊教の復活

カルヴィンはフランスにて宗教改革を唱へて追はれ、スウイスのジュネーヴに來つて成功した。その教義は社會上・經濟上にも大きな影響を及ぼしてゐる。圖はドレスデン國立繪畫館所藏

圖(上)

ロヨラは軍人の出身であり、ザヴィエルと共にパリに於て耶蘇會を組織した。圖はコロネロ肖像畫による



ラヨロ

コザヴィエル等と共に耶蘇會を組織し、厳格な訓練と殉教的な精神とを以て困苦に堪へ、熱心に布教した。中にもザヴィエルは自ら東洋に來り、我が國にも渡來して、天主教を弘めた。

耶蘇會の傳道 耶蘇會の僧侶は何れも法王に對し

3 日本への傳道

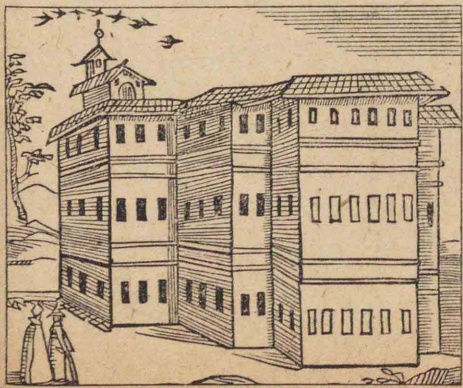
圖(下)

大友氏の領地の豊後の府内(今の大分市)に建てられたものである

て絶対に服従し、宗教のためには身命を捧げて熱心に布教した。我が國に來れるザヴ、エル、ヴィレラ、フロイス、オルガンチノ、ザリニャノ等は何れも優れた高僧で、説教をなす外、學校を設けて傳道した。

五 諸國の宗教戦争

諸國に於ける新舊兩教徒は勢力を得るに従ひ、遂に對立して争を起し、社會上政治上の紛争と結びついて、激烈な内亂をひき起すに至つた。フラン

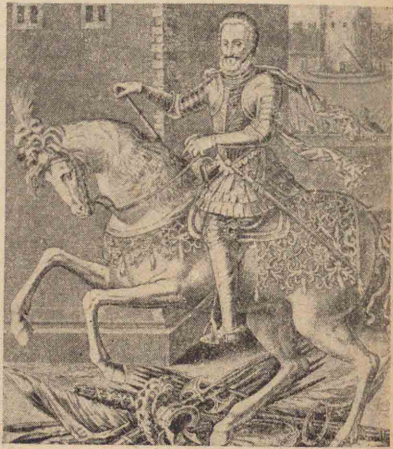


天主の學校

2 フランスの宗教戦争

圖

彼はナヴァル王からフランス王となり、ブルボン王家の祖となつた。圖は旗や武器の分捕品を馬蹄に踏みつけてゐるヘンリー四世凱旋の雄姿である

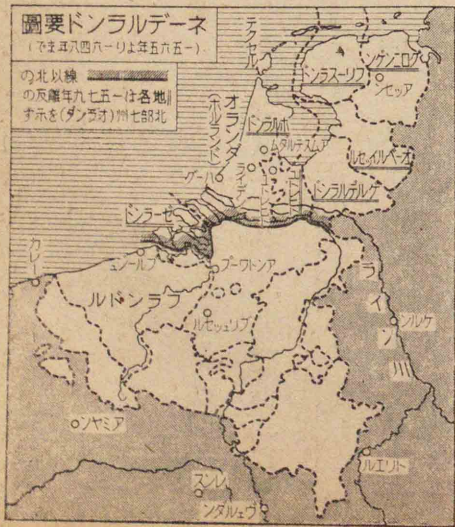


馬の上へのリンー四世

スではチャールス九世の頃兩教徒が相争ひ、所謂ユグノー戦争を起して激しい虐殺などあり、多年の内亂となつたが、ヘンリー四世が即位して後、一五九八年ナントの勅令により信教の自由が許され、

3 ネーデルラントの宗教戦争

兩教徒の権利が平等となつた。イスパニヤでは、その領地ネーデルラントの新教徒が壓迫に堪へかねて獨立を企てたので、國王フィリップ二世はこれを抑壓せんとしたが、北部七州の人民はオレンジ公ウィリヤムを



圖要ドンラルデーネ (一五八四年八月一から一五八五年五月一) の北以嶺の反亂年九七五-は各地を示す(ダンラオ)州七部北

4 オランダの
獨立

5 イギリスの
宗教改革

【圖】
ヘンリー八世は
始め舊教信者で
あり、法王より
信仰の保護者と
いふ稱號を貰つ
たが、後、法王に
反して絶縁し
た。圖はホルバ
イン筆肖像畫に
よる



ヘンリー八世

統領にあげ、獨立を宣言し、戦後オランダ共和
國を立てた。イギリスではヘンリー八世が
1581
法王と絶縁してイギリス教會の首長となり、
その子エドワード六世の時新教の教義・典禮
Edward
を定めた。その後新舊兩教徒の争はあつた

6 ドイツの宗
教戦争

7 ウェストファ
リア條約

1 チャールス
五世

が、エリザベス女王は統一令を發布して新教
Elizabeth
を奉ぜざるものを嚴罰に處し、新教主義の國
教を制定した。

ドイツではアウグスブルグの宗教和議後、
また新舊兩教徒が衝突し、ボヘミヤの反亂に
端を發し、三十年戦争が起つた。その間ドイ
Thirty Years War
ツの諸侯・人民は兩派に分れて戦ひ、デンマル
ク・スウェーデン・フランス等の諸國の干渉も加

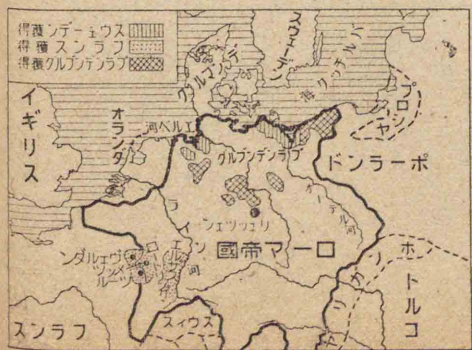
はつて戦亂は益々擴大した。この戦は一六四八年、ウェストファリア條約
Westphalia
によつて平和となり、(一)ドイツの兩教徒は同等の權利を得、(二)フラン
ス・スウェーデンはドイツ領の一部を得、(三)スウイス・オランダの獨立が承
認せられた。

【總括】 ルーテルによつて唱へられた宗教改革運動は諸國に傳播し、諸國では
新舊兩教徒の宗教戦争が起つて國力も疲弊したが、遂に兩教は同等の權利を得
るに至つた。

第四章 近世諸國家の發達(上)

十四五世紀以來、國家的發展が著しかつたが、偶々文運の興隆と宗教
的紛争の解決とに幸せられて、各國は何れも國力増進し、王權は伸張
して鞏固な國家を形成するに至つた。

■イスパニヤの隆盛
イスパニヤのチャールス五世は、ドイツ皇帝に
してイスパニヤ王を兼ね、大いに勢力を振つたが、その子フィリップ二世

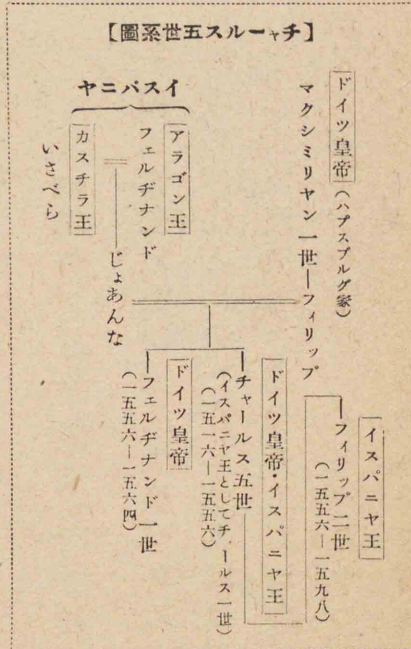


圖地圖約條ヤリフトスエウ

2 フィリップ二世

【圖説】
 フィリップ二世は在位四十餘年に及んだが、その間マドリッドに近くエスコリヤル宮殿を築いた。これは莫大なる富を傾けて造營したもので、善美をつくり、今もなほ當時の富強を物語つてゐる。

3 イスパニヤと我が國



はヨーロッパ及び新大陸に廣大なる領土をもち、富強並ぶものなく、ポルトガル王をも兼ね、世界の無敵の海

軍を有して各國を睥睨した。

イスマパニヤと我が國

マジランの世界一周後、ゴルトスがメキシコを占領して、新イスマパニヤ(濃昆斯般)と稱し、更に東洋にも進出して完全にフィリピンを領した。我が九州の三大名が少年使節を遣はし



宮ルヤリコスエと世二ブリイフ

たのは、フィリップ二世の晩年であり、豊臣秀吉が天主教を禁じ、フィリピン(呂宋)太守に

使を遣はしたのも、またこの頃である。後、イスマパニヤ人の來航するものは次第に多くなり、呂宋よりはフランシスカン派の宣教師が多く來朝した。徳川家康がメキシコと交渉し、支倉常長が使したのは、次王フィリップ三世の時である。

然るにイスマパニヤは、イギリスと争つてその無敵艦隊を失ひ、海上權を奪はれて、植民貿易上の勢力も衰へ、國民は富強になれて遊惰となつたので、國勢は次第に衰退した。

オランダの隆盛 オランダ人は着實勤勉にして海運業に秀で、ポルトガルの港に出入し、東洋の物産を中繼してその利益を収めてゐた。然るに獨立後ポルトガルの港を封鎖されたため、一時苦境に陥つたが、國民は大い



易貿のと人那支と人ダンラオ

1 オランダの興隆
 【圖説】
 オランダ人が支那(明)の商店に於て陶磁器等の貿易品を前にして盛に商談してゐる圖である。

2 東洋經營

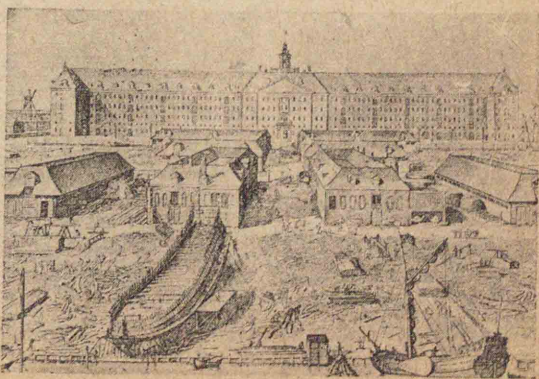
オランダ東印度會社の船渠に於ける造船の盛況である

3 アメリカ經營

4 オランダの繁榮

5 オランダと我が國

に奮起し、東印度會社をたてて自ら東洋貿易に従事し、一六一九年ジャバのバタヴィヤを根據として東洋經略に當り、次第にイスパニヤ、ポルトガルの植民地を奪ひ、臺灣にも來朝した。なほ島原の亂後は我が國との貿易を獨占し、東洋貿易に優位を占め、また新大陸には西印度會社を設けて發展し、更に北米東岸に有力な植民地を起した。かくて十七世紀の前半には海外に廣大なる領土を有し、世界の航海貿易を支配し、首府アムステルダムは高價なる世界の物貨が集散してヨーロッパ金融の中心となり、この國の富強はヨーロッパ第一といはれ、文化も榮えて多くの學者藝術家を出した。



オランダ東印度會社

圖はオランダの解剖學者ニコラス・スツルプがアムステルダムの外科醫達に腕の筋肉を解剖説明してゐるところである



解剖圖 (オランダ人ト)

つて、その獨立後二十年頃である。この頃オランダは經濟が豊かで學問の研究も進み、文化が大いに發達してゐた。中にも航海旅行等により天文學、地理學、動植物學等が發達し、殊に解剖生理學、醫學、哲學などはヨーロッパ第一といはれた。なほ國民生活の向上により工藝なども進歩し、江戸時代には地球儀、望遠鏡、時計、硝子羅紗の類より生理解剖書その他の科學書などを我が國に傳へて蘭學の勃興を促した。

しかし一般にオランダ人は商利にのみ專念し、植民地經營を怠り、また強大なる海軍を有せざりしたため、間もなくイギリスにその繁榮を奪はるに至つた。

イギリスの隆盛 イギリスにては一五五八年エリザベス女王即位してより國教を統一し、後イスパニヤの無敵艦隊を破つてその海

1 國運の隆昌

2 海外發展

幼少より才學優れ、愛國心強く、勇敢にして政治の才に富んでゐた。女王は國際的紛争を避くるため、外國王の求婚を退け、賢臣を登用して政治に勵んだ。圖はイスパニヤの無敵艦隊撃滅の記念賞牌



女王スベザリエ

上權を掌握し、東印度會社を設けて印度開拓の基をひらき、またウオターローリーをして北アメリカの東岸に植民、貿易せしめた。従つて國力大いに充實し、海外發展の機運も盛んに、國民生活も向上し、學藝も盛となつて、所謂

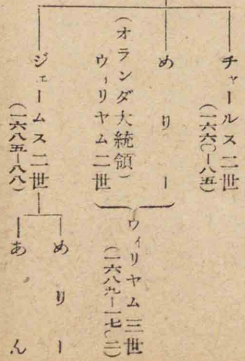
(チュードル朝の祖)

ヘンリー七世 (一四九一-一五〇九) | マーガレット (スコットランド王) | ジェームス四世

ヘンリー八世 (一五〇九-一五四七) | エリザベス (スコットランド王) | ジェームス五世

スチュワート朝の祖

ジェームス一世 | チャールス一世 | ジェームス二世



4 ジェームス一世、チャールス一世の専制

3 エリザベス王朝

エリザベス 1558-1603 王朝時代を現出するに至つた。 エリザベス女王の死後、ジェームス一世、その子

チャールス一世が相ついでイギリス王となつたが、何れも國王神權説を唱へ、

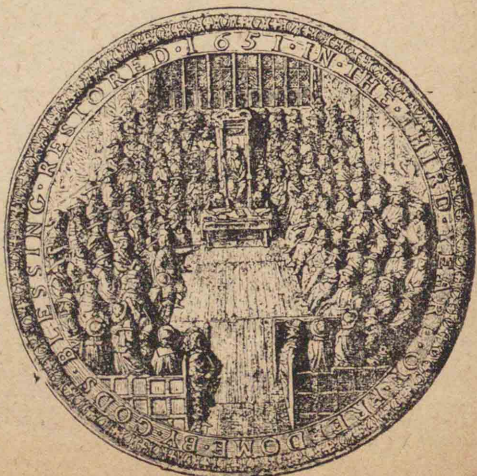
Divine Right of Kings

専制政治を行ひ、人民の權利を蹂躪し、濫りに課税して人民を苦しめたので、自由民權の發達せる英國國民の意に満足せず、國王は常に議會と衝突した。そのため内亂は八箇年も續いたが、この

時、議會黨の將クロムウェル出で、議會黨を指揮してチャールス一世の軍を破り、議會は共和政治を布いた。

Commonwealth

クロムウェルは共和政治の全權を握つて武斷政治を行ひ、所謂清教徒的精神により、厳しく奢侈を禁じて勤勉の氣風を勧め、航海條例



英國スリゴイの代時政和共

イギリス下院議場の光景。この風は今日まで傳はつて議員は演説の外は帽子をとらない

5 クロムウェルの共和政

彼は嚴肅な清教徒の家に生れ、熱烈な信仰をもち、また豪毅果斷にして政治的手腕をもつてゐた。彼の事業にはこの性格がよく現はれてゐる

6 クロムウェルの政治



ルエウムロク

7 王政に復す

○圖説

國王はイギリスの自由民権を確立し、議會政治に意を用ひた外、列國と共にフランスのルイ十四世と戦つて彼の野心を挫いた

を發布してオランダの通商を抑へ、植民を奨励して盛に海外發展をなさしめたので、國威は大いに揚つた。然るに國民はあまりに嚴格なる政治を好まず、彼の死後間もなく共和政を廢し、チャールス二世を迎へて王政に復した。



世三ムヤリ、ウ

然るにチャールス二世も、その弟ジェームス二世も共に専制政治を行つたので、國民は怒つて王を廢し、オランダよりウィリアム三世を迎へ、「權利の宣言」を承認せしめて國王ウィリアム三世とした。ジェームスはその前年フランス

8 ウィリアム三世の政治確立

○名譽革命
●徳川綱吉の頃

に出奔した。これを名譽革命といふ。これより國王は國民の權利を尊重し、また國王は議會の協賛を経ざれば、租税を徴收せざること、言論の自由を重んずることとなつた。なほ議會政治に意を用ひて議會に勢力あるトーリー・ホイッグ兩政黨の何れかに政權をとらしめ、

政黨内閣の端を開かした。

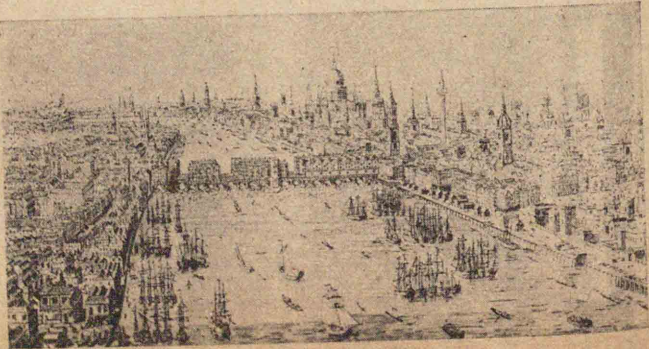
9 スコットランド合併

○圖説
正面はテムズ河。中央にロンドン橋が架せられ、橋上に家屋が建てられてゐる。橋の向ふにある大きな建物は聖ポール寺である

10 責任内閣制の端

ついで女王アンの時イングランドとスコットランドとが合併して大ブリテン國が成立し、女王の死後ドイツのハノーヴァー公が迎へられてジョージ一世となつた。これが現今のイギリス王家の祖である。しかし國王はドイツより來つて即位したので、イギリスの事情に疎く、國政は内閣が専らにすることとなつた。これより國王は政治上實權なく、内閣が議會に對して責任を負ふ政治の端を開き、民權は大いに伸張し、國運は益々隆盛に赴いた。

イギリスと我が國 イギリス船は一六一三年、ジェームス一世の國書を携へて我が平戸に來り、やがて家康より通商その他の特權を得た。かくて平戸に商館を



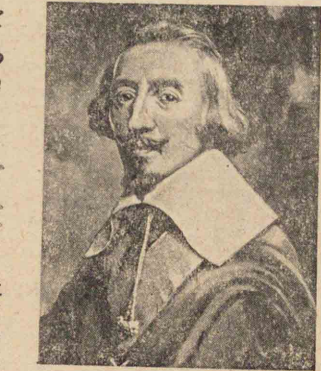
ンドソの頃紀世八十

立てて大いに活躍せんとしたが、極東貿易に於てはオランダに敗れた。

第五章 近世諸國家の發達(中)

1 フランスの隆盛

宗教家にしてルイ十三世の宰相となり、内は諸侯を抑へて中央集權を確立し、外は三十年戦争に干渉して國威を輝かした。學問・文藝上にも功績が多い。



ルイ十四世

初期までに、リシュリュー・マザレン等の賢相が
出で國王を輔佐し、内は王權を固めて中央集權を確立し、外は列國に干渉して大いに國威を發揚した。

ルイ十四世は萬機を親裁し、コルベール

3 外征

。イスパニヤ王位繼承戰役
。德川綱吉の頃

をあげて財政を整へ、産業を興し、植民貿易を獎勵したので、大いに國富を増進し、またルイヴォアを用ひて軍政を整へ強兵の策を講じたので、國力は愈々充實した。國王はこの富強を恃んでヨーロッパの覇者たらんとし、ネーデルラント等に侵入し、フアルツの一部を略し、イスパニ

Colbert

France

王は豪放密達にして壯大なることを好み、權力をもつて國民を威服せんとし、また豪奢な生活を送つた。彼の事業は多くこの性格から出てゐる。圖はルーヴル美術館蔵リゴール筆の繪畫による。

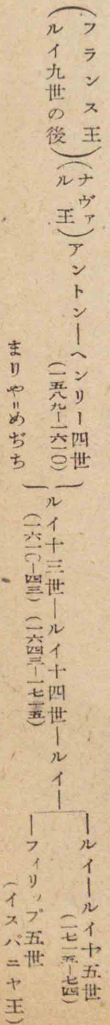


ルイ十四世

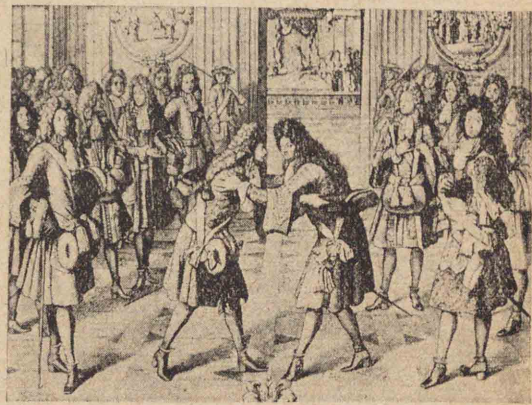
かくて外征は概ね失敗に終つたが、内政は華やかであつた。彼は王權神授説を抱いてその地位を最高神聖なるものとし、壯麗なヴェルサイユ宮殿を造つて王者の尊嚴を示し、風俗・儀禮なども極めて華麗であつた。従つてこの風は國內の貴族のみならず外國の宮廷にも

4 内政

フランスのブルボン王朝略系



これはサンゼルマン宮殿に於てルイ十四世(右)がイギリス王ジェームス二世(左)と交歓するの圖。腕を組むは當時の挨拶であり、この圖によつて當時の宮廷風俗の豪華を知ることが出来る



イギリス十四世時代の宮廷風俗

5 國民精神の頽廢

めて人民の困窮と不平甚だしく、堅實な國民精神は漸く衰へて、革命の機運が次第に濃厚となつていつた。

國王神權説 フランスのブルボン王家はもと封建諸侯の中から國王となつたものであるが、王權神授を稱して國民に絶対服従を強ひ、國民を無視したため、國

模倣せられ、フランス語は外交語として流行するに至つた。王はまた大いに文學、美術を奨励したので、ここにフランス文學の最盛時代を現出した。

王の歿後、ルイ十五世、ルイ十六世相ついで王位に即き、その間約百年に及んだが、王族の宮廷生活は益々豪華を極めて、ジエ弱無力の風を生じ、專制政治による王權

の強壓と租税の誅求とは、愈々その度を高

民の反對を受けた。かかる君臣の關係は我が國體と根本的に相違するところである。

ロシヤの勃興

ロシヤでは十七世紀の終頃、ペートル大帝が立つた。

大帝は英邁にして大志あり、早くより西ヨーロッパの文化を採つて國民を啓發せんと

し、自ら諸國を巡遊してその制度・文物を視察し、歸國後、制度・風俗を改め、造船業を興し、海軍を創設し、常備兵の制を立て、商工業を盛にし、鑛山を採掘して民福を計つたので、國運は大いに進展した。

且つ大帝はギリシヤ教の管長を兼ね、政治宗教の二權を握つて強大なる專制君主となつた。大帝はまた外征に意を用ひ、トルコより黒



ベートル大帝と大帝の造船所視察

1 ペートル大帝

本圖はベートル大帝がオランダの一造船所に於て親しく造船術を聴取してゐるところで、その視察が如何に周密徹底的であつたかを知ることが出来る。コー

2 内政

3 外征

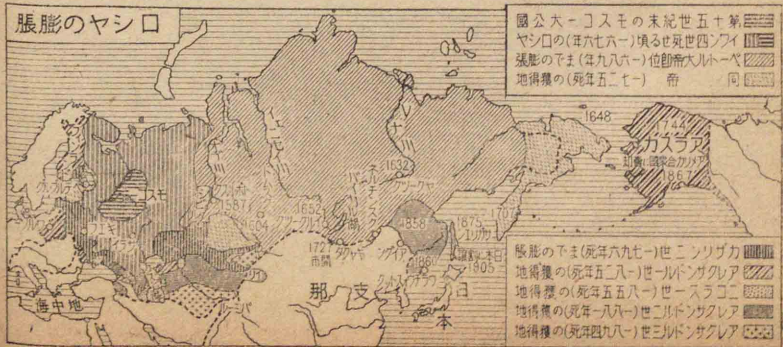
4 カザリン二世

圖は近衛兵の正装をした女帝の肖像畫による



世ニリザカ

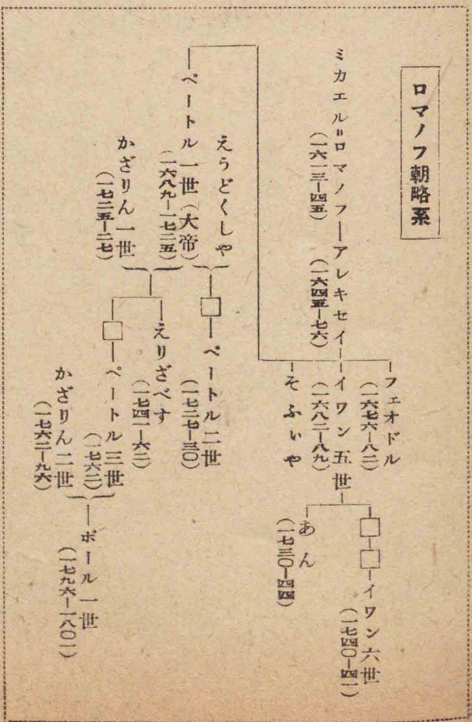
海沿岸の一部を奪ひ、スウェーデン領をとり、ペテ
ルブルグ府を新設して、バルチック海と黒海とに
門戸を開いた。なほ極東經營にも意を用ひ、清
の康熙帝とネルチンスク條約を結んで外興安
嶺以西を確保し、更にカムチャッカ半島をも略し、
後世ロシア第一の英主といはるるに至つた。
大帝の死後、女帝カザリン二世はその意志を
つぎ、ポーランド國の衰へたるに乗じて、プロシ
ヤ・オーストリア二國と
共に前後三回に互つて
これを分割し、西方に廣
大な領土を擴げた。後
また千島の大部を占領



5 ロシヤと我が國

し、アラスカを経て北ア
メリカの西海岸まで植
民事業を進めた。更に
女帝は内政に於ても西
ヨーロッパの新思想を輸
入して政治を行ひ、一代
の女傑として名聲が高
かつた。

ロシヤと我が國 ペートル大帝の時は恰も我が徳川綱吉の頃で、カザリン二世
の時は家齊の頃に當る。我が國がロシヤと交渉を始めたのはカザリン二世の
頃で、女帝はイルクツクに日本語學校を設け、船艦を樺太・千島近海に派遣した。



第六章 近世諸國家の發達 (下)

1 ハプスブルグ家

2 國勢の強大

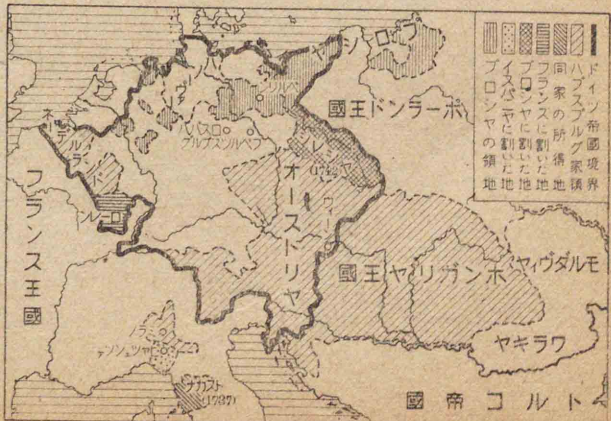
マリヤ・テレサは父帝チャールス七世の死後、列國が彼女の王位繼承を認めざるため、これらと戦つて承認せしめ、七年戰役、ポーランドの分割等に關與し、内治・外交とも列國の君主に比して少しも遜色がなかつた

オーストリアの隆盛 オーストリアに君臨するハプスブルグ家は、ドイツの有力な諸侯であつたが、十三世紀の頃より神聖ローマ皇帝を世襲して勢力あり、十六世紀にはホンガリヤを併合し、十七、八世紀にはトルコの衰弱に乗じて領土



サレテ=マリマの上馬

を擴め、またポーランド分割にも參加して所領を擴大した。さればオーストリアはドイツ帝國內にあつても舊家として門地高く、廣大なる領土をも



國土領國ヤリトス=オ

3 國際的地位

4 マリヤ・テレサ 現はる

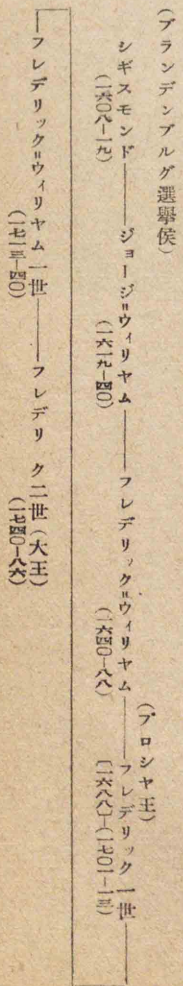
1 プロシヤ王 國

2 フレデリック大王

つて勢力強く、國際間にも永く重要な地位を占めたが、十八世紀の中頃、女傑マリヤ・テレサが現はれてより益々發展した。

プロシヤの勃興 ドイツ國內のブランデンブルグ侯ホーヘンツォレルン家は、選舉侯となつて家運勃興し、フレデリック一世の時よりプロシヤ王と稱し、都をベルリンに定めた。その子フレデリック・ウィリヤム一世は勤儉尙武を旨とし、大いに軍制を改革して兵備を整へ、産業を勵ましたので、國運は益々隆昌した。その子フレデリック二世(大王)は、非凡の英主で文武兩道に秀で、父王の志をついで國威の發揚に盡し、

プロシヤ、ホーヘンツォレルン家略系



3 オーストリアとの交渉



王大ククリデレフ

先づオーストリアにマリヤテレサの王位繼承に關する戦役が起つた時、その隙に乗じて軍をオーストリアに進め、シレシヤの地を占領し、ついでアーヘン條約によりこれを領有した。

4 七年戦役

大王は國內の體格偉大なものばかりを集めて軍隊を組織した。これをボツダム

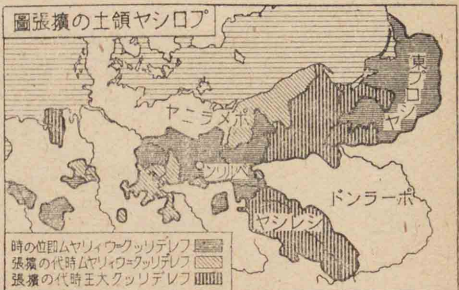
マリヤテレサは大いにこれを惡み、ひそかにフランス・ロシア・サクソニアと同盟してプロシヤを討たうとしたが、大王は早くもこれを察し、機先を制してイギリスと同盟し、先づオーストリアに侵入してここに七年戦役を起した。プロシヤ軍は戦の始、各地に敵軍を破つたが、イギリスよりはただ軍資を得たのみであつたから、次第に窮境に立ち、列國も戦に倦んで一七六三年講和條約が結ばれ、プロシヤはシレシヤを確保した。この戦に於てプロシヤは大いに疲弊したが、大王は戦後經營に意を用ひ、民力の涵養に努め、産業を奨励し、また民意を尊重して内政の刷新を行ひ、法典をつくり、學藝を勵ましたので、國運は大いに揚り、遂にはヨーロッパの一大強國として認めらるるに至つた。



士兵のヤシロフ

5 戦後經營

6 プロシヤ興隆の理由



レデリク大王に負ふところが多い。大王は文學にも趣味をもち、また智略に富み、軍事の才に優れ、且つ不屈不撓の精神に富んでゐた。プロシヤが一時窮境に陥つた時、最後まで屈せず、全ヨーロッパを相手として戦ひながら遂に敗れなかつた。戦後、余は國家の第一公僕なりとて、自ら國家奉仕の範を垂れ、よく政治を整ふると共に、親しく地方を巡遊して民情を視察し、これをいたはつたので、國民は疲弊を物ともせず、産業を勵み國家のために盡した。プロシヤの發達はこの

【註】ドイツの歴史書家アドルフフーナーマンツェル筆で、旅行中大王が國民を愛撫してゐる有様である

- 1 國家の興隆
- 2 國家主義
- 3 國際關係



王大クリデレフの中察視情民

君民一致の努力に俟つ所が多い。
 【總括】十六世紀より十八世紀にかけて、ヨーロッパにはイギリス・フランス・ロシア・オーストリア・プロシヤ等の諸國家が興隆し、各、有力なる君主が出て王權を強大にし、政治・經濟を整へ、學藝を奨励して國力を充實し、戰爭・植民等によつて國家の發展を計つた。人民もまた國家意識を高めて國王國家に奉仕せんとするに至り、國家中心主義が大いに起つた。かくてこれらの諸強國が對立する形勢となつて、列強間には戰爭・外交等の交渉が次第に頻繁となり、國際問題などもこの頃より漸く多くなつた。

第七章 列強の植民地經營とアメリカ合衆國の獨立

1 印度經營

【註】オランダ古畫による。會社創立當時の建物の前面を示す。圖中帆船に掲揚せるはイギリス最初の國旗セント・ジョージで白地に赤十字を染出したものである

- 2 アメリカ經營

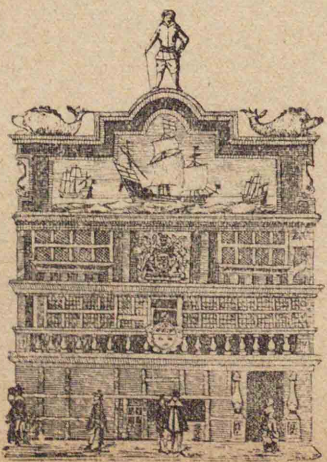
■ 植民貿易國の盛衰 地理的發見以來、イスパニヤ・ポルトガルはヨーロッパ第一の植民貿易國となつたが、やがてオランダがこれに代り、十七八世紀にはイギリス・フランスが盛に海外に活躍するに至つた。

■ イギリスの植民貿易 イギリス人は一六〇〇年東印度會社を起し、南洋及び東洋の通商を始めた。し

かし南洋及び極東に於てはオランダ人のために壓倒せられたので、全力を

印度經營に傾け、マドラス・ボンベイ・カルカタを根據として盛に發展した。

また北アメリカには既にエリザベス女王の時、ヴァージニヤ植民地をつくり、その後ニューイングランドを始め東岸一帯を開拓し、更にオランダの植民地を奪つてニューヨークをたてた。



社會度印東スリギイのンドンロ

たてた。
 第七篇 列強の植民地經營とアメリカ合衆國の獨立

1 東洋經營

フランスの植民貿易 フランスはイギリスより遅れて東印度會社をたて、東洋方面に發展して印度のボンヂェリ、シャンデルナゴル等を得た。

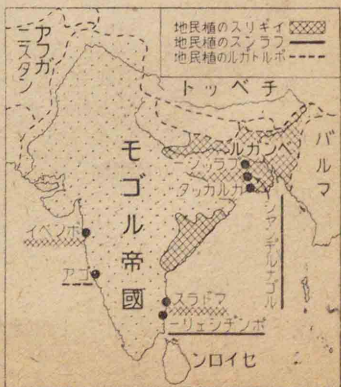
2 アメリカ經營

北アメリカでは、ルイ十四世の頃セントローレンス川

イギリスの大西洋沿岸一帯に於ける勢力と、フランスのセントローレンス川流域から中央平原に於ける兩勢力の對抗形勢を見よ



流域よりカナダ五大湖地方に及び、またミシシッピ川流域に廣大なるルイジアナを領有した。
イギリス・フランスの植民地戦争 かくて印度及び北アメリカにイギリス・フランス二國の植民地が隣接するや、その競争軋轢は次第に激烈となり、本國が争



圖係關民植度印

1 印度方面

一七三四年ジョージヤのサヴァンナの景趣。所謂集團的移民の一形態で、田園と住宅・交通等の關係に注意すべきである

2 アメリカ方面

彼は十八歳の時、東印度會社の書記として印度に渡つた。やがて士官となつたが植民經營には大いに力を盡した

ふ時は忽ち植民地にも波及した。

印度では一時フランスの總督デュプレックスが勢力を占め、イギリスは大いに壓倒せられたが、彼の歸國後フランスの勢力は衰へた。

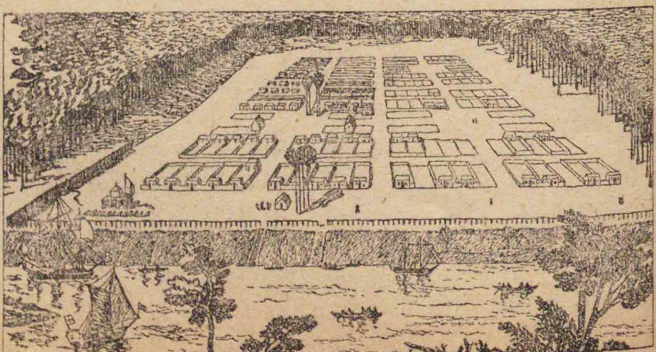
またイギリスは七年戦役の時、宰相老ピットの政策によりプロシヤに軍資を送つてヨーロッパの戦を任せ、主力を植民地經營に注いだ。

アメリカではウォルフがケベックを陥れてフランスの本據を抜き、遂にカナダを占領した。

ヴァイラック



印度でもイギリス人クライヴが一七五七年、フランス人と土人の聯合軍をブラッシーに破つて勢力を占めた。



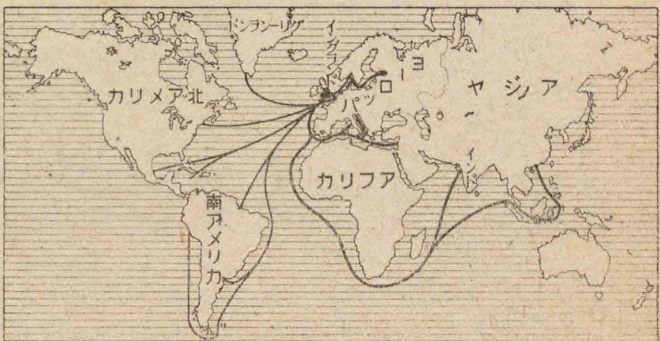
態狀の時當設建地民植

3 バリー條約

本圖によつてイギリスがその國土の狭小なるにも拘らずよく世界の海上に活躍して海外發展をなしたる模様を理解すべきである

1 植民地經營

2 植民の利



八十世紀に於けるイギリスの貿易通商路圖

かくて一七六三年のバリー條約により、北アメリカ及び印度に於けるイギリスの勢力が確認せられた。

バリー條約 この條約によつてイギリスはフランスからケーブレットン島、カナダ、ミシシピ川以東のフランス領及びアフリカのセネガル地方を得、フランスは印度のシンドルナゴル、ボンヂシリーを確保し、イスパニヤよりフロリダを得、イスパニヤはミシシピ川以西のフランス領を得た。

イギリス植民事業の成功 かくてイギリスは植民地經營に成功し、また海上權を確保して各地の航海を安全ならしめたから、海外には廣大なる領土と經濟的資源とを得、貿易によつて巨利を博し、その本國は次第に世界第

1 獨立の原因

これは二シリン
グ六ペンスの印
紙である。



紙印るよに例條紙印

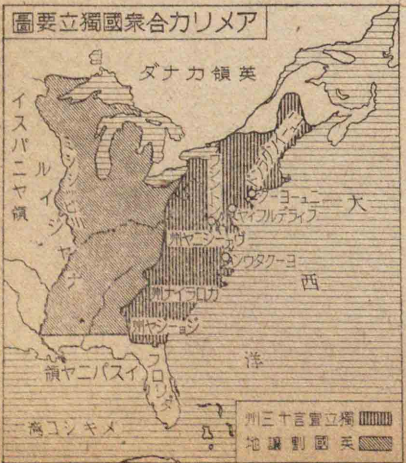
紙條例を發布し、賣買契約結婚等の證書に印紙を貼らしめた。然るに自由を尊び獨立自主の思想を抱く植民地の人々はこれに反對し、遂に十三州の委員がフィラデルフヤに會して本國と通商を絶つことを約し、ワシントン

を總督として一七七六年獨立宣言書を發表した。

獨立自主の精神 北アメリカの植民は、イギリス本國で宗教上社會上に壓迫を被つたため、新天地に逃れて自由な信仰と生活とを送

2 獨立宣言

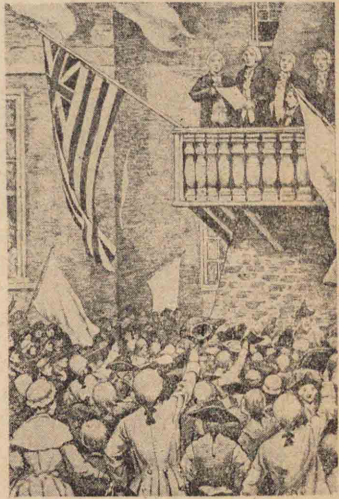
第七 列強の植民地經營とアメリカ合衆國の獨立



3 獨立戦争

(下)

これは實業にして敬虔の念ふかき清教徒の家庭を描いたものである。彼等はイギリスに於て信教を禁ぜられたので、新大陸に渡つて自由な信仰と生活をなさんとした



書言宜立獨國衆合カリメア
ントンシワるげ上み讀を

らんとするものが多かつた。この自由の精神や獨立自主の氣風はアメリカ合衆國の國民精神となつてゐる。この獨立運動に對して、本



(ンタリ-ユビ) 徒教清

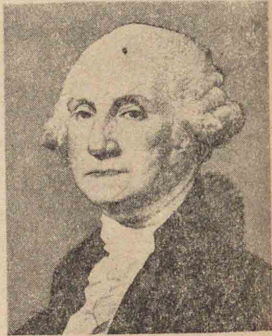
4 獨立承認

5 國情

國政府は武力によりこれを鎮壓せんとした。獨立軍は最初不利であつたが、サラトガの戦に大勝し、ついでイスパニヤの援助等があつて次第に勢力を加へ、ヨーロッパの他の諸國も合衆國の獨立を認めんとする形勢となつたので、イギリスは一七八三年ヴェルサイユ條約によつてその獨立を認め、且つミシシッピ河以東の地を讓つた。かくてアメリカ合衆國は一

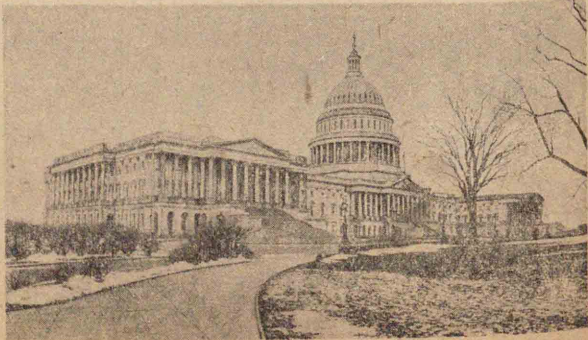
。ワシントン
。徳川家治の頃

彼は初め測量技師であつたが、イギリス・フランスの植民地戦役に軍功を立て、ついで獨立の議起るや大陸會議に出席してその牛耳をとり、獨立軍を指揮してよくイギリス軍に當り、獨立後は各州の異論を調和し、その主張をよく總めて合衆國の基礎を築いた。しかし官職を退いて後は故山に餘生を送つた



七八七年憲法を制定して聯邦組織となし、共和政を採用して、ワシントンを第一回大統領に選舉し、國會を

開いて國政を議せしめた。國民は自由を重んじ、獨立を尊び、産業を勵んで豊富なる天然の富源開發に意を用ひたので、農業先づ起り、商工業ついで隆盛となり、今日の大産業國たる基礎をつくつた。



堂事議會國國衆合カリメア

第八章 近世の文化

一 國家制度の確立 中世の封建制度が崩壊するに及び、各國王はそ

1 専制君主制

の權力を伸張して國家制度を確立し、一般に専制政治を行つた。そ

2 開明専制君主制

れら國王の中には國王神權説を抱いて絶対君主制をとるものもあり、民權を重んじて開明専制君主制をとるものも現はれた。この間にイギリスでは議會政治が發達し、國民の權利がよく伸張した。

3 議會政治の發達

にイギリスでは議會政治が發達し、國民の權利がよく伸張した。

1 經濟の發達

理的發見以後は交通の發達に伴ひ、商業が著しく發達した。従つて

2 重商主義

貨幣は最も重んぜられ、國家の富強は商業を盛にして金銀貨幣を多

3 重農主義

く蓄積することとなりとの思想(重商主義)起り、國家は高率の關稅を課

4 國家經濟

して輸入を少くし(保護貿易)、内地の産業を保護して輸出を獎勵し、以

1 國民文學

て多額の金銀を蓄積せんとするに至つた。しかし重商主義は農業

2 國民文學の傑作

を輕んじ、農村を疲弊せしむる傾向があるので、フランスでは特に重

3 國民文學の發達

農主義が唱へられた。かくて國民の經濟活動は、國家的見地に立つ

4 國民文學の發達

て統制せらるる傾向となつた。

1 國民文學

國國民文學の發達 國家の發達につれ、文

2 國民文學の傑作

學もまた中世のラテン語は廢れて、各自の

3 國民文學の發達

國語が使用され、各國民の思想、感情等に基

4 國民文學の傑作

づいて立派な國民文學が發達した。



シェイクスピア

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

1 國民文學

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

2 國民文學の傑作

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

3 國民文學の發達

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

4 國民文學の傑作

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

1 國民文學

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

2 國民文學の傑作

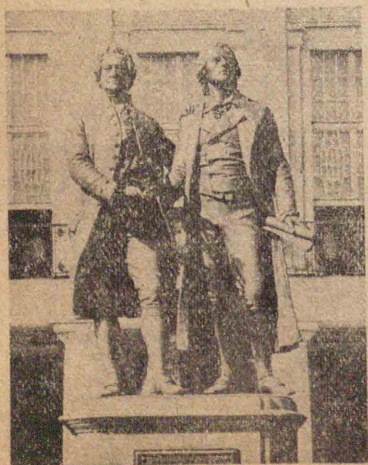
イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

3 國民文學の發達

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、

4 國民文學の傑作

イギリスのシェイクスピアは、ハムレット、



ゲーテ(左)とシラー(右)の銅像

に發達し、建築及び裝飾は特にフランスに優秀なるもの多く、全歐を風靡するに至つた。

2 各國の藝術

藝術 繪畫にはイスパニヤにヴェラスケス・ムリリョ、ネーデルランドにリューベンス、
ヴァンダイク、レンブラント、彫刻にはフランスにグーヨン等現はれ、建築にはフランスのマンサールが壯大華麗なるヴェルサイユ宮殿等を建て、その新様式と豪華典麗な室内裝飾とは、ロココ式といはれて廣くヨーロッパ諸國に傳播した。

1 哲學

圖説 幼少より學才すぐれ、數學、科學等にも秀で、遂に近世哲學を大成した。ドイツの生んだ大偉人である



カント

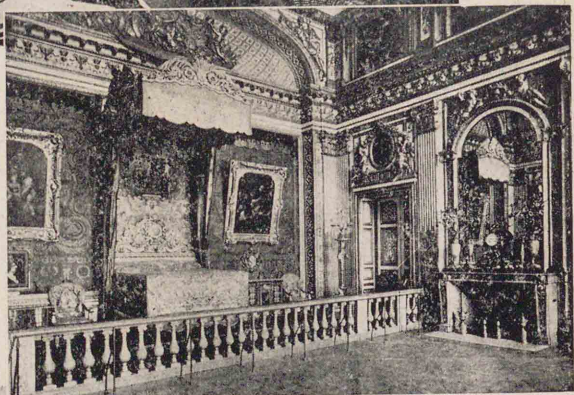
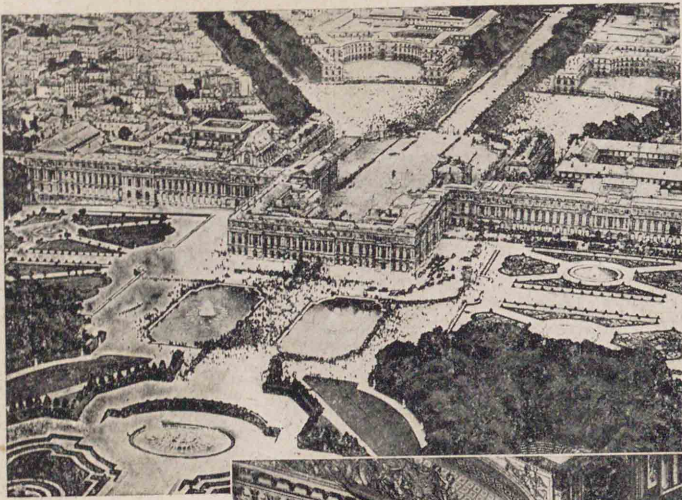
哲學の發達 哲學には文藝復興以來、自由な眞理研究の傾向が現はれ、フランスのデカルトは唯理論を、イギリスのベーコンは經驗論を説いて對立し、ドイツのカントに至つてこれを綜合大成して、近世哲學の新體系を樹立した。またイタリヤのマキヤヴェリは君主統治論を書いて名高く、オランダのグロチウスは國際法の始祖と仰がれ、イギリスのアダム・

バコン
Bacon
カント
Kant
グロチウス
Grotius
アダム・

ヴェルサイユ宮殿

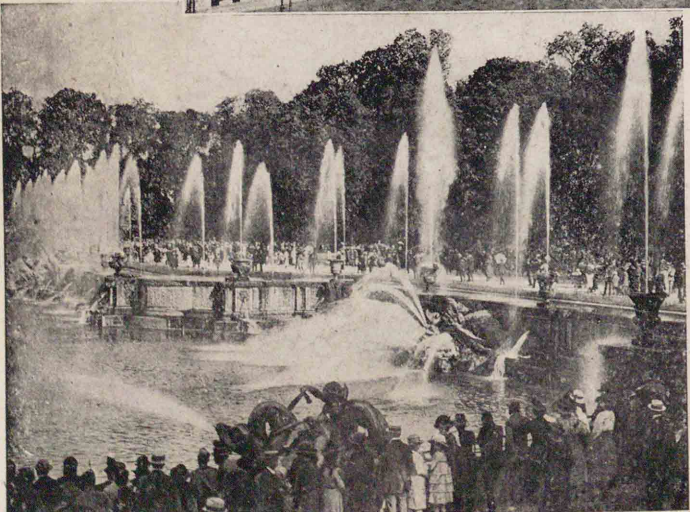
全景

上方に正門あり、中央の四字形の建物が正殿で、その後方に廣大な林泉、庭園等がある。



正殿内の一室
この室は豪華を極めたルイ十四世の居室である。

庭園内の噴水

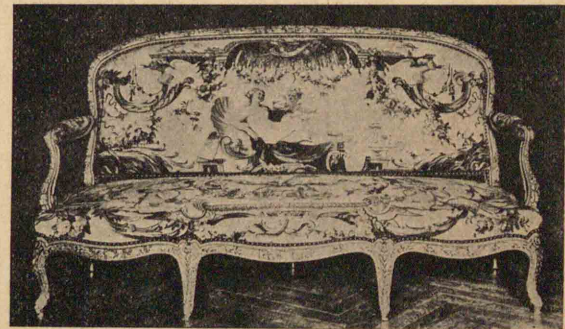


近世美術工芸

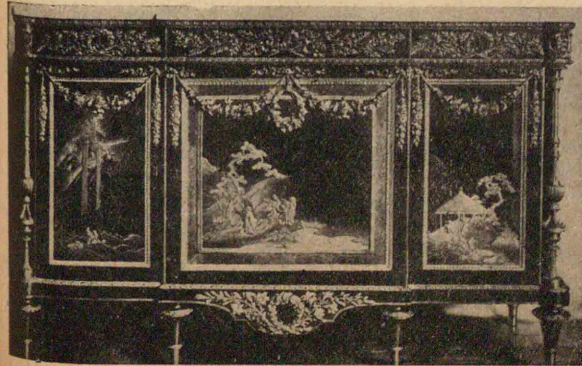
子供の世界—スルーヤチ 筆クイダ=ンアウ
(藏館畫繪ンデスレド)



懐懐き清 筆ヨリリム
(藏館物博ルヴール)



ルイ王朝時代の工芸
長椅子(右)
(ルーヴル博物館蔵)



ルイ王朝時代の工芸
筆筒(左)
(ルーヴル博物館蔵)

スミスは富國論を著し、自由貿易説を唱へ、イギリスの經濟的發展に大いなる貢獻をなした。

科学の進歩 文藝復興以來、科学の研究も盛となり、望遠鏡・顯微鏡

1 天文・理學

圖説(上)
數學・物理學・天文學にすぐれ、遂に引力の法則を發見した。ウェストミンスター寺院に葬られてゐる。



等を始め諸種の發明・發見が行はれた。ポランド人コペルニクスは天動説を打破して地動説を唱へ、ドイツ人ケプレルは天體運行の法則を發見し、イギリス人ニュートンは萬有

引力の大法則を



ワット

2 自然科學

圖説(下)
イギリスの醫師 天然痘の豫防接種を發見した。彼の功業は現代までもその恩恵を與へてゐる。

發見した。ついで十八世紀には自然科學が發達し、ラヴォアジエーは化學、リンネは植物學、ビュッフォンは動物學に偉大なる貢獻をなした。

科學の應用も盛となり、ジェンナーは種



ジェンナー

3 科學の應用

1 新思想の出現

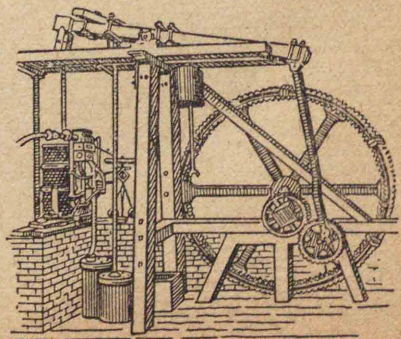
彼は哲學・文藝・歴史等にすぐれ、また新思想をもつてゐた。プロシヤのフレデリック大王にも招かれたことがある。



ルーテル・ヴォ

痘を創め、フランクリンは避雷針を、ワットは蒸氣機關を考案し、アークライトは紡績機を發明した。これらは何れも人類に多大の幸福を與ふると共に、特に機械の發明は産業界に異常なる進歩と變化とを與へた。

啓蒙思想と革新文學 文藝復興以來、人智が發達し、科學が進歩するにつれ、迷信を打破して純理を尙ぶ風が盛となり、社會上、政治上の習慣、制度等を合理的



蒸氣機の圖

に解釋せんとする傾向を生じた(啓蒙思想)。特にフランスでは明快辛辣なる筆致を以て貴族僧侶の横暴を攻撃し、社會の不平等を排し、舊慣弊風を打破せんとする新思想(革新文學)が起つた。

革新文學

Voltaire

ヴォルテールは特權階級の專横を攻撃して君主の善政に俟たんとし、モンテスキューは萬法精理を著して專制政治を退け、イギリスの立憲政治を謳歌し、ルソーは「民約説」を著して人民の自由平等を説き、共和的なる政治を高唱した。



ルソー

當時フランスの下層民はこれらの思想に共鳴し、遂に革新思想は大革命を起す一原因となるに至つた。

彼は民約説に於て、人は生れながらにして自由・平等であり、契約して國家、社會を作るといつたけれども、それは人間に能力の差、性格の相違あることを忘れ、歴史と傳統とを無視してゐるので、誤つた思想といつてよい。

【近世の文化と我が國】

近世の文化は我が國にも多く輸入せられて、明治時代以後の學問思想及び社會上に多くの影響を與へた。例へばシユクスピア、ゲーテ、シルレル等の文藝、カントの哲學、アダム・スミスの經濟學及びニュートン等の科學、ワットの蒸氣機關などその著しいものであらう。また明治時代の始め、モンテスキュー、ルソー等の革新思想が政治論社會論として盛に論議せられたけれども、我が國體と國風とに適せざるため盛とはならなかつた。

第四篇 最近世史

第一章 フランス革命

1 國王の専制

農民負擔過重の諷刺畫。手足を縛られたのが農民で、それから順次王侯・僧侶・貴族の特権階級が農民を搾取する状を示す

2 貴族・僧侶の特権

3 平民の困窮

4 自由平等思想

■革命の原因

フランスではルイ十四世以來、王權強大にして國王の専制政治厳しく、奢侈と外征とのために財政缺乏して人民を苦しめ、また貴族・僧侶も莫大なる土地を所有して豪奢を極め、剩へ諸種の特権を有して社會の上位に立つた。然るに下層の平民は何等の特権なく、且つ重税に苦しめられ、政治上社會上に壓制を被つたので、ルソー等の革新文學に共鳴して自由平等思想を抱き、偶々アメリカ合衆國の獨立に刺戟せられて益々専制政治に對する不平を高むるに至つた。



苦慘の民平

圖(上)

ルイ十六世は善良溫和な君主であつたけれども、決斷力に乏しく、また常に王后・重臣等に左右せられて政治に一定の方針が立たなかつた

1 財政整理

圖(下)

左方壇上の椅子に腰かけてゐるのはルイ十六世、壇下の左方は貴族部、中央は僧侶部、右方は平民部の議員である

2 三部會召集

3 國民議會

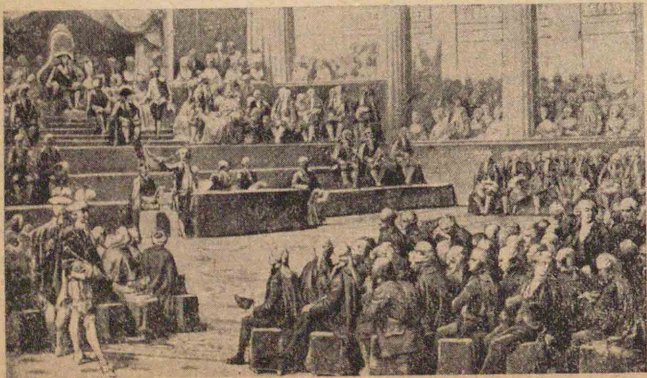


ルイ十六世

■革命の發端

ルイ十六世は大いに國事を憂へ、先づチュルゴ・ネッケル・カロンヌ等を順次登用して國家の財政整理をなさしめたが、王

后や貴族・僧侶の反對にあつて目的を達せず、遂に國民に諮らんとして久しく開かなかつた三部會を召集した。然るに三部會では最初より議論沸騰して決せず、遂に平民議員は貴族・僧侶より離れて國民議會を組織し、新憲法を制定するに非ざれば決して解散せずと宣言した。國王は止むなく兵力を以てこれを壓迫せんとしたので、一



三部會

4 革命起る

○フランス革命
・徳川家齊の頃

1 人權の宣言

平民議員が、ベ
イイの朗讀する
宣言文を歡呼し
てゐる圖であ
る。これはジ
ェロームといふ
屋内競技場の中
であつた

2 立法議會の
成立



國民會議の宣言

七八九年パリ市民蜂起してバスチーユ牢獄を破壊し次第に暴動は地方にも及んだ。

共和政の樹立 貴族僧侶は暴動を恐れて

その特權廢止を宣言し、議會もまた「人權の宣言」をなして人民の自由平等を認めた。ついでミラボー等により新憲法が制定され、國民

議會は解散して立法議會の成立をみたが、新

議會では立憲王黨が衰へて共和主義を奉ず

るジロンド黨、ジャコベン黨が勢力を得た。

Girondins Jacobins

この時オーストリアとプロシヤとは、禍亂

の自國に波及するを恐れ、聯合してフランスに干涉し、一七九二年聯

合軍はフランスに攻め入り、宣言書を發してフランス國民を警告し、

王に對する不忠を責めた。茲に於てフランス國民は大いに激昂し、

兵を集めてこれを撃退するとともに、國

王が敵國に内通せるものなることを疑

つて、彼を獄中に幽閉し、且つ王權を停止

した。やがて立法議會は解散して國民

公會となつたが、最も過激なるジャコベン

1792

黨が勢力を占め、遂に王政を廢して共和政を立て、王の罪を審問して

これを死刑に處した。かゝることは、わが國と國體國情を全く異に

1793

する外國に於てのみ起つた不祥事であることに注意せねばならぬ。

國民公會の恐嚇政治、かくてイギリス、オーストリア、プロシヤ、イ

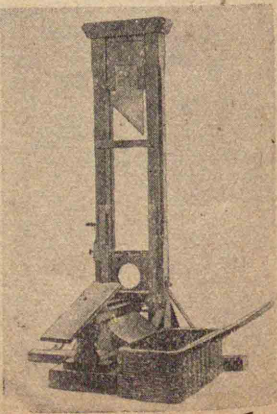
スパニヤ等の諸國はフランスに對して第一回列國同盟を組織した

1793

が、國王處刑の報に驚いて愈、國內に侵入した。しかしフランスの政

府と國民とは愛國心に燃えて進軍し、屢、列國の軍を破つた。

マルセイエズ、この戰に於てフランス軍は進軍の時マルセイエズといふ軍歌



ヌーチヨギ

3 國民公會

4 共和政とな
る

ギョチーヌとい
ふ醫師の發明し
た斷頭臺であ
る。國王・王妃
を始め多くの
人々がこの臺上
の露と消えた。こ
の模型は今パリ
の博物館にあ
る

1 列國同盟と
戰ふ

これをストラスブールの市長が、列國同盟と開戦するとの報を得て、愛國大會を催した時、その席上一青年士官が愛國の至情に燃え熱情をこめて自作の歌をうたつてゐる圖である。これが廣く誦はれてマルセイエズとなつた

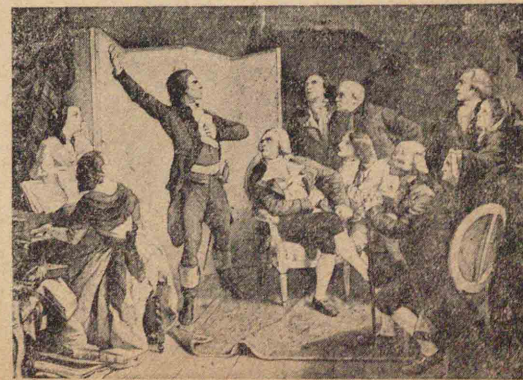
2 反對派壓制
3 庶政一新

彼は雄辯家で、熱情をもち、清廉にして所信に忠實であつたが、理想に走り徹底的であり過ぎたとはいはれて



ルーエビスペロ

族僧侶の土地を沒收して人民に分ち、キリスト教を排して道理教を立て、曆法を改正して共和曆を作り、度量衡を統一してメートル法を定めた。國民もまたその風俗習



馬吟のズエイセルマ

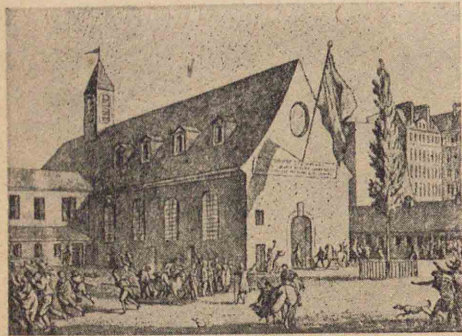
4 恐嚇政治終る

右は革命前の服装。左は革命後の服装。一般に虚飾と華美とを退け、簡單粗略になつた

圖(上)

その頃パリーの繁華なるサントノレの町にあつた古き僧院の中にジャコベン黨が本部をおき、ここで多くの戦慄すべき會合が行はれたのである

1 都督政府の外征



部本黨ンベコヤジ

慣を革新し、世相が一變するに至つた。しかし間もなく過激派に内訌あり、勢力あるものが相ついで斃れ、ジャコベン黨も衰へ、僅に一年餘にしてこの戦慄すべき恐嚇政治は終末を告げ、これに代つて穩健なる都督政府が成立した。

が成立した。

都督政府と統領政府 都督政府は五人の都督と上下兩院とが主となり、先づフランスに敵對する列國同盟を撃破せんとした。

かくて新に三軍を組織してオーストリアに迫つたが、ひとりナポレオンの軍のみイタ



變遊の俗風

2 エジプト遠征

【圖解(上)】彼は二十五歳にしてイギリス首相となり、大いに政績をあげた。外交に於ては最後までフランスを敵とし、ナポレオンに對抗した。(一八〇六年死)



トッピ小

リヤより侵入して大勝を博し、ウィーンに迫つて、遂にカンポ・フォルミオの和約を結ばしめ、ネーデルランド及びイタリヤの地を得、列國同盟を解散させた。ついでナポレオンは政府を説き、イギリスを制する

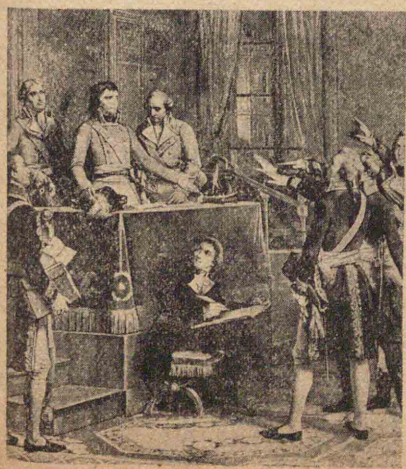
ため、印度との交通路にあたるエジプトに遠征したが、英將ネルソンのためにその艦隊を撃破された。この時列國は英國首相

小ピットの主唱により、第

3 第二回列國同盟

【圖解(下)】ナポレオンが一七九九年第一統領として會議に臨んだ時の颯爽たる光景である。圖はヴェルサイユ博物館所藏

二回列國同盟(イギリス・オーストリア・プロシヤ・ポルトガル)を組織してフランスに侵入せんとした。そこでナポレオンは急にエジプトより歸り、武力を以て政府を倒し、新に統領政府を立て、三人の統領を設け、自ら



ンオレボナのてしと領統一第

4 統領政府とナポレオン

第一統領となつて軍事政治の實權を握るに至つた。これよりナポレオンの獨裁政治始まり、共和政治は名のみとなつた。

第二章 ナポレオン一世

1 オーストリアを討つ

【圖解】ナポレオンはこの勳章を制定して軍功あるもの外、文化上の功勞ありしものにもこれを與へて表彰した。彼の文化獎勵に意を用ひた一端を知ることが出来る

2 内政を整ふ



ルーヌド=ンジョレ

ナポレオンの内政 ナポレオンは、オーストリアとイギリスが飽くまでフランスに敵對するを見て、先づオーストリアを討たんとし、モローをドイツ方面より進ませ、自らはアルプスの險を越えて北イタリヤに出で、大いにオーストリア軍をマレンゴに破り、ライン左岸の地を割かしめた。ついでイギリスも戦はずして和し、かくて第二回列國同盟は瓦解した。

ここに於てナポレオンは内政に意を用ひ、財政を整へ、交通をよくし、内亂に荒廢せる産業の保護發達を企て、教育を奨め、學者

○(下)
この法典は巧みに新舊の思想・制度・習慣等を折衷したもので、混戦後の世相・生活を安定すると共に後世の模範ともなつた。

3 ナポレオン皇帝となる

○ナポレオン皇帝となる
・徳川家齊の頃

4 ナポレオンの人物

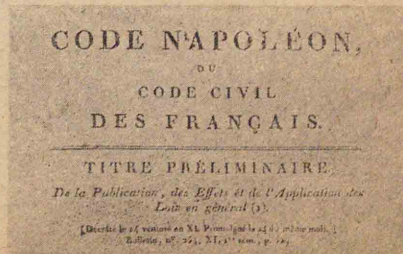


ンオレボナ帝皇

軍人を優遇し、また道理教を廢してローマ舊教に復し、有名なナポレオン法典を發布して社會生活の標準を定めた。そのため民心と生活とは安定し、各その志を遂げ得たので、國民はナポレオンを信望すること益々深く、一八〇二年彼を終身の統領に推した。ついて一八〇四年彼は國民大多數の投票によつて皇帝の位につき、翌年イタリヤ王を

も兼ねるに至り、フランスは名實共に帝政となつた。

ナポレオン ナポレオンは古今に稀な大英雄である。頭腦明敏にして意志鞏固に、且つ機を見ること敏にして勇往邁進の氣象に富み、またよく所信を斷行した。そのため武將として遂



部一の典法ンオレボナ

1 イギリス侵入計畫

トラファルガル海戦の際ネルソン(中央)が、かの有名な「イギリスは各員がその責任を盡さんことを期す」の信號を掲ぐる時の光景である。

2 オーストリア侵入

に皇帝にまで上つたが、また内政を重んじ、民治に意を用ひ、文化事業に携つたことはケーザル・アレクサンドル大王とその軌を一にする。ただ武力に優れたるものは武力を用ふること盛に、そのためヨーロッパ諸國を戦亂の巷に置かした。自らもまた武力によつて倒さるるに至つた。

ナポレオンのヨーロッパ統一 ナポレオンが皇帝となつた翌年、イギリスは諸國と共に第三回列國同盟(ロシア・オーストリア・プロシヤ)を結んだ。

そのため彼は大舉してイギリス侵入を企てたが、その艦隊はネルソンのためトラファルガル海戦に撃破せられて、その計畫は失敗した。

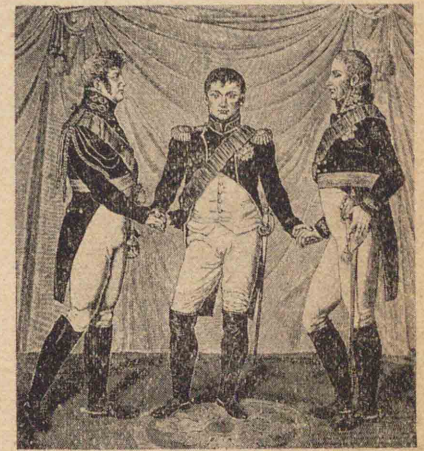
かくてナポレオンは一轉して軍を東方に進め、オーストリア・プロシヤ兩皇帝とアウ



ンソルネの上艦ヤリトクイウ

右からオーストリア皇帝フレデリック・ウィリヤム三世・ナポレオン・ロシア皇帝アレクサンドル一世

3 プロシヤ侵入



約和のトッヅルチ

4 大陸封鎖令

ベルリンを陥れ、チルジットの和約を結んで、その領土の大半を奪った。ナポレオンはまたイギリスに打撃を與へんとし、ベルリン滞在中大陸封鎖令を出して、大陸諸國とイギリスとの通商を禁じたので、イギリスは經濟上大打撃を被つたが、國民はよく自制してこの難局を切抜けた。しかし封鎖令は大陸諸國をも苦しめ、ポルトガルが先づこれに背いたから、ナポレオンは直ちに出征し、更にイスパニヤの内

5 ナポレオンの全盛

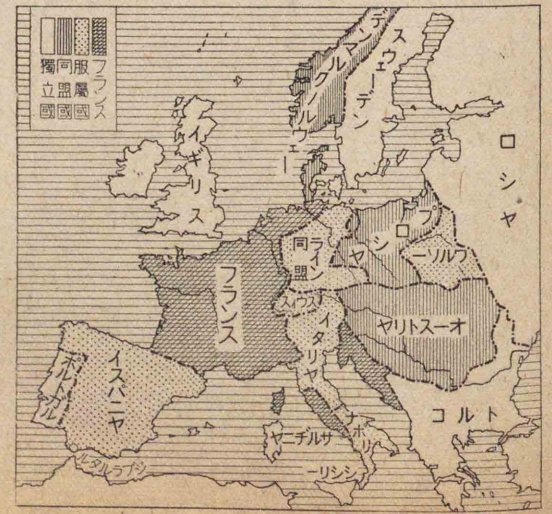
亂をも鎮定した。この機會にオーストリアも兵をあげたが、彼は直ちに轉じてこれをワグラムに破つた。かくてイギリス・トルコを除いて彼に從はざるものなく、ここにナポレオン全盛時代を現出した。

1 ロシヤ侵入

ナポレオンの衰勢 一八一二年 ロシヤが大陸封鎖令に背いてイギリスと貿易を始めたため、ナポレオンは大舉してロシヤに侵入し、長驅してモスコウを占領したが、偶大火に遭ひ、糧食の缺乏と寒氣とに苦しめられて歸國した。

2 ナポレオンの退却

プロシヤの奮起 だが、ナポレオン敗退の報に接して奮起し、直ちに第四回列國同盟



圖地パッローヨの代時盛全ンオレボナ

4 ライプツヒの戦

【圖説(下)】
ナポレオン軍がロシア遠征に失敗して酷寒と飢餓に苦しみつゝ、退却する有様で、退却の途中ロシア軍の追撃をうけ全軍潰亂した

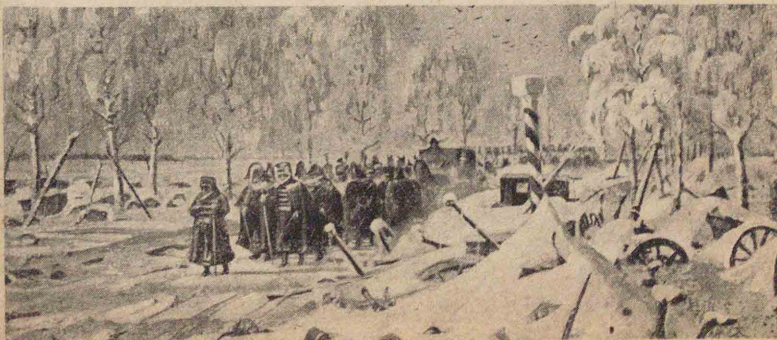
(イギリス、ロシア、オーストリア、スウェーデン)を結んで、ナポレオンの大軍をライプツヒに撃破し、更に進んでパリを陥れ、彼をして帝位を辭せしむると共にエルバ島に流し、ルイ十八世を迎へてフランス國王とした。

プロシヤ精神の作興
プロシヤは最初ナポレオンのために大敗を被つたが、後國民は期せずして奮起した。シュタイン・ハルデンベルヒ等は國運更生の策



シュタイン

を練り、シャルンホルストは徴兵制を布いて軍備を充實し、哲學者フヒテは愛國的熱情を以て國民精神の作興に努め、ヤーン等は體育會を組織して青年を訓



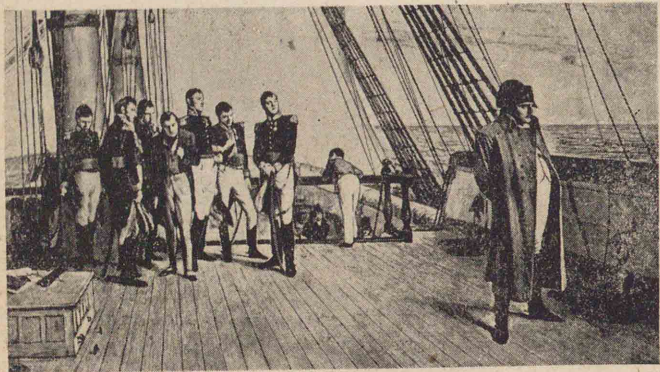
ナポレオン軍の退却

【圖説(上)】
シュタインはチルジットの屈辱後、難局に處して國政を改革し、財政を整へ、シャルンホルストと共に軍制を改革し、強力な軍隊を作つた

1 再び帝位に即ぐ

【圖説】
ナポレオンが船上(ベレロフォン號)遙かに故國を眺めて無量の感慨に耽つてゐるところである

2 ワーテルローの戦



ナポレオンの流謫

練した。従つて一八一三年のフランスとの戦争には銃劍を執るものは勇んで出征し、家にあるものは老幼婦女に至るまで獻金して奉公の至誠を盡した。プロシヤが大勝を博した所以もまたここにあつたのである。

四 ナポレオンの再起
かくて各國はウィーンに會議して善後策を講じたが、各國の意見衝突して容易にまとまらなかつた。ナポレオンはこの機會に乗じてひそかにエルバ島を脱れてパリに歸り、再び帝位に即いた。列國は大いに驚き、直ちにプロシヤ、イギリスの兵を以てこれを討たしめた。一八一五年、ワーテルローに於て壯烈な最後の戦が演ぜられたが、ウェリントン

3 セントヘレナ流涕

する英兵の頑強な抵抗と、普軍の機敏なる側面攻撃とにより、さすがのナポレオンも萬策盡きて敗れ、遠くセントヘレナの孤島に流涕さるるに至つた。彼が帝位に即いてから僅かに十二年目である。

第三章 反動主義と自由主義

1 ウィーン條約の締結

■ **ウィーン會議** ナポレオンの再起に驚いたウィーンの列國委員は相互に妥協して急速に議事をまとめ、ウィーン條約を結んだ。この條約によつてヨーロッパの大改造が行はれた。

先づ各國の領土分合について、(一)ロシアはワルソー大公國の大部を得て、ポーランド王國を作り、ロシア皇帝がその王位を兼ね、(二)プロシヤはワルソー大公國の一部とサクソニアの北半及びライン左岸の地を取り、(三)オーストリアはロンバルディアヴェニスを得、(四)オランダはベルギーを併せてネーデルラント王國をつくり、(五)スウェーデンはノルウェーを併せ、(六)イギリスはマルタ島、ケープ植民地、セイ

本圖とナポレオン全盛時代圖とを比較すると、興味が深い。武力によつて成立したナポレオンの地圖は消えて、再び民族と歴史とを基礎とする多くの國境が描かるることとなつた

1 神聖同盟の成立

2 神聖同盟の精神

ロン島を保有し、(七)ドイツ諸國はオーストリア、プロシヤ以下三十五の君主國、四自由市等を併せてドイツ聯邦を組織した。また各國の君主は正統主義により多く革命前の王家が復位した。

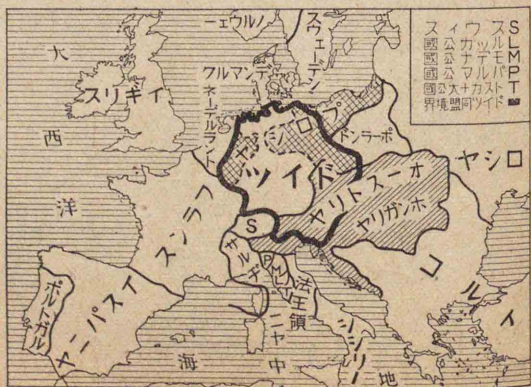
■ **神聖同盟** この會議後は一般に保守專制的の傾向が強くなり、神聖同盟が生れた。

即ちウィーン會議後、ロシア皇帝アレクサンダー一世はオーストリア皇帝プロシヤ王



世一ルドンサクレア

等と共に各國の君主と神聖同盟を組織し、キリスト教の精神に基づいて正義博愛を旨とし、君主は互に相扶けて親和し、また國民を子の如く愛護せんことを約した。列國君主は國民の不平反抗を



圖地パッローヨの後役戰ンオレボナ

3 自由統一主義と民族統一主義

恐れ、戦亂を厭うてゐたから、多くこれに加盟した。然るにフランス革命以來、各國民の間には自由主義が傳播して君主の保守専制に反對するもの多く、また民族統一主義が起つて他民族君主の統治を排撃し、自ら團結して獨立國家を作らんとする風が盛となつた。

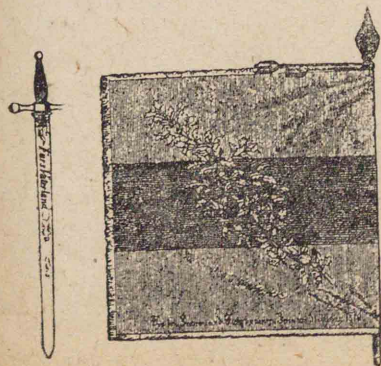
1 メッテルニヒ

自由運動の抑壓 オーストリアの宰相メッテルニヒは外交政策の

2 自由運動の抑壓

旗は上より黒・赤・金で一八一六年三月三十一日イエナの婦人少女寄贈とある。劔には「祖國のために」と刻してある

一時ヨーロッパに勢力を振つた。諸國の自由運動 ドイツ聯邦にては、その統制不十分なる上、各君主は多く専制政治を行つたから、國民は眞の統一と自由とを得んとし、大學生等が各種の團體を作つて頻りに運動したが、メッテルニヒは諸聯邦と計つてこれを抑へた。イタリヤに於てもオーストリアの勢力を驅逐して自由統一運動を起さんとしたが、メッテルニヒは列國と議し兵力を以てこれを鎮め、ついでイスパニヤに起つた自由統一運動もまた鎮壓された。ついでメッテルニヒは、新大陸に於けるイス



劔と旗合組年青ツイド

圖(上) イギリス畫家ロレンス筆で、ウインヅル宮殿藏



ヒニルテツメ

3 抑壓の失敗

パニヤ・ポルトガル兩國植民地が自由獨立運動を起した時、また神聖同盟を利用し兵力により鎮壓せんとしたが、イギリスの干涉とアメリカ合衆國のモンロー主義宣言とに阻まれて失敗した。更にギリシヤがトルコの統治を脱して獨立せんとした時も、これに干涉して失敗を重ねた。

4 モンロー主義

圖(下) アメリカ合衆國第五次大統領

モンロー主義 モンロー主義とはアメリカ合衆國

大統領モンローが一八二三年に發した教書で、アメリカ合衆國は南北アメリカ大陸諸國の獨立を擁護



一 ロ ン モ

し、且つヨーロッパ諸國が米大陸の國事に干渉することを禁じたもので、その後長くアメリカ合衆國の國是となつた。

かくてメッテルニヒは漸く勢力を失ひ、神聖同盟は衰へ、再びフランスを中心として自由主義運動が起り、それがヨーロッパ各國に波及するに至つた。

1 反動政治と暴動

2 ルイフィリップ國民の王となる

ルイフィリップはルイ十四世の弟フィリップの子孫であるが、國王といはずして國民の王といひ、人望を得た



ブルジョワ

起り、國王はイギリスに出奔し、民主的なルイフィリップが迎へられて王位についた。この革命は自由主義運動の勝利であつたから、各國の自由主義者を刺戟し、ポーランド、ドイツ、イタリア等に及んだが、何れも鎮壓され、ベルギ

4 七月革命とその影響

フランスでは、ウィーン會議後、ルイ十八世が王位に上つて反動政治を行ひ、著しく民望を失つたが、次王チャールス十世もまた専制政治を行つたので、一八三〇年七月、パリに暴動が

3 ベルギーの獨立

のみがネーデルランドより獨立して、一八三一年局外中立國となつた。

2 二月革命とその影響

ルイフィリップは、その始よく憲法を守つて自由主義の政治を行つたが、後ギゾーを用ひて保守専制に傾き、言論出版の自由を抑へ、選挙法改正運動を弾壓し



たので、一八四八年二月、パリに再び暴動起り、そのため國王はイギリスに出奔し、フランスは再び共和政となつた。

この革命もまたオーストリア、プロシヤ、

イタリヤ、ハンガリヤ等に影響を與へ、各地に暴動が起つたが、何れもやがて鎮定せられた。しかしこれよりヨーロッパ諸國には自由統一運動が盛となり、後世に大きな影響を及ぼした。

【總括】

十八世紀末より十九世紀の初頭にかけて、ヨーロッパ各國はフランスに

ギゾーは當時の有名な政治家であり、且つ歴史家であつた

2 その影響

1 二月革命

起つた自由思想とナポレオンの武力といふ二つの脅威をうけた。列國君主は協同してナポレオンを倒し、ウィーン會議と神聖同盟とによつて一たび舊に復することを得たが、國民の間に傳播した新思想は容易に抑壓する能はず、國內は常に不安動搖した。かくて自由思想は政治思想、社會上等に深く浸潤し、特に政治上に於ては自由統一運動が各國に於て着々その功を奏するに至つた。

第四章 産業革命と社會上の變化

1 産業革命 2 その影響

1 機械の發明

フランス革命と共に産業革命は最近世史初頭の二大變革である。産業革命は十八世紀の末よりイギリスを中心として歐米諸國に行はれ、物質文化の進歩と一般社會生活の向上を來すと共に、政治、經濟、學術等にも影響を及ぼした。

■産業革命の發端 産業革命は科學の發達と諸機械の發明等より起つた。イギリスにては、十八世紀の末葉よりアーケライト・ハーグ

A. PARKER LIGHT HARTEGALVER

【圖(下右)】この紡績機は右側の車を動かすことにより、數十の紡錘が動いて同時に數十の絲が紡げるものである

2 動力の發明

【圖(下左)】

織物機は中央の梭(オサ)が自動的に動いて織られゆくものである。何れも人力を省き、且つ一度に多量に生産し得るものであつた

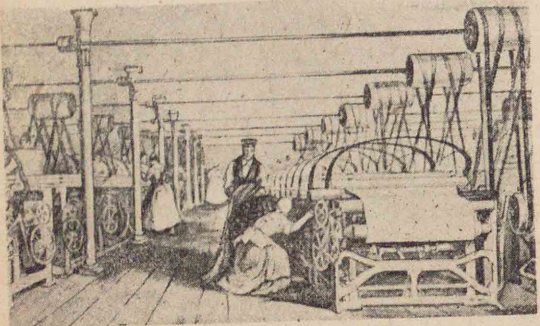
3 交通機關の發達

【圖(上)】

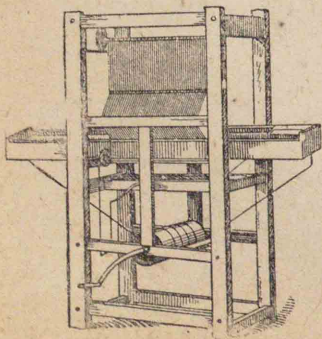
圖は蒸氣動力による織物機であるが、從來の手織に比して隔世の感がある

リーヴス等が紡績機、カートライトが織物機を發明して、小人數の勞働により生産を多量にし、ワットは蒸氣機關を改良して機械運轉の動力を提供した。更に機械と動力の原料たる鐵、石炭が無盡藏に發掘されたので、工業は長足に進歩した。

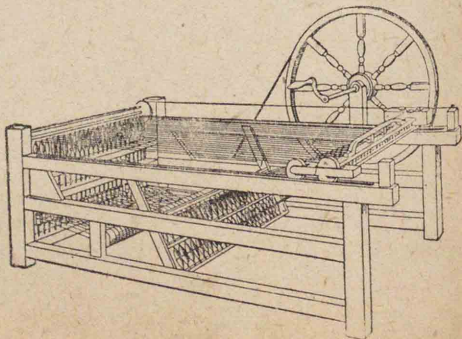
また交通機關が發達して原料製品の運輸が便利となつたため、廣大なる植民地との間に原料の買入や製品の販賣が容易に



場工物織の期初るけ於にスリギイ



機物織のトイラトールカ



機績紡のスヴェーリグーハ

1 物質文化の進歩

2 国力の充實

行はれ従つて商業貿易も大いに發達した。

■ 社會上の變化 産業革命によつて大規模なる工場工業が發達し、その結果所謂加工精製品が増加して一般生活の向上に資し、學理の應用と相俟つて物質文化の繁榮を促し、人類生活に非常な幸福をもたらした。殊にイギリスに於ける商工業の目覺ましき發達は、その國民及び國家の經濟力を豊かにし、従つて外國の經濟的壓迫にも屈せず、外交戦争等に於ても恐るべき国力を發揮し、海外發展に於ても常に優越なる地位を獲得することが出來た。最近に於けるイギリス國運の隆昌と世界的發展とは、實にこの經濟的基礎の鞏固なりしことに因由するといふことが出來る。

3 都市の繁榮

また商工業の發達は、工場・商港等を中心として人口を集中せしめ、マンチェスター、リヴァプール等數多の都市が發生したが、そのため工業労働者は増加し、農民は益減少した。かくて都市の隆盛を見る半面

4 農村の凋落

5 資本家と労働者

6 労働問題の發生

○ 労働組合を設けた外、労働者の参政權獲得運動等を起して政治的に活躍するところが多かつた



ルネンコーオ

問題は起つた。そのためロバート・オーウェン

は工場法の設定を請願して容れられ、オーコ

ネル等は職工組合を設けて労働者の相互

扶助と權益擁護とを計つた。しかし労働者

には選挙權が與へられなかつたので、参政權を要求し普通選挙を望むもの多く、大示威運動をなすものもあり、かくて労働問題は社會上、政治上の重大問題となつた。

産業革命の傳播

産業革命はイギリスを中心として、アメリカ・フ

1 産業革命の傳播

2 内政改革と
国力の充實

ランスに傳はり、稍遅れてドイツ・イタリア等にも弘まつたが、各國はその政治・社會問題を巧みに解決して益、産業の發達を圖り、国力を充實して國家的發展の基礎を築くに至つた。

第五章 國民的國家の隆盛(二)

1 イギリスの隆盛

イギリスは一八〇一年、アイルランドを併せて

Ireland

聯合王國をつくり、益、隆盛となつたが、また議會政治の發達により諸種の重大問題を平和裡に解決して、國運は愈、隆昌した。

2 選舉法の改正

産業革命の結果、都市の數が多くなり、農村の人口

1 選舉區改正
問題

は減少したが、選舉區と選舉議員數は從來のまゝであつたため、都市商工業者の權益は多く議會に於て認められなかつた。そのため、選舉法の改正が屢、論議せられ、遂に多くの腐敗選舉區が廢され、新選舉區が設置せられることとなつた。

2 腐敗選舉區
の廢止

腐敗選舉區

人口が都市に集中せる結果、

例へば Birmingham ミンガム・マンチェスターの如き

人口十萬以上の都會でも選出さるる代議士が一人もないのに、これに反して地方には僅少の人口のところからでも代議士を出すところがあつた。後者を腐敗選舉區といふ。よつて新興都市の住民の權益は顧みられず、地方の地主・貴族の意見に偏する傾きとなつたが、一八三二年六十八の腐敗選舉區が廢止され、二十七の新選舉區が設けられた。これより新興都市の商工業者も參政の機會を得、公平なる政治が行はれることとなつた。



過通の案正改法舉選

改正案はグレー伯のホイッグ黨内閣の時に六〇八人の議員が激烈なる論戰をなし、遂に僅か一票の差を以て通過した

1 穀物法廢止

輸入されたので、その價格が低下したから、議會は地主・農民等を保護する目的により穀物法を制定して輸入穀物に課税した。しかしその反動として價格騰貴して労働者を苦しめたので、コブデン・ブライ

Cobden Bright

コブデンは保護貿易を捨てて自由貿易を主張した。このため農民・地主は困窮したが、商工労働者は恩恵をうけた

2 自由貿易主義の確立

1 宗教問題

2 土地問題

3 自治問題

1 政黨政治

2 保守黨



コブデン

ト等は穀物法の廢止を主張し、一八四六年兩院を通過した。また一八四九年には航海條例が廢止せられ、保護關稅なども殆ど撤廢され、ここに自由貿易主義が確立し、イギリスの商工業は益々發展するに至つた。

④ アイルランド問題

イギリスの議會ではアイルランドの併合後、その宗教土地自治の三問題について論議したが、一八二九年アイルランドの舊教信仰を認めて政治上同等の權利を與へ、一八七〇年には貴族・僧侶の土地を買収して小作民に貸與し、農民の生活を安定した。たゞ自治問題のみはその後長く議會の問題として殘された。

⑤ 政治の發達

イギリスにては十九世紀の中頃より、保守黨と自由黨とが對立して責任内閣を組織し、交互に立つて政黨政治の實をあげた。保守黨はヂスレーリ内閣を始め多く國威の發揚、海外發展、外

3 自由黨

交工作、海軍の擴張等に力を用ひ、自由黨は

グラッドストーン内閣のアイルランド問題に

Gladsstone

於けるが如く、主として自由民權の發達に意を用ひて内政を整へるなど、兩黨何れも

國運の發展に力を盡した。恰もこの頃は

ヴィクトリヤ女王在位中であつたから、ヴィク

Victoria

トリヤ時代ともいはれ、商工業は繁榮して

1837-1901 國富み、海外の植民地は増加し、内政は整ひ、

外交上にも多



セントスドゥラッグ



リーレスデ

くの成功を収めて、エリザベス時代と共にイギリスの最盛期といはれた。

⑥ 植民地及び外交の成功 イギリスは地理的關係、上海發展を必要としたが、



女王ヤリトクイヴ

⑦ (七) ジョージ四世の孫、夫君をアルバート公といふ。イギリス女王にして印度皇帝を兼ね、六十四年の間位にあり、よく國家を統治した

1 海外發展の必要

2 植民政策
3 自治植民地

産業革命後は経済的にも益、必要となり、十九世紀に於ては印度・アフリカ・大洋洲・アメリカ等に領土を擴めた。然し植民政策に於てはアメリカ合衆國の獨立に懲りて次第に経済的自由と政治的自治とを許し、聯邦を組織して責任内閣をも作らしめ、本國とも緊密な關係を

4 外交家

一八三〇年より一八六五年まで、外相首相等に歴任した。その間東方問題に於て巧妙なる外交によりトルコを助け、ロシア、フランスの進出を防いでイギリスの勢力を増大せしめ、一八四〇、クリミア戰役にはロシアの南下を防ぎ、また支那の長髮賊の亂後に活躍して外交上の成功を収めた。



パルマーソン

またパルマーソンの如き名外交家が現はれて東方問題等に活躍し、東歐及びアジア等に成功を収めたので、イギリスの國威は益々發揚せられた。

イギリスの國民性 イギリスの大發展はその國民性に俟つ所が多い。イギリス人は進取の氣象に富み、沈着冷靜であるから、海外に廣大なる植民地をつくり、また自由を尙び民權を重んずるためによく立憲政治を完成した。なほ獨立自主の精神強く、經營の才に長じ、

穩健着實で常識に富むため、漸進的にして堅實なる發達を續けてゐる。且つ虚名を避けて實利を重んじ、商利に敏いので、經濟上にも優越することができた。しかも傳統を重んじ紳士としての教養を怠らず、大國民たるの襟度を備へてゐる。

第六章 國民的國家の隆盛(二)

1 十三州
2 領土の擴張
アメリカ合衆國の膨脹 アメリカ合衆國の獨立當時は僅かに東部十三州のみであつたが、その後ミシシッピ川以東をイギリスより讓受け、更にフランスより中部平原のルイジアナを買收し、ついでイスパニヤよりフロリダを買收し、西部メキシコ領は本國を離れて合併し、またメキシコ戦争によりテキサス・カリフォルニアを受け、十九世紀の中頃には大西・太平洋兩洋に接する廣大な版圖をもつに至つた。
産業の發展 この頃ヨーロッパでは盛に自由主義を抑壓してゐた

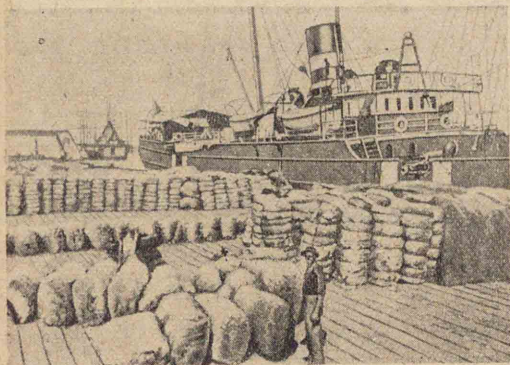
1 移住民の開拓

十九世紀の中頃、遂に太平洋岸にまで達し、またヨーロッパから盛に移民を歓迎して、これ等の地方を開拓させたので、一八六〇年には三十三州三千一百万の人口に達した。圖中○内の数字は獲得の年代を示す

2 南部の農業

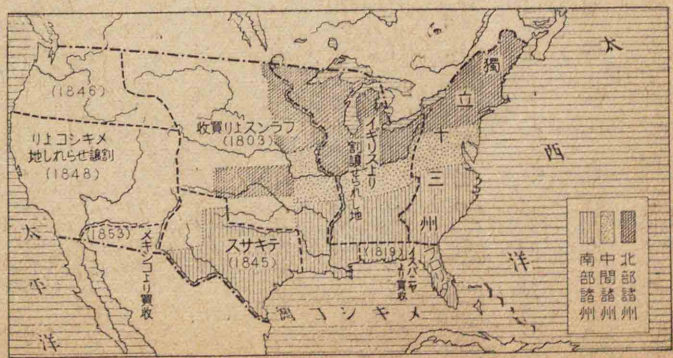
3 北部の工業

南部には小麦・玉蜀黍・棉等の收穫が多かつた。圖はニューオルリーンスより棉積出の光景である



出積の花棉るけ於に部南

から、この新天地に移住するもの多く、彼等は一望千里の曠野を開拓して到る處に新興の都市・村落を建て、または産業革命による新法を移して商工業を盛にした。中にも南部は氣候温暖にして地味肥沃であつたから、農業が發達し、北部は鐵石炭石油木材の産出が盛であつたから、工業が發達した。かくて南部は大農法によつて莫大なる農産物を出し、北部には大規模なる機械工場によつて



圖大擴土領國衆合カリメア後立獨

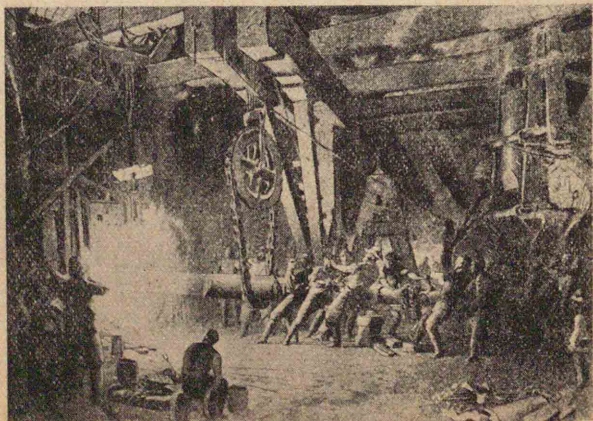
1 原因

十九世紀中頃の北部に於ける製鐵工場の内部分で、船舶用の大鐵柱を製造するところである。蓋し當時としては宏大なものであつた。ワイヤ一筆、ニューヨーク博物館所蔵による

大工業が發達し、また交通機關の發達によつて商業も活潑に行はれ、かくしてアメリカ合衆國は農工商を兼ねたる大産業國となつた。

南北戦争

然るに南北の異なる産業上の特色は、社會上政治上に衝突し、遂に南北戦争となつた。即ち北部は白人の自由労働者多く、また商工業の發達により保護貿易を望み、中央集權を唱へて共和黨勢力あり、また人道上より大いに奴隸使用に反對した。南部はこれに反し農業生産のため自由貿易を望み、地方分權を唱へて民主黨勢力あり、また經濟上より奴隸の使用を力説した。然るに一八六〇年奴隸廢止論者たる共和黨のリンカ



業工鐵製るけ於に部北

2 南北戦争

3 北軍勝つ

リンが大統領となるや、遂に南部諸州は分離して北部と戦端を開いた。内亂は約五箇年に及んだが、グラント將軍善戦して北軍勝ち、やがて南部諸州の復歸をみるに至つた。

黑人奴隸 黒人は多くアフリカより來り、奴隸市場にて賣買され、耕作のため牛馬の如く酷使された。ストウ夫人がこの

ワシントンにある記念碑で、中央に立てるがリンカーン、その膝下に跪けるは解放されたる奴隸である

4 リンカーン



奴隸解放記念碑

の精神に富んで立派な政治家となり、また國民より慈父の如く尊敬せられた偉人である。惜しいかな彼は劇場に於て暴漢の手に斃れた。

戦後の發展 戦後、大統領グラント等の努力により南北も融合し

1 國家的發展

2 保護貿易

3 經濟的發達

1 長所

2 短所

1 經濟的發達

2 勞働問題

て國家は次第に強大となり、モンロー主義より帝國主義に轉向する傾向となつた。貿易も保護政策により、國內の商工業は益々隆盛となり、大資本家・大富豪が出現して、經濟的發達も著しかつた。
國民性 アメリカ合衆國は産業を以て國を立て、國民は勤勉且つ敏捷で、能率増進を尙び、また自由を重んじ、獨立自主の精神に富み、經營の才に優れ、よく今日の大をなすに至つた。國民は物質文化の恩恵をうくること大であるけれども、中には拜金主義に流るるものあり、精神文化に缺くる所あるはその缺點とみるべきであらう。

第七章 國民的國家の隆盛(三)

經濟的發達と勞働問題 フランスに於ても産業革命の影響をうけて大規模なる機械工業が盛となり、商業も發展したが、これに伴つて勞働問題も起つた。然るにフランス人は感情高調し易く、理論に

ルイブランは二月革命後国立工場を設け多数の労働者を收容して一定の賃金を支給したが、賃金さへ得れば働かないものが多く、政府もその支出に困窮し、工場を閉鎖した。かくて彼の社會政策は失敗した



ンラブ=イル

その社會政策は成功しなかつた。

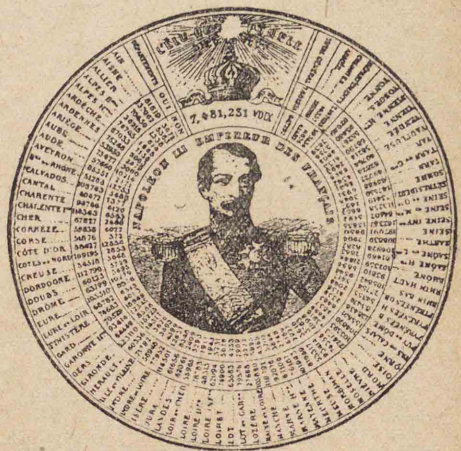
ナポレオン三世の即位 二月革命の結果、共和政が成立したが、大

統領ナポレオンはかねて帝位に上らんとする野心あり、就任以來巧みに人望を収め、民意を尊重する如く装ひ、急に武力による非常手段をもつて反対派を抑へ、議會を解散し、やがて國民をその甘言によつて動かし、大多數の投票によつて皇帝の位に即き、ナポレオン三世と稱した。

フランスの隆昌 ナポレオン三世は一八五二年トルコに強要し

- 1 ナポレオン の野心
- 2 クーデター
- 3 皇帝となる

一八五二年十一月の國民投票の結果を示したものの。外輪より縣名、次は縣内贊成投票數、次は反對投票數を擧げ上部に賛成投票總數を記してある



世三ンオレボナ

てエルサレムの聖地管理權を得、フランス舊教徒の信望を博したが、ロシア皇帝がこれに對抗してトルコ領内のギリシヤ正教徒保護權を要求し、その勢力の南下を策したので、彼はイギリスと結んでトルコを援け、ロシアとクリミア戰役を起し、セバストポール要塞を攻撃し、一八五五年遂にこれを陥

1 クリミア戰役

2 内政

れ、パリに講和會議を開いてロシアの南下を挫いた。なほ東洋の印度支那經營にも成功したので、フランスの國威は大いに揚つた。彼は内政にも意を用ひ、市區改正を行つてパリその他の都市を壯麗にし、道路を開き、鐵道を敷設して交通、商業を盛にし、また國內の工業を奨励したので、到る處に大工場が立ち、一八五五年に開かれた

萬國大博覽會に於てはフランス製品の優秀なることを世界に示した。

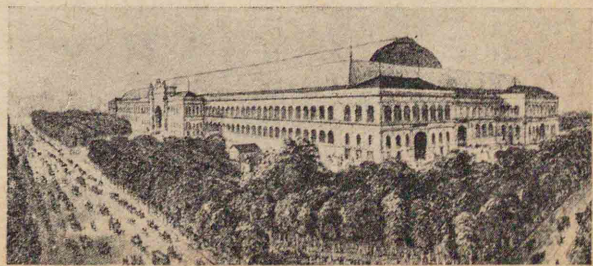
その後ナポレオン三世はメキシコの内亂に干渉して失敗し、一八七〇年には國運を賭してドイツと戦つて大敗するに及び、名聲地におち、フランス國もまたその國威を失墜するに至つた。

第三共和政の出現 やがてフランスは三たび共和政となり、ガムベッタ・チエール等が戦後經營に



ガムベッタ

當り、新憲法を定め、大統領の任期を七年として國會より選出し、國會は上下兩院より成つて立法の事を掌り、國會に對する責任内閣が成立して行政を行ひ、國家の基礎は愈々固くなつた。



産業院

一八五五年ナポレオン三世がパリ市に産業獎勵のために建てたもので、機械・器具・製品を陳列して展覽に供した

3 國威失墜

1 戦後經營

ドイツ軍のためパリが重圍に陥つてゐる時、彼は輕氣球に乗つて脱出し、大いに國事に奔走し、また巧みに戦後經營を行つた

1 長所

2 短所

國民もまた進んで莫大なる償金の償還につとめ、經濟産業を勵み、文化の發達にも努力したので、國威は再び揚つた。

國民性 近世のフランス人は大革命の標語たる自由・平等・博愛の精神に富み、愛國心に燃え、頭腦明敏にして藝術に秀で、文藝・科學に長じ、また一般に勤儉にして貯蓄心に富み、産業を勵み、特に優秀なる工藝品を作るに巧みである。現代フランスの隆盛もまたこの國民性に負ふところが多い。けれどもあまりに自由・平等を重んずる結果、例へば政治上に於ては小政黨分立して主義・政見を異にし、協調して一貫する國策を立つること難く、外交方針も時に變更して失敗を招いた。その上感激性強くして感情に支配され易く、その政體にも幾多の變遷あり、流血の慘事を見たことも尠くない。

第八章 國民的國家の隆盛(四)

1 國情

2 自由統一運動

1 サルデニア王
2 カヴールの外交



世二ルエヌマエルトクイヴ

● **イタリアの統一運動** イタリアは中世以來多くの小邦に分れ、常に外國の干渉をうけてゐたが、ナポレオン一世の侵略後、民族的自覺起り、更にウィーン會議後オーストリアの勢力が全半島を風靡するに至つて、愛國の志士は頻りに自由統一の運動を起し、殊に七月革命以後はサルデニアがその主動者となつて屢、オーストリアに對抗し、マツチニなどは青年イタリア黨を率ゐて盛にこの運動に熱中した。

● **半島統一** サルデニア王ヴィクトル・エマヌエル二世はイタリア統一を完成せんとし、名宰相カヴールを登庸して國政を委ねた。カヴールはナポレオン三世と密約を結び、その力を頼んで一八五九年オーストリアと開戦し、大いに優勢となりしが、ナポレオン三世が急にオーストリアと休戦せるため、サルデニアは僅かにロンバルディアを得たるのみにて、統一の業は中途に挫折した。

1 マツチニの愛國的宣傳

2 ガリバルディの義勇軍

3 イタリア統一



ルーヴカ



ヂルバリガ

● **イタリア王國の建設** この頃海外に逃れてゐたマツチニは大いに國事を憂へ、直ちに歸國し、熱心に愛國的宣傳をなし、中部諸小國の輿論を喚起して、サルデニア王の下に統一することとした。また俊傑ガリバルディはイタリア統一のため、南義勇團を組織して立ち、南方ナポリ王國の動搖に乗じてこれを征服し、その全土をサルデニア王に獻じた。かくて法王領の一部及びヴェネチヤを除く外、イタリア半島は統一された。



圖地保關一統ヤリタイ

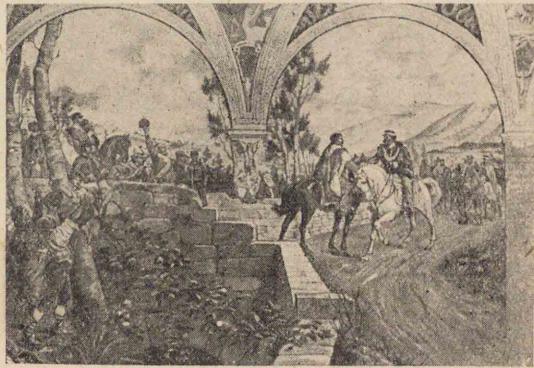
圖(上)

一八六〇年十月
ナポリ郊外カヤ
ネロにて會見せ
る場面を描いた
もので、馬上右
方が國王である

圖(下)

國王及びイタリ
ヤ統一の偉業を
記念するために
ローマ市の中心
地に近く建てら
れたものである。
中央にヴィ
クトル・エマ
エル二世の銅像
あり、その背後
の建築は全部大
理石で宏麗なも
のである

4 建國の三傑



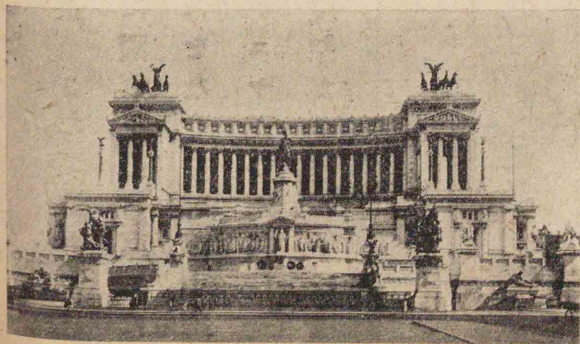
見會のと世ニルエヌマエルトクイヴとヂルバリガ

マに定めた。

建國の三傑

英邁なるサルデニヤ王ヴィクトル・エマ
ヌエルの下にあつたカヴールの智略、マッチニの熱情、
ガリバルヂの武勇は、イタリヤ統一の中心をなした

一八六一年ヴィクトル・エマヌエル二世は
イタリヤ王位に即いた。王はその後プロ
シヤ・オーストリア戦役の時、プロシヤを助
けてヴェネチヤを得、
ドイツ・フランス戦
役の時、ローマを占
領して完全にイタ
リヤを統一し、一八
七〇年國都をロー



塔念記一統ヤリタイ

もので、我が明治維新の功臣にも比すべきであらう。ガリバルヂが義勇軍(赤シヤ
ツ隊)を率ゐてナポリ王國を平定したる勇敢な戦、及びカヤネロに於て國王に潔
く國土を献上した報國的精神等は、今もなほイタリヤ人の士氣を鼓舞してゐる。
四 イタリヤの發展 イタリヤは統一後大いに發展し、内は農業を興
し、商工業を奨めて産業の隆盛を期し、教育その他諸制度を整へ、また
海外移民を奨励してその發展につとめたので、國運次第に隆昌に赴
き、ヨーロッパの列強に伍して確固たる地位を保つに至つた。

第九章 國民的國家の隆盛(五)

- 1 民族的統一運動
- 2 プロシヤ中心となる

一 ドイツの統一運動 ドイツではナポレオン一世の壓迫に反抗し
て民族的自覺が起つたが、ウィーン會議後、民族的統一運動が益々盛とな
つた。中にもプロシヤは新進氣鋭にして興國の意氣高く、政治家、哲
學者、文藝家等は、この運動の中心をなし、精神的に統一の機運をつく

3 精神的統一の機運

1 關稅同盟

2 經濟的統一の機運

3 武力的統一の機運

つた。

プロシヤの劃策

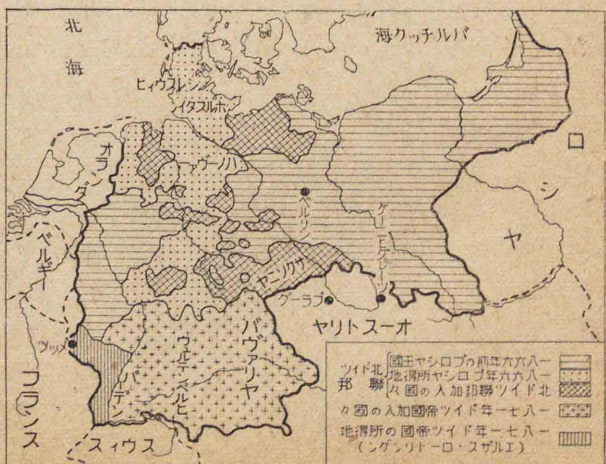
關稅同盟を結んで北部中部ドイツ諸邦の參加を得、經濟的に統一の機運を進めたが、更に一八六一年英邁なるウイリヤム一世即位するに及び、ローンを陸相に、モルトケを參謀總長に、ビスマルクを首相に任命し、議會の反對を省みず、所謂鐵血政策によつて軍備擴張を斷行し、統一の時機の到來するを待った。



世一ムヤリイウ

プロシヤオーストリア戰役

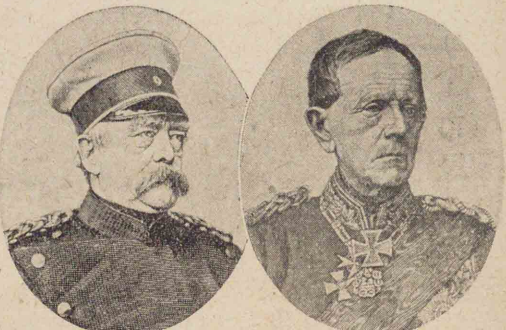
ビスマルク



關係關一統ツイド

ビスマルクは豫算總會の席上「ドイツの問題は卓上の演説や多数決で決るものではない。ただ鐵と血（軍備と戰爭）による外はない」と演説し、憲法を無視して軍備を擴張した。モルトケは細密な作戰計畫を立て、開戦となれば直ちに動員出来るやう常に計畫してゐた

1 開戦



ケトルモ

クルマスビ

は聯邦内に勢力をもつオーストリアを除外して、プロシヤを中心とするドイツ統一を完成せんとした。偶、シュレスウイヒ、ホルスタイン二州の處分に關し兩國間に紛議を起すや、プロシヤはオーストリアと開戦して、ケーニヒグレーツに大勝を博し、遂にプラウグ條約に於てオーストリアをドイツ聯邦より脱退せしめた。その後また北部諸州を聯合してプロシヤを盟主とする北ドイツ聯邦をつく

プロシヤフランス戰役

ビスマルクは更にドイツ統一完成のためフランスと開戦せんとし、イスパニヤ王位繼承問題を捉へて戰端

2 作戰計畫と外交政策

圖(上)

中央に嚴然と立てるがモルトケ、その右に豪然と坐せるがビスマルク、左方正に席を立たんとするがフランス側の代表ウイベンであるこの會議に於てドイツ側はフランス側の哀願を退けて威嚇し、フランス軍は止むなく皇帝と共に全部降服した



セダンの降伏條件協會議

レオン三世を擒にし、更に進んでパリイ市民の決死的籠城に對し、五箇月の後漸くこれを降伏せし

を開いた。この時モルトケ將軍の周密なる作戰計畫功を奏して到る處に大勝利を博し、國境を越えてフランスに侵入した。またビスマルクの巧妙なる外交政策により、ナポレオン三世の豫期に反して南ドイツ諸邦を味方に引き入れ、イタリヤ・オーストリヤを中立せしめ、完全にフランスを孤立せしめた。かくてセダンの戰には大勝を博してナポ



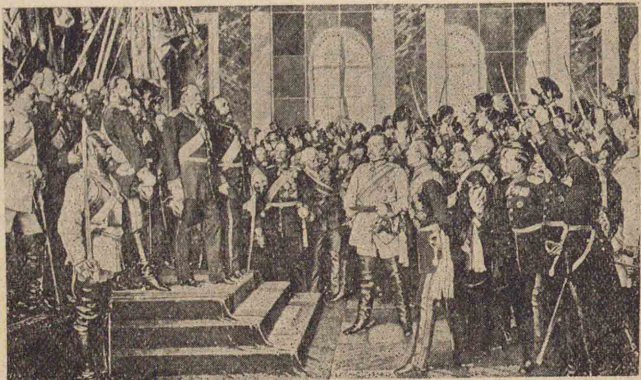
ドイツラフスン戰役に於ける勝記念碑

1 統一完成

2 帝國政治の確立

圖

パリイ攻圍中敵の王宮ヴェルサイユに於て、この即位式をあげた。左方壇上の中央がウイリヤム一世、壇下正面にビスマルク・モルトケ等あり、ドイツ帝國の最も光榮ある即位式である



ドイツ皇帝即位式

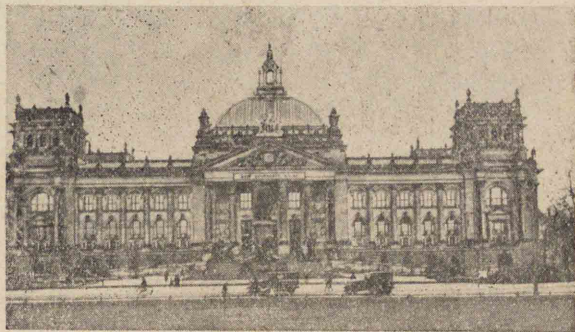
めた。かくてヴェルサイユの和約に於て、ドイツはエルザス・ロートリンゲンと償金五十億フランとを得た。

統一の完成 この戰役中ドイツ統一の議が熟し、南部諸國も相ついてドイツ聯邦に加入した。そしてパリイ攻圍中、ヴェルサイユ宮殿に於て、ドイツ皇帝の即位式をあげ、戦後ベルリンにてドイツ帝國議會を開き、ドイツ帝國憲法を制定し、ここに統一事業は完成した。

市等より成り、皇帝はプロシヤ王が世襲し、立法機關としては聯邦議會と帝國議會とあり、行政はプロシヤの首相が内閣の首班となつて

3 國運の隆昌

ベルリンに在り、一八九四年に竣工したものである



ドイツ國會議事堂

行ひ、皇帝の信任によつて進退を決した。かくて戦勝による國民の意氣とビスマルク以下の賢相の努力とにより、内治外交とも大いに刷新され、科學の研究と學藝の進歩著しく、大規模なる機械工業が發達し、商業もこれに伴つて進展した。また國家の發展と國防に任ずる陸海軍備も大いに整つた。

ドイツの國民性 統一完成後約四十年間に互るドイツ國運の隆昌は誠に目覺ましいものであつたが、それらは上下心を一にせる

1 國民精神の旺盛

國民精神の旺盛と民族性の優秀なることに原因するところが多い。ドイツ人は質實剛健にして武を尙び、愛國心に富み、社會國家のために奉仕せんとする念が極めて深い。また研究心強く、勤勉にして意

2 國民性の優秀

志鞏固に初志を貫徹せんとする力盛にして、組織的、綜合的な才に富んでゐる。従つて科學の應用、産業の發達、軍備の充實等もよく行はれ、旺盛なる國家主義によつて遂に世界大強國の一となることが出來たのである。

第十章 國民的國家の隆盛(六)

1 南下政策

ロシアの南下政策 ロシアはペートル大帝以來機會ある毎に他國を侵略してその強大を圖つたが、バルチック海方面に於ては列強のためその進路を抑へられたるため、バルカン半島及び地中海への南下政策をとり、トルコの侵略を企つるに至つた。しかしこの計畫は列國の勢力と衝突して常に國際的問題を惹き起し、所謂東方問題として紛糾するに至つた。

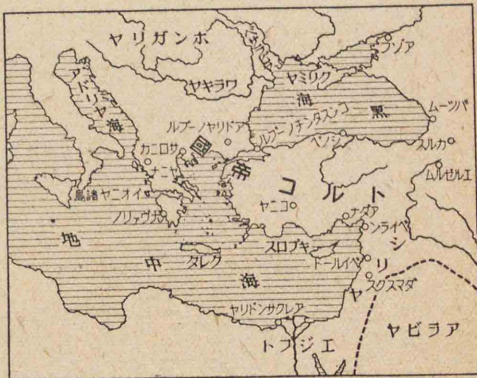
南下政策 ロシアの南下政策は既に十九世紀の始、エジプト太守

2 東方問題

1 第一回

2 第二回

1 第三回



東方問題關係地圖

がトルコに背いて叛亂を起したる時企てられたが、イギリス・フランス二國のために妨げられて不成功に終つた。ついでナポレオン三世がトルコに聖地管理權を要求せる時も、ロシア皇帝ニコラス一世はトルコ領内のギリシヤ教徒保護權を要求し、その内政に干渉する端緒を得て勢力を伸ばさうとしたが、クリミア戦役の敗北によりその要求を撤回した。

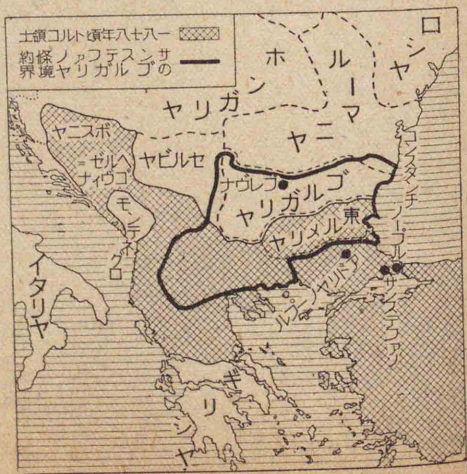
目ロシヤ・トルコ戦役

その後ロシア皇帝は外相ゴルチャコフを用ひ、汎スラヴ主義の唱へらるるを利用し、トルコ領内のスラヴ民族を糾合して、大帝國を建設せんとする野心あり、トルコ領内のスラヴ民族もトルコ人の抑壓に堪へかね、ロシアの後援を頼んで内亂を起した。

2 ロシヤ・トルコ戦役

3 サン・ステファンノ條約

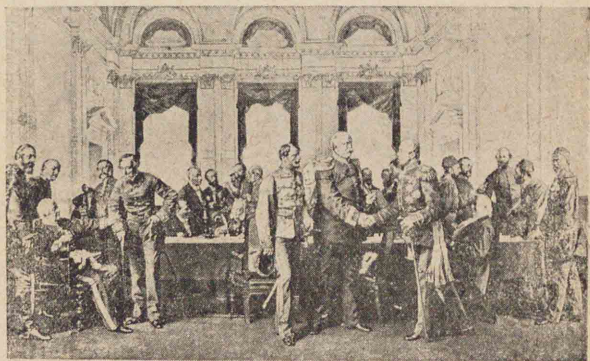
一八七五年、ヘルツェゴヴィナ・ボスニア先づ叛し、セルヴィヤ・モンテネグロ・ブルガリア人等がこれに呼應したので、トルコは虐殺までも行ひ、これを鎮壓した。ロシア皇帝アレクサンドル二世はこの機に乗じ、イギリス・ドイツ・オーストリア諸國と共にトルコの内政改革を迫つたが、容れられざるを見て、一八七七年單獨に宣戦した。かくてロシア軍は連戦連勝して、オスマンパシヤの守るブレヴナ要塞を陥れ國都に迫つたので、トルコも屈し、サン・ステファンノ條約を結んでセルヴィヤ・モンテネグロ・ルーマニアの獨立を認め、ブルガリアを半獨立國とした。これらの諸國はスラヴ民族が多數を占むるもので、ロシア南下政策の大成功といつてよい。



シロ・ヤコル戦役關係地圖

4 ベルリン會議

一八七八年七月十三日の會議の光景、前列右よりスワロフ（ロシア）・ビスマルク（ドイツ）・アンドラシー（オーストリア）・ヂスレーリ（イギリス）・ゴルチャコフ（ロシア）で、その他ヨーロッパ諸國の有名なる外交家が多く集まつたが、その中でもビスマルクが最も活躍した。



ベリン列國會議

イギリス・オーストリアの勢力が増大し、ロシアの外相ゴルチャコフの努力は殆ど酬いられざることとなつた。

戰後のロシア アレクサンドル二世は、トルコとの戦争に勝ちな

1 アレクサン
ドル二世

2 ニコラス二
世



ニコラス二世

アレクサンダー二世

がら、外交上に失敗を招いたため、大いに民望を失ひ、しかも極端なる専制政治を行つたので、遂に虚無黨員に暗殺せられた。次帝アレクサンドル三世及びニコラス二世も共に専制政治を行つて國民を抑壓し、質朴粗野にして愚昧なる多數農民を誅求したので、一般國民は皇帝に心服せず、國內は動搖して不安に満ち、虚無黨員の暗躍などあり、騷擾暗殺など絶間なく、辛うじて強壓主義により國內の秩序を保ち得るのみであつた。

1 諸國家對立

【總括】 十九世紀の後半、ヨーロッパに於ては新たにイタリヤ・ドイツ兩國の成立を見、イギリス・フランス・ロシア等の諸國家が隆盛に赴き、何れも産業を盛にし、軍備を整へ、國家主義を堅持して國力充實し、諸國家對立の姿となつた。のみならず

2 諸國の海外
發展

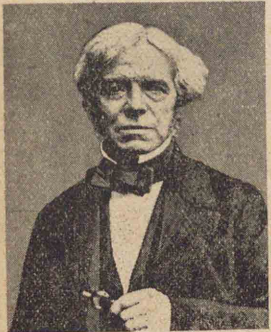
す列國は各、その勢力を外部に伸ばさんとして盛に海外發展を企圖したので、國際關係は益々紛糾するに至つた。

第十一章 最近世の文化

1 物質文化
2 自由主義

最近世文化の特色 最近世文化の二大特色は物質文化の進歩と自由主義の發達とである。物質文化は十八世紀以來科學の發達に伴つて進歩し、自由主義はフランス革命以來廣く世界に流布され、共に社會國家に大なる影響を與へた。

【圖説】
ファラデーは電磁氣廻轉の實驗に成功してモーターの端緒をつくり、電磁場磁氣光學等に新説を出した



一 デラファ

科學の進歩 科學の進歩は、理化學と醫學とが特に著しかつた。

理化學 理化學にはイギリス人ファラデーが電氣學の基礎を作り、ドイツ人レントゲンはX放射線を發見して各方面に應用され、ドイツ人リービヒは有機化學を究めて農藝化學の祖となり、フランス人キュリー夫妻はラヂウムを發見し、イギリス人ダーウィンは進化論を大成して生物學の發展を促した。

醫學 醫學にもフランス人パスツールは狂犬病治療及び傳染病豫防接種法を發見し、ドイツ人コッホはコレラ菌を發見し、ウィルヒウは病理學を大成し、ペテンコフは衛生學と共に治療保健に大なる貢獻をなした。

科學の應用 これらの科學は直ちに交通機關・通信機械・工業機械・動力機・兵器等の實際に應用せられて人類文化に偉大なる貢獻をなした。



人夫ーリュキ

ンイウーダ

新發明・新發見

アメリカ人フルトンFultonは蒸氣力を船舶に、イギリス人スチヴンソンStephensonはこれを汽車に應用して交通界の革新を起し、アメリカ人モースMorseは電氣力を應用して電信機を、イギリス人グラハム・ベルGraham Bellは電話機を、アメリカ人エヂソンEdisonは

【圖説】
キュリー夫人はラヂウムを發見し、ソルボンヌ大學教授となり、またノーベル化學賞をうけた。ダーウィンの進化論は生物學のみならず思想界及び精神科學にも多くの影響を與へてゐる

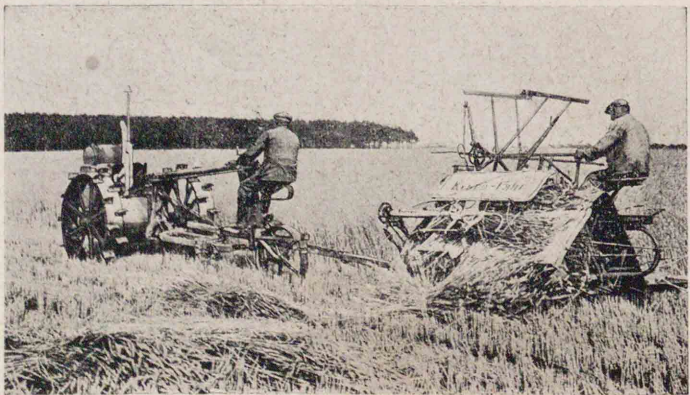
(一) 達發の業産



中世より近世初期の農法

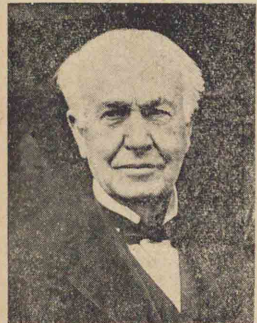


近世後期の農法
(アメリカ合衆國)



現代の農法
(ドイツ)

エヂソン(上)は電信・電話機の改良、蓄音機・電燈・活動寫眞等の發明あり、世界の發明王として物質文化に貢獻することが大であつた

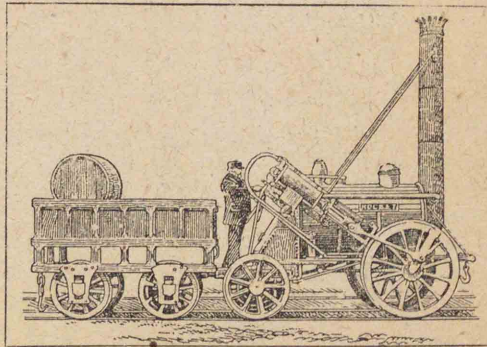


エヂソン

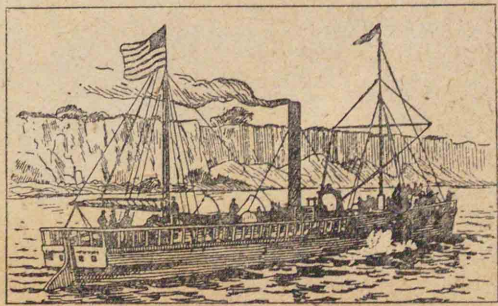
アームストロングも優秀なる大砲及び兵器船艦を造り、アメリカ人マキシムも大砲及び無煙火薬をつくつた。飛行機はドイツ人リリエンタール、アメリカ人ライト兄弟によつて、飛行船はドイツ人ツェッペリンによつて考案され、潜水艇はアメリカ人ホランドによつて

一八三〇年スチヴンソンの發明當時、この機關車は時速二四軒であり、マンチェスターとリヴァプール間は時速四六軒半であつて、當時としては驚異的速力であつた。フルトンの汽船は最初ハドソン河を毎時六軒半で走つた

電燈及び蓄音機を、イタリア人マルコニは無線電信を發明して通信界に貢獻し、また電動機は盛に交通機關及び工業機械の動力として使用せられた。またドイツ人クルップは精巧なる鋼鐵をつくつてクルップ砲を完成し、イギリス人

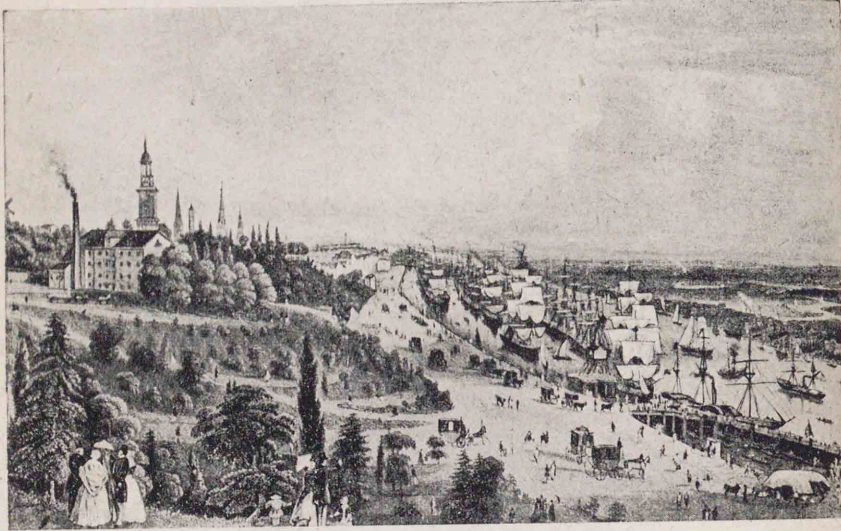


(トッケロのソソウチス) 車汽の初最

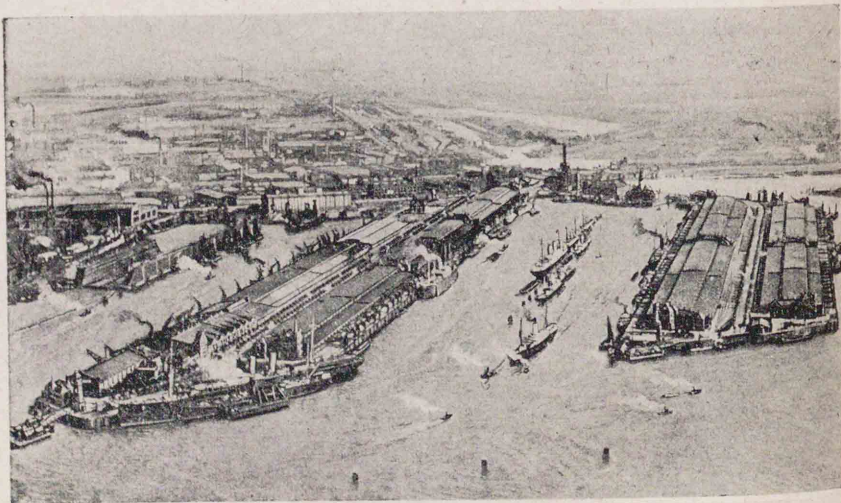


(號ンモルレクのントルフ 船汽の時當明發)

(三) 達發の業産

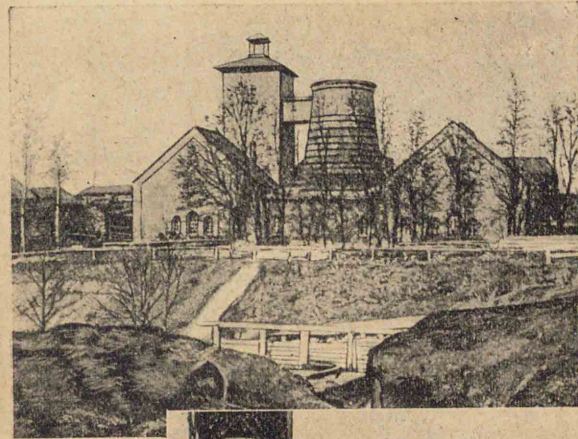


港商の世近
(港ゲルブンのツイドの頃年七四八一)

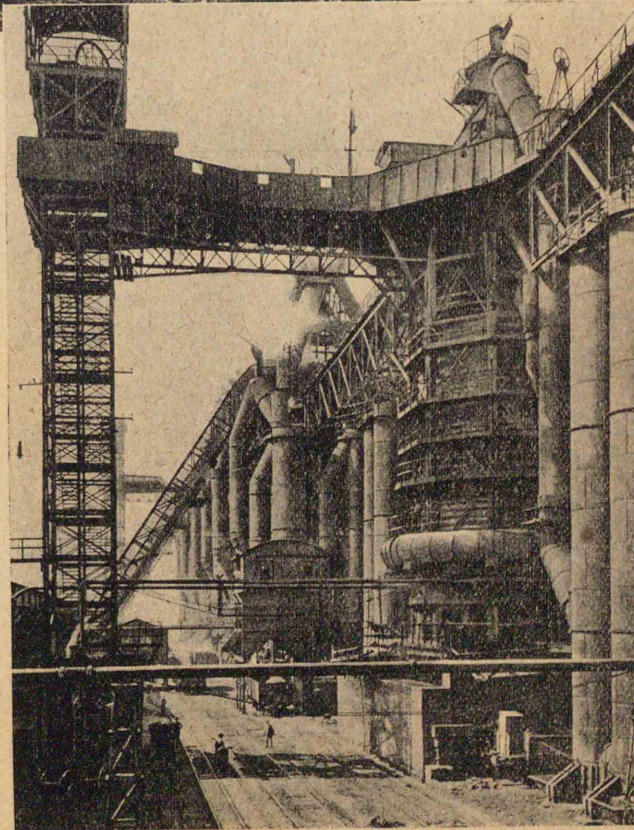


港商の代現
(港ゲルブンのツイドの頃年三一九一)

(二) 達發の業産



近世に於ける熔鑛爐
(ドイツのシレシヤ地方)



現代に於ける熔鑛爐
(ドイツのクルップ工場)

産業の發達

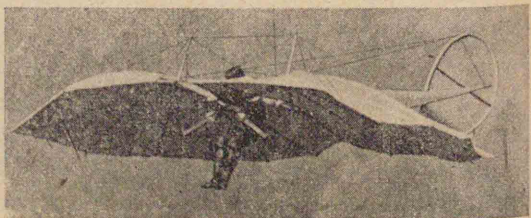
近世に於ける産業の發達は産業革命より始まる。産業革命とは既に述べたるが如く、科學の發達とその應用による機械器具の發達とに俟つところ多く、換言すればそれは科學による經濟的技術と、方法と道具との進歩によるものといふことが出来る。かかる變革は經濟上の能率を高め、生産量を大にし、且つ生産費の低廉を齎し、従つて大量生産と低價販賣を可能ならしめ、また農工商に互つて經濟的活動を益、向上發展せしめる。それは本圖をみることによつて、容易に首肯することが出来るであらう。

ところが、かくの如き産業の發達は、物質文明を盛ならしめ、人類生活を高昇せしむるところにも、また國家をも隆盛ならしめる。十八九世紀に於けるヨーロッパ諸國の經濟的發展と充實とが、植民地の獲得、天然資源の開發、商權の把握など、世界的發展をなましめたるとともに、また國內に於ても政治、軍事、社會文化等に關する施設、發展の基礎となり、またこれを助長せしむるものとなつた。この意味に於て、近世産業の發達は國家の隆昌に重大な貢獻をなしたものとみることが出来る。

案出せられた。

これらの發明・發見は國防上極めて優秀なる貢獻をなすと共に、商工業の躍進^{ヤクシン}を促して國富を増加せしめ、以て國力の充實發展を來^{キタ}さしめたが、また産業上にも革新を促し、社會上にも大變化を與ふるに至つた。

物質文化の繁榮と社會問題 産業革命の結果は、天產品に加工して所謂文化品を多量に生産し、物質文化の異常なる發達を來さしめ、そのため一般社會生活は向上して人類の幸福と安樂とを増進した。のみならず、處に新興商工都市が勃興して都市生活を營むもの多く、社會生活の面目を一新した。しかし社會上には資本家と労働者の區別を生じ、資本家は次第に利益を獨占する傾向を生じ、そのため一般労働者は



機行飛のルータンエリリ

圖はリリエンダールが十九世紀の末に發明した最初の飛行機で、現代のそれと比べると眞に幼稚で隔世の感があるが、征空への劃期的發明であつた。

1 物質文化の發達

2 社會生活の變化

3 社會問題の發生

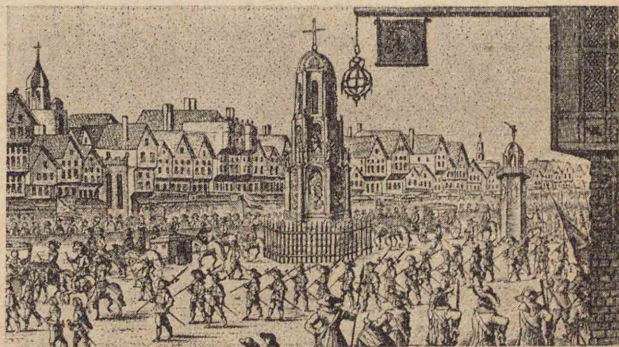
悲惨なる生活を送る
こととなつて重大な
る社會問題をも生ず
るに至つた。

社會主義と社會政策

ドイツのカール・マルクス

4 社會主義と社會政策

上圖は十七世紀頃のロンドン、ピカデリー街で下圖は同街の現代景観である。建築、風俗、交通機關等と比較してその發達の如何に目覺まじきかを知ることが出来る

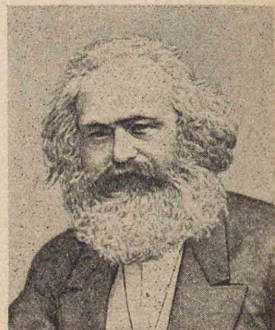


達發の市都

スは資本論を著し、共產主義を唱へ、労働者を救済せんとしたが、その方は過激にして實情に適せず、諸國家の容るるところとならなかつた。各國政府は職工組合消費組合救済會等の設立を許可獎勵し、また工場法労働保險法失業救済法等を設けて労働者の境遇を改善し、國民全般の福利を増進せしむることとなつた。

1 自由主義

自由主義と國家國際兩主義 自由主義が



スグルマルーカ

發達して以來、列國の間には或は共和政を確立し、或は立憲君主政を布いて、人民の自由と權利とを確保し、保守專制の政治はその跡を絶つた。また同一民族の結合を固くせんと

する民族主義が現はれ、更にこれら諸民族の自由と發展とは國家を隆盛ならしむることによつて全しとする國家主義が發達した。その結果、國際的競争は激甚となり、遂には積極的に自國の發展と領土の獲取とを主とする帝國主義の傾向を生むに至つた。

また一方には國際的協調の思想も起り、一八六四年にはスウイスに萬國赤十字社が創設され、戰時傷病兵の救護に當り、一八九九年には露帝ニコラス二世の主唱によつて萬國平和會議が開かれ、爆裂彈毒瓦斯を禁ずること等の平和規約が設けられ、ついで萬國仲裁裁判所

- 2 民族主義
- 3 國家主義
- 4 帝國主義
- 5 國際協調主義

一九一三年夏恰も大戦勃發の前年國際紛争の平和的解決の中心として設立された。アメリカ合衆國のカーネギーはこれに一五〇〇萬弗を寄附した

6 文化的萬國規約

1 哲學と文藝

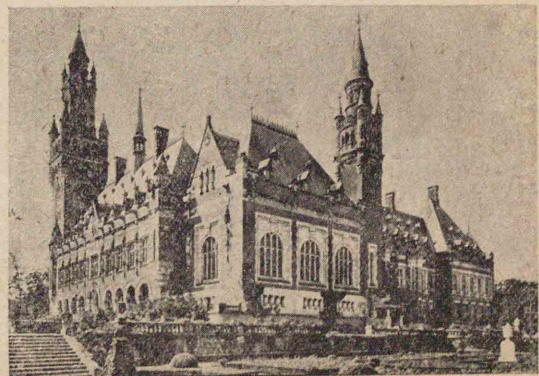
ヘーゲルは歴史理論の研究と宇宙の根源的研究に秀で、現代哲學にも深い影響を與へてゐる



ヘーゲル

も開かれて國際的紛争の解決に當つた。その他萬國博覽會も開かれ、郵便、電信發明品特許著作權等に關する萬國規約も制定せられて、通信、學術、經濟その他の發達に多大の便宜を與ふることとなつた。

精神文化の發達 近世に於てはまた精神文化も大いに盛となつた。哲學はドイツとフランスに、文藝はイギリス、フランス、



オランダ國のハーグの平和宮

ロシア等に發達し、また各國とも國家的發達につれて史學を重んずるに至つた。

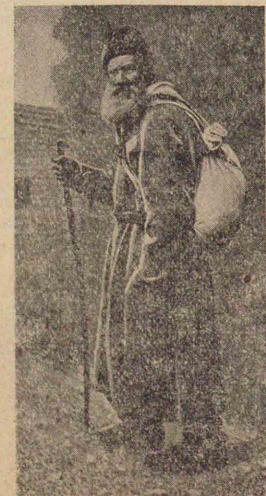
哲學と文藝 哲學にはドイツにフイヒテ・ヘーゲル等があつて觀念哲學を完成し、フランスにコント・ド



ゴッテ

て實證哲學を唱へた。文藝には所謂浪漫文學としてイギリスにスコット、バイロン、テニスン等あり、自然主義文學としてフランスにユーゴー、ゾラ、ロシアにトルストイ、ドストイフスキ等あり、ノルウェーのイブセンは社會生活を題材として近代劇を創めた。

史學にはドイツにランケ、トライテケなどが一代の碩學と仰がれ、フランスのギゾー、イギリスのグロートなども名高かつた。



トルストイ

また藝術に於ては、繪畫、彫刻がフランスに於て最も榮えて諸種の流派を産み、音樂はドイツに發達して現代的音樂を創めた。

藝術 繪畫はフランスに古典派の大家としてダヴィッド、理想派の巨匠としてシャヴァンヌあり、自然派としてコロ・ミレー、印象派の匠星としてマネール、ノアール、

ユーゴーにはノートルダム、ド・バリ・レミゼラブル(哀史)等多の傑作あり、トルストイには戦争と平和、復活等の名作がある

2 藝術

【註(下)】
ロダンの作品は最も寫實の妙を極め、また力強い表現を好んだ。この「考へる人」もその傾向を多分に表はしてゐる

【註(上)】
ベートーヴェンは音楽を眞に藝術の域にまで發達せしめた人であるが、彼の一生は實に不幸で晩年聾となつた

セザンヌ・ゴッホ及びイギリスのターナーなど輩出した。彫刻にはフランスのロダンが名高く、音楽にはドイツにモツァルト出で、ベートーヴンが樂聖として仰がれ、ワグネルが歌劇を完成して演劇界に貢獻した。かくて最近



ベートーヴェン

世の藝術界は誠に百花繚亂の姿を呈した。

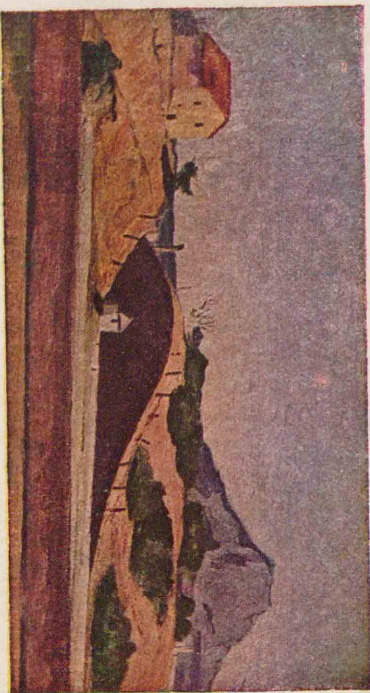


人考作ンダロ

【最近世文化と我が國】 これらの文化もまた明治大正時代に多く我が國へ輸入せられた。さうして哲學文學美術建築音樂等にはその影響をうくるもの多く、科學と科學の應用及び工業の發達にやがて彼等の壘を摩せんとし、政治制度法律社會生活等には形式上の範を彼等にとるところが少くない。我が國民はよくこれらの外來文化を攝取醇化して新日本文化の創造に努めてゐる。



ヴァン・ゴッホ筆 野良かくり



セザンヌ筆 風景

畫繪の代現



食朝の庭 筆ルーアナル

現代の繪畫

★十九世紀の繪畫はフランスが主流をなし、古典派と自然派と印象派とに三大別することが出来るであらう。古典派には世紀の始フランスにダヴィッドが出て、ナポレオンの戴冠式などの名畫を残し、更に後年シャヴァンヌなどの高尚優雅な新理想派に影響を與へた。自然派にはコロ・ミレーなど出で、コロは風景畫をよくし、自然界の美を描くことに長じたが、ミレーは「晩鐘」落穂拾ひなど、好んで田園生活を描き、畫面には愛と温情とが溢れて純真なる自然味が豊かに表現せられてゐる。

★印象派は、自然の姿や形態を正しく描くよりも、自然から受けた印象をそのまま寫すべきであると考へ、イギリスのターナーなどが外光線を描くことから影響をうけて、強い色調と複雑な色彩とを以て自然そのもののみならず、その印象を描いた。モネ・マネー・ルノアールなど名高く、ここに掲ぐる「庭の朝食」などは、複雑な色彩を以て巧みに光や空氣の印象を描いてゐるとともに、また朝食後の爽やかさ静かさなどを極めてよく表現してゐる。

★この印象派が十九世紀の終から二十世紀の初頭にかけて後期印象派を生んだ。それは日本畫が巧みな線と色とを以て最も印象的に描いてゐることなどが大いに影響し、線を多く用ふるとともに、形態を離れて印象を描かうとする風が一層強くなつた。ゴッガン・セザンヌ・マチスなどはその代表的な作家である。ここに掲ぐるヴァン・ゴッホはオランダ人であるが、フランスに居てその影響を多く受けた人で、「野良がへり」は線を多く用ふるとともに印象的なところが多く、且つ農村の平和な姿が強く人の心をうつものがある。セザンヌの「風景」は南フランスの景色であるが、つとめて色彩を單純化しながら、強い色調を以て描いたあたり、最もその特色を發揮したものと云ふことが出来るであらう。

第五篇 現代史

第一章 列國の國力充實と世界政策(上)

1 國力の充實

○列強の世界政策 十九世紀の後半より二十世紀の初頭にかけて、

2 海外發展の風

歐米諸國には國家主義が擡頭し、各、その繁榮を競ひ、學術・産業等を發達せしめ、軍備を擴張して國力の充實と國防の完成とを期した。なほこれに加へて、人口の増加と生産の激増とは自ら海外發展を促し、アフリカ・アジア・大西・太平兩洋等に進出して經濟的優先權、土地の租借・占領等に専念し、廣く世界に植民地領土等を獲得して大帝國を建設せんとする帝國主義が盛となつた。

3 帝國主義

1 工業の發達

○イギリスの發展 産業革命後、イギリスの工業は著しく發展し、マシナリー・スター・パーミング等を中心として製鐵・機械・鐵器・毛織物・綿織物等の生産が盛となり、ニューカッスルを中心として造船・造兵・造艦等の

2 商業の發達

工業大いに起り、また政府の自由貿易政策に助けられてロンドン・リヴァプール等を中心とする外國貿易は殷盛を極め、交通の發達、植民地の獲得等は益、これらを助長して生産額及び輸出入額は異常なる躍進を遂げ、海外への投資は逐年巨額に上り、その利益・利潤等によりて未曾有の繁榮をいたした。

4 軍備擴張

また國運の發展を強化するため軍備の擴張を計り、特にその國情に従つて海軍に重點をおき、世界の海上權を支配せんとして、大型戰艦を建造し、二強標準を立てて優勢を誇つた。

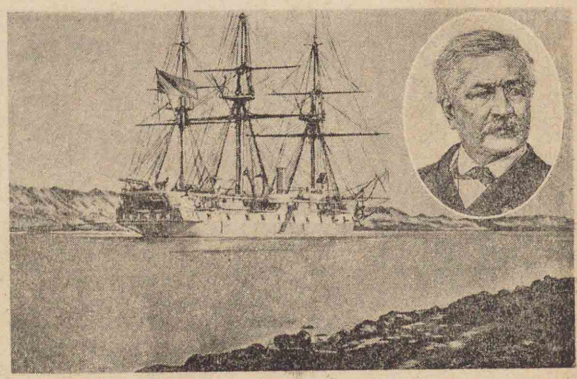
5 世界政策

A アフリカ經營

エジプトを保護領とす

スエズ運河は一八六九年フランス人レセップスによつて開かれたものであるが、後イギリスはチスレーリ等の機敏なる外交工作によりその權益を握つた

b 南アフリカ戰爭



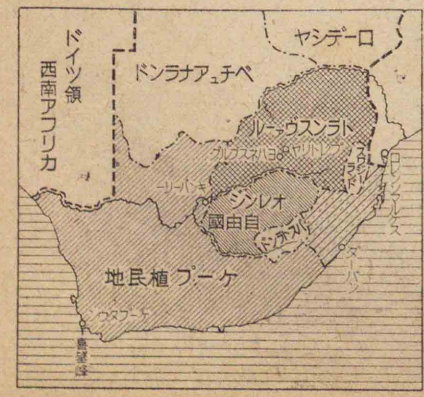
スエズ運河とセッセル

勢力範圍とを得、世界大戦前には本國に二〇二倍する領土と八倍の住民とを支配するに至つた。

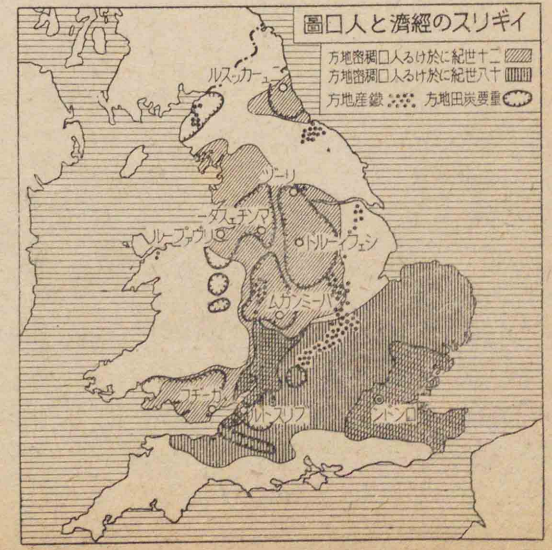
アフリカ經營 イギリスはウィーン會議により、南部アフリカのケープ植民地を獲得し、またエジプトの財政困難なるに乗じスエズ運河の株券を買

收して勢力を得、更に兵力を以てその内亂を鎮定して支配權を得、フランスの勢力を驅逐し、後これを保護領とした。

この頃南アフリカのブール人(オランダ植民民の子孫)は、イギリスの支配を逃れて北方にトランスヴァール共和国とオレンジ自由國とを立ててゐたが、この地に



南部アフリカ地圖



イギリスの經濟と人口圖

二十世紀に於ける人口の密着地
十八世紀に於ける人口の密着地
地方産鐵
地方田炭要量

圖(上)

彼は病弱に屈せず、南アフリカに於て大いに活躍し、一旦歸國してオックスフォード大學に學んで後、更に北方ローデシヤを開拓するに至つた

c 南アフリカ聯邦

d アフリカ縦貫鐵道

B アジヤ經營

a 印度經營

圖(下)

ウイクトリヤ女王はロンドンに於て印度皇帝即位式をあげて後、印度に旅行した。これはその時の光景である



ゾーロルシセ

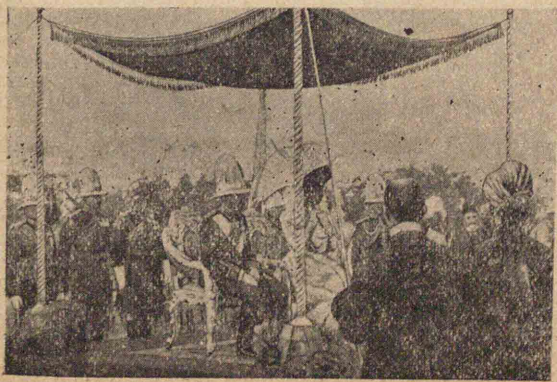
金剛石と金の産出多きため、イギリス人の移住多く、彼等はその權益保護のため二國に參政權を要求したが、拒絶さるるや戰端を開き、遂にこの二國をイギリス領とし、その後ケープ植民地等を併せて南アフリカ聯邦をつくつた。またセシル・ローツは、

Rhodesia

この北方にローデシヤを開拓し、頻りに北進してナイル河流域地方との聯絡を企てた。かくてイギリスはアフリカ縦貫鐵道の敷設に従事したが、この計畫は世界大戰後に實現された。

アジヤ經營

イギリスの東印度會社は、十九世紀の中頃既に印度の大半を領したが、一八五七年ムガル帝國の滅亡後は、イギリス政府がこれを統治し、一八七七年ウクトリヤ女王が印度皇帝を兼



王女ヤリトクィヴるけに度印

ぬることとなつた。ここは面積廣く、人口多く、物産が豊かで、イギリスの寶庫といはれてゐる。

これと前後して、イギリスは印度西方のバルチスタンを保護國とし、アフガニスタンを援けてロシアの南下を抑へ、印度東方では、ブルマを併せ、シンガポールを買収し、マラッカを占領し、香港をとり、威海衛を租借して、印度・太平洋兩洋の要路を扼し、極東に於ける軍事上、經濟上の勢力を確立した。

C 太平洋經營

b 南方經營

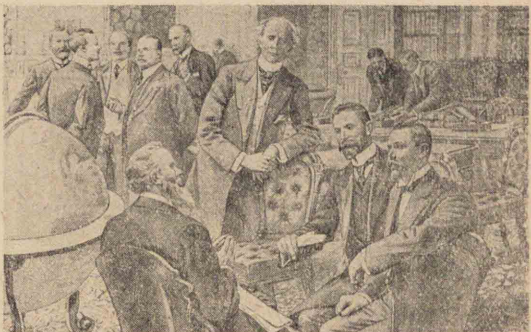
- a オーストラリア聯邦
- b ニュージールランド

太平洋經營は既に十八世紀の中頃、ジェームス・クックを遣はして探検せしめ、彼の報告に基づいてオーストラリアに囚人を送り、これを開拓せしめたが、十九世紀となつてこの地に金鑛を發見して以來、移民は増加し、棉、小麥、玉蜀黍等を移植して、豊饒なる農産物を得、更に牧畜を始めてより羊毛の生産も莫大となつた。後、附近の島嶼タスマニヤを合せてオーストラリア聯邦を組織せしめ、またニュージールランドをとり、バブア島の一部を領し、更にポリネシヤ群島の大部を領した。さればイギリスは太平洋上に豊富なる原料地と消費地とを得、また多くの海軍根據地・商業寄港地を得て、太平洋雄飛の基礎を固めた。

6 大英帝國會議

(カナダ・オーストラリア・南アフリカ諸國・ニュージーランド・ニュージーランド等)

本圖は一九〇七年に開かれた帝國會議で、各地の植民大臣が會合した。今日はイギリスの最も重要な會議の一つとなつてゐる



大英帝國會議

イギリスは印度を直轄せる外、他の多くの植民地には議會を開かして自治を許し、自由なる經濟政策によりその發展を圖つたが、次第に本國と植民地との分離することを憂へて、十九世紀の末チェンバレンの主張により、植民地の委員等を集めて大英帝國會議を開き、經濟・政治その他の重要問題を議決し、それらの統一を鞏固にした。

1 國內の充實

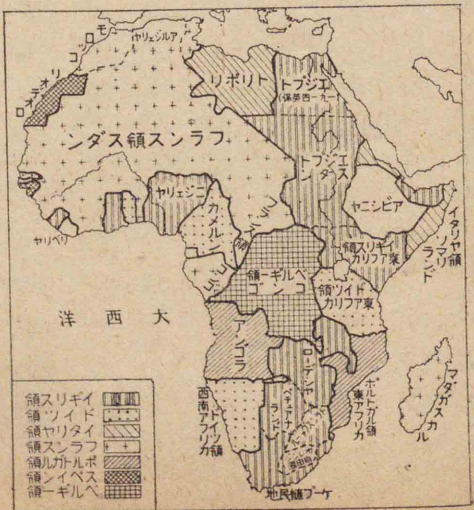
フランス戰役後共和政となり、チエール・マクマオン等が大統領となつて巨額の償金を償還し、産業を勧め、教育を勵まし、内政を整へて、大いに國力の充實に努めた。またドイツに對する防備と復讐のため軍備を擴張し、特に陸軍の整備につとめたから、國運は大いに隆昌した。

フランスの發展 フランスはプロシヤ・フ

2 外交の弱力

3 海外發展の不振

然るに内治に専念するのあまり、對外的發展の餘力なく、列強とはやうやく協商・同盟等によりてその國際的地位を保つのみで、ただ僅かにアフリカに於て北部のアルジェリヤをとり、チュニスを保護國とし、サハラ沙漠以南の Sudan Congo を領し、東海岸の Madagascar を得、更にアジヤ方面にては交趾支那を略し、Cambodia を力を伸ばし、廣州灣を租借せるのみであつた。



アフリカ分割圖

第二章 列國の國力充實と世界政策(下)

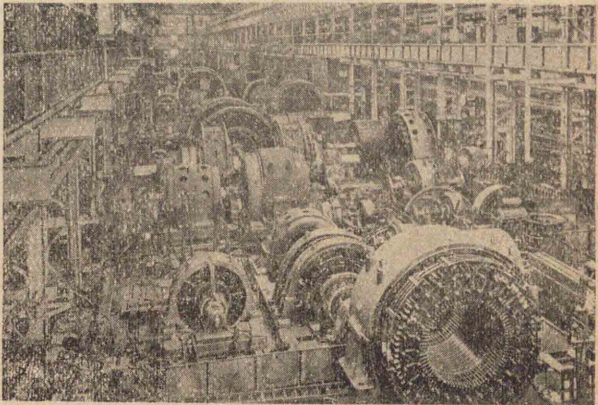
ドイツの發展

ドイツはフランスに大勝して以來、諸制度を整へ、

1 教育・科學の發達

2 工業の躍進

工場はベルリン市にあり、下圖はその電動機工場の内部である。工場は十九世紀末の設立で最初は職工僅か十名を使用してゐるに過ぎなかつたが、世界大戰の起つた當時は八萬二千の職工となつた



シメンス工場

3 貿易の發達

ブレリーメン等を中心として外國貿易も殷盛を極むるに至つた。かくてドイツの經濟力は豊かとなり、國力は次第に充實したが、皇帝ウイリヤム二世は、一八九九年以後海軍擴張に意を用ひ、強大なる海軍力

教育を重んじて國民知識の向上をはかり、學藝・科學を獎勵し、その應用をも研究せしめた。従つて工業界は鐵石炭の豊富なる産出と相俟つて躍進目覺ましく、ルール地方、エッセン等を始め全國到る處に大規模なる工場設立され、製鐵・機械製造・鐵器具製作等より理化學工業に至るまで、ドイツは世界の工場といはるるに至つた。また沿岸には多くの造船所が設けられ、航海業も盛となり、ハンブルグ、

4 海外發展

と經濟力とをもつて積極的に世界政策を遂行せんとした。しかし世界の各地は既に列強の占領する所であつたから、比較的邊陲の地を得るに過ぎなかつた。

5 植民地經營

a アフリカ

ドイツの植民地經營 アフリカにては既にビスマルクの政策により、中部のカメルン、トーゴランド、西南アフリカ、東部アフリカを得、その後モロッコ問題の際、フランスにモロッコを譲つてフランス領コンゴの一部を得た。

b 太平洋

また太平洋に於ては一八八四年以來カイゼル・ヘルムスランド、マーシャル群島、ビスマルク群島を占領し、カロリン、マリヤナ、パラオ三群島をイスバニヤより買収し、海軍及び商業の根據地とした。なほアジャに於ては支那より膠州灣を租借し、青島に海軍根據地をつくつた。

↓ベルギーの隆盛

ベルギーは局外中立國であるから多額の軍費を必要としなかつたため専心産業の獎勵につくした

ベルギー・オランダの發展

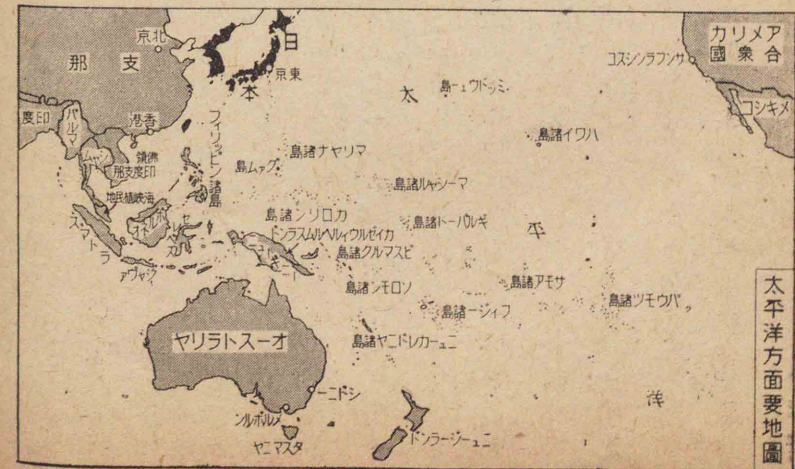
ベルギーはレオポルド二世立つに及び、産業を勵まし、教育を重んじて、國勢を伸張し、また一八八三年にはコンゴ一萬國協會を設けてアフリカ内地に廣大なる領地を得た。オランダにもウイリヤム二世、三世等の英主相ついで立ち、内政を整

2 オランダの海外發展

へ産業を盛にし、特に海外發展に意を用ひた。東洋では既にジャバ・スマトラ等を略取したが、更にパプアの一部、ボルネオの南部及びセレベス・モルッカ群島等を占領し、本國に六十倍する植民地を得、また砂糖・珈琲・香料・石油等の莫大なる天産物を獲得した。従つて本國は國富み、商業は榮え、國力は大いに充實した。

1 産業と軍備

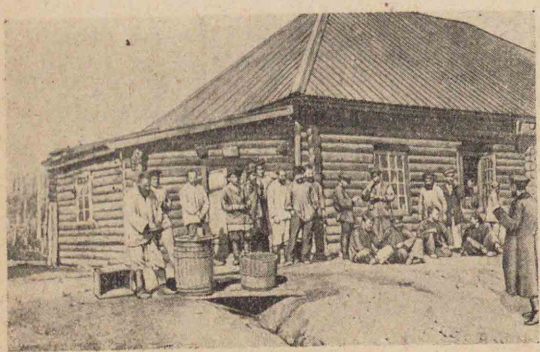
暗躍等により國內は不安であつたけれども、アレクサンドル三世・ニコラス二世等傳統的専制抑壓主義を行ひ、また外債によりて交通を開き、産業を奨励し、軍備



太平洋方面要地圖

2 アジア經營

これはシベリヤに流竄せられたロシア人の群で、主として労働に従事し附近を開拓した



者働勞るす事從に拓開ヤリベシ

の大擴張を行ひ、その陸軍は世界第一といはれた。従つてその世界政策も大いに發展し、特に中央アジア・極東方面に展開された。

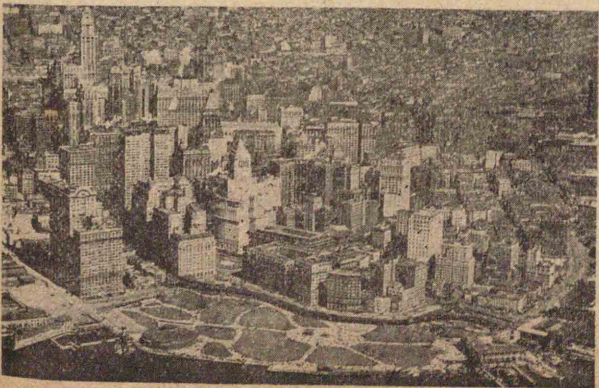
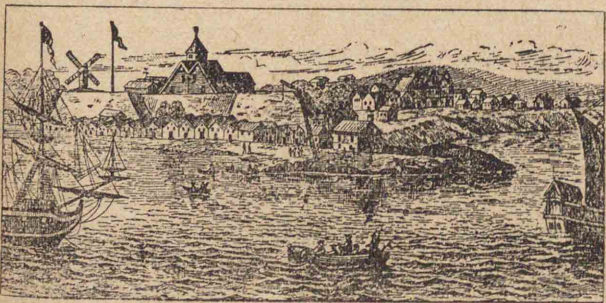
ロシアのアジア經營 中央アジアには既に十九世紀の始より進出し、やがてブカラ・キウアの兩汗國を保護國とし、清國にも侵入して伊犁事件を起し、またアフガニスタン・バルチスタンにも侵入してイギリスと衝突し、その南下を阻止された。そこでロシアは再び極東經營を始め、ムラヴィヨフが東部シベリヤを開拓し、イグナチエフが烏蘇里江以東の地を取り、ウラヂウストックに海軍の根據地を設け、我が國と交渉して千島を譲り樺太を得たから、その勢力は海を隔てて我が北方にまで伸展した。ついで我が國の發展を妨ぐるため三國干涉を行つて關東州を租借し、大いに支那を壓迫すると共に、滿洲・朝鮮等に勢力を振つたが、我が國のため見事に撃退された。

1 農工業の發達

上圖は一六五五年頃の港の光景、下圖は現代の光景である。僅かに一八〇年餘にしてかくの如く發達したるは誠に驚くべきことである

2 商業の發達

南北戰役後、アメリカ合衆國の經濟的發達は實に目覺ましかつた。大農法による小麥、棉、玉蜀黍の生産、大規模な石炭、石油、鐵鑛の採掘及び製鐵、精油事業、大工場による機械器具、織維工業の類等が盛に行はれ、交通の發達に伴つて商業、貿易もまた異常なる躍進をなした。そのため、ニューヨーク、ボストン、フィラデルフィア、シカゴ、セントルイス等の近代的大都市が出現し、大資本家、大實業家が輩出した。



ニューヨークの發達の

3 帝國主義的傾向

アメリカ合衆國第二十五代の大統領、ハセキントン(在職)

4 マッキンリー大統領



マッキンリー

かくて國力の充實するに従ひ、漸次帝國主義的傾向を採り、太平洋極東に手を伸ばすと共に、また軍備の擴張に努めてゐる。アメリカ合衆國の帝國主義 大統領 マッキンリー

はハワイに革命の起りし時、これに干渉し、やがて

同島を併合したが、またキューバ島に叛亂のありし時もイスパニヤと開戦し、戦勝の後これを獨立せしめ、なほフィリピン諸島及びグアム島を奪ひ、極東及び太平洋進出の根據地を得た。その後マッキンリーは更に極東問題につき、列強の支那に對する壓迫に反對して清國の領土保全、門戶開放、機會均等を唱へ、列強の同意を得、支那に於ける經濟的、文化的發展の基礎をつくつた。ついで大統領ルーズヴェルトは帝國主義を露骨に發揮し、大いに海軍を擴張して世界第三の海軍國となり、パナマ運河を開鑿して貿易及び國防に便し、またハワイ、フィリピン等に大軍港を築いて極東及び太平洋の防備と發展の根據地とし、支那問題にもマッキンリーの政策をついでその實現につとめた。これよりアメリカ合衆國は太平洋の制覇

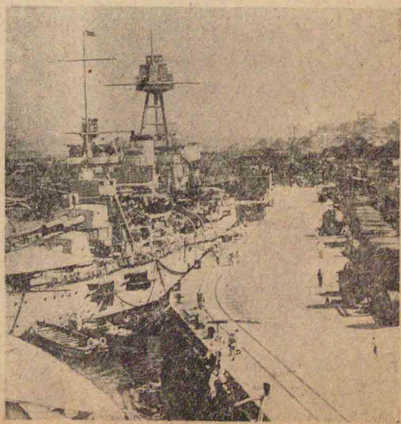
5 ルーズヴェルト大統領

彼は第二十六代の大統領にして、一九〇五年には日露開戦を調停してポーツマス條約を結びしめた

と極東經營とを指して國策を立て、世界の
視聽をひくに至つた。

⑤ 列強の世界政策と日本

かくてヨーロッパ諸國のアジヤに於ける世界政策は、我が明治時代の始概ね完了し、極東の天地は次第にヨーロッパ人の勢力と文化の風靡するところとなり、我が國にもその觸手^{ヨーロッパ}を伸ばす形勢となつた。この大勢中にあつて我が國は列國と國交を結び、通商を開き、内政を整へ國力の充實を計ると共に、日英同盟¹⁸⁹⁵を結び、ロシアの支那侵略を撃退して極東の平和を確立し、更に日佛¹⁸⁹⁷・日露¹⁹⁰⁷の協商を結び、日米覺書を交換して、世界列強間に確固たる地位を保つに至つた。かくて我が帝國は世界列強の伍伴に列し、世界の外交界に重要な使命をもつこととなつたのである。



河運マナバ

④ 図説
パナマ運河は大西・太平洋を連絡する要路でアメリカ合衆國の國防上も特に重視せられてきた。圖中の船はバルボアドック内のアメリカ合衆國太平洋方面配備艦である

第三章 ヨーロッパに於ける國際關係

1 列國の對立

2 勢力の均衡

1 三帝同盟

2 三國同盟

3 二國同盟

4 三勢力對峙

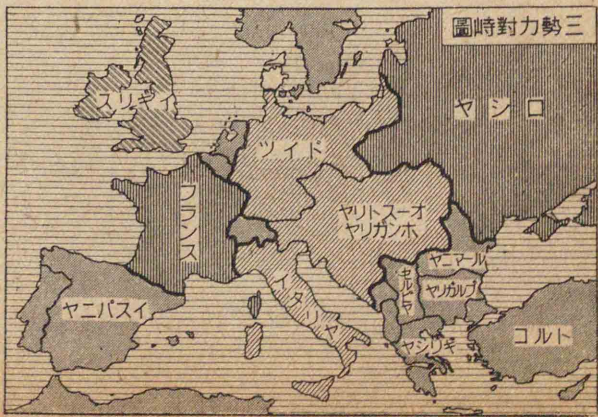
① 國際關係の發達 十九世紀の後半より、列強の經濟的充實と軍備擴張に伴ひ、各國の帝國主義は愈々尖銳化^{セシナイカク}し、到る處に衝突を惹き起さんとする形勢となつたが、幸ひ事なきを得たるは利害を同じくする數箇國が同盟または協商を結んで、勢力の均衡を保つたためである。

② 三國同盟と二國同盟 プロシヤ・フランス戰役後、ビスマルクはフランスの復讐に備ふるためロシア・オーストリアと三帝國同盟を結んだが、ロシアはベルリン會議後ドイツを怨み、フランスに接近した。そのためビスマルクは改めてオーストリアとの同盟を固くし、更にフランスに怨を抱くイタリヤを誘つて三國同盟¹⁸⁸³を結んだ。従つてフランスはこれに對抗するためロシアと二國同盟¹⁸⁹¹を結んだ。これらに對してイギリスは所謂名譽の孤立を守つてゐたので、この三大

勢力の對峙により、ヨーロッパの天地は漸く平和を維持することが出来た。

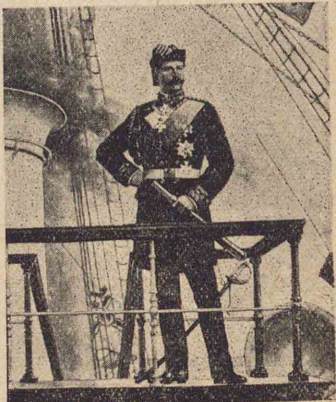
目 **ドイツ勃興の脅威** この間にドイツの産業は大いに勃興し、その製品は世界各地の市場に於てイギリス製品を駆逐した。なほウイリヤム二世は國民の輿論を容れて軍國主義に傾き、世界制覇を目的として軍備を整へたが、陸軍の擴張はフランスに脅威を與へ、海軍の擴張はイギリスを凌駕せんとする勢を示した。ここに於て列強は何れも軍備の大擴張を行ひ、所謂軍備競争時代を現出するに至つた。

ドイツの海軍 ドイツ皇帝は「ドイツの將來は海にあり」と演説して以來、海軍の大擴張を始め、一九〇〇年の再擴張案に於ては露骨にイギリスを假想敵として



1 經濟的發達
2 軍備擴張

3 軍備競争時代
4 ドイツの海軍



世二ムヤリィウの上艦

立案し、ヘルゴランドには要塞を築いて北海の防備を嚴にした。

四 **國際關係の變化** イギリスは自國の地位に不安を感じて頻りにフランス・ロシア二國と接近し、一九〇七年所謂三國協商を成立せしめた。イタリヤはオーストリアとの不和より漸く三國同盟を疎んずるに至り、ドイツ・オーストリアの二國同盟が三國協商に對抗することとなつた。

1 三國協商
2 二國同盟

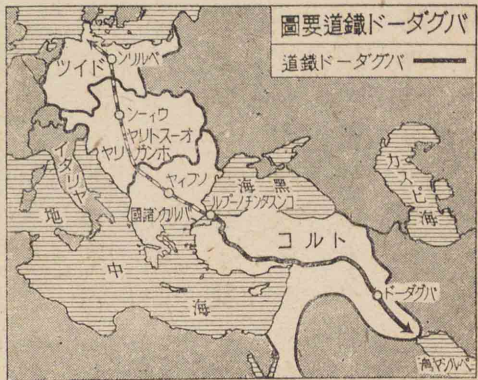
1 總スラヴ主義と總ゲルマン主義

五 **民族主義の衝突** この頃ロシア・ドイツの帝國主義はバルカン半島に於て衝突した。即ちロシアは總スラヴ主義をとつてバルカン諸國の同民族を糾合せんとし、ドイツは總ゲルマン主義をとつてオーストリアと共にボスニヤ・ヘルツェゴヴィナ・トルコに勢力を伸ばさんとした。

2 バグダード 鐵道

3 トルコの衰 勢と内亂

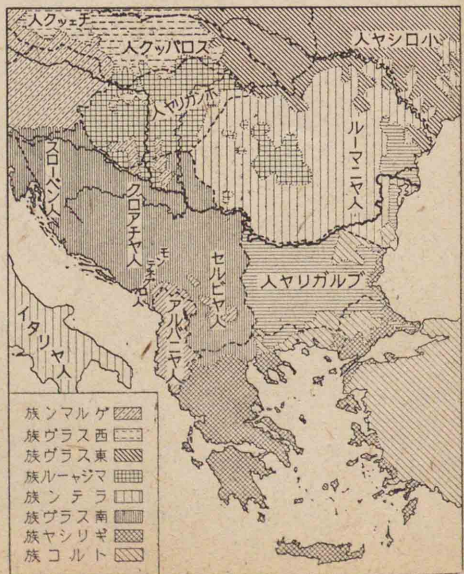
4 バルカン戰 役



ドイツの近東經營 ドイツはベルリン會議に於てトルコに好意を寄せて恩を賣り、遂にウイリヤム二世はトルコを訪問し、トルコ皇帝を懐柔してバグダード鐵道敷設權を得、小アジアよりペルシヤ灣附近に出で、以てベルリンより印度及び東洋に達せんとする計畫を立てた。この企はロシアの南下を阻むと共にイギリスの印度經營をも脅すものであつた。

當時トルコは國力が弱かつたが、一九〇八年、日露戰役に於ける日本の戰勝に刺戟せられて、青年トルコ黨蹶起し、皇帝を廢し、立憲政治に復せしめた。この内亂に乗じてブルガリヤは獨立し、オーストリアはスラヴ人多きボスニヤ・ヘルツェゴヴィナ二州の併合を宣言したから、かねて二州を自國に併合せんとしてゐたセルヴィヤは憤り、ロシアは大いに失望した。ついでトルコがイタリヤとの戰に敗るるや、一九一二年、ブルガリ

バルカン半島は民族の分布が複雑してゐるため、民族の異なるに従つて宗教・言語・人情・風俗等が異なり、これらを統一して治めることは頗る困難である



バルカン半島の民族分布圖

ヤ・セルヴィヤ・モンテネグロ・ギリシヤの諸國は同盟してトルコに宣戰し、前後二回に互るバルカン戰役となつたが、結局オーストリアの要求によつてアドリア海岸に局外中立國としてアルバニヤ王國を立て、諸國は各、その領土を擴張した。その結果セルヴィヤは海岸への進出を阻まれて深くオーストリアを恨み、ロシアは總スラヴ主義の敗北を憤つたが、日露戰役の創痕未だ癒えず、深くドイツ・オーストリアに反感を懷いた。

大戦亂の兆 かくてドイツは西部に於てはイギリス・フランスと對抗し、東部に於てはロシアと紛争を生じ、ここにヨーロッパの國際關

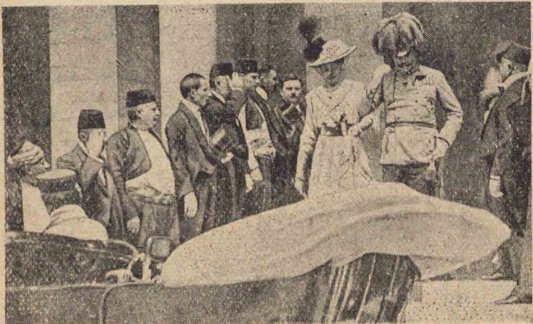
係は愈々逼迫して大戦亂の氣配濃厚となり、一觸即發の形勢となつた。

第四章 世界大戦

一 大戦亂の勃發

一九一四年、オーストリアの皇太子フェルディナンド

夫妻は、大演習統裁のため、ボスニアの首府サラエヴォに赴いたが、大セルヴィヤ主義を奉ずる一青年のために暗殺せられた。オーストリアはその責任をセルヴィヤに歸し、嚴重に抗議したが、セルヴィヤの背後にはロシアがあり、オーストリアの背後にはドイツがあつて、紛糾は悪化し、時局收拾の企も失敗して、遂にオーストリアとセルヴィヤ兩國は開戦することとなつた。この報に接してドイツはロシアに



妻夫ドンナデルエフ

- 1 オーストリア皇太子の暗殺
- 2 外交交渉開かる

一九一四年六月二八日、オーストリア皇太子夫妻がサラエヴォ市役所を出るところで、遭難の僅か数分前の光景である

3 各國宣戦

- 4 ドイツの作戦計畫

ドイツ軍隊が榮隊を先登に勇ましく行進する威容である

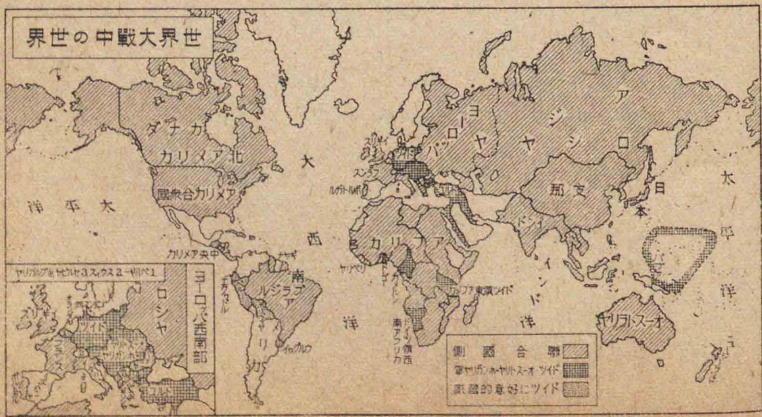
- 同盟側
オーストリア・ドイツ・トルコ・ブルガリヤ等
- 聯合側
セルヴィヤ・ロシア・フランス・イギリス・イタリア・日本・アメリカ合衆國等



ドイツ國軍

宣戦し、ロシアの同盟國フランスもドイツに宣戦した。ドイツはかねての作戦計畫により、先づ西方フランスを一舉にして屠

り、更に東方ロシアに轉ぜんとし、ベルギーの中立を破つて急遽フランスに迫つたので、イギリスもドイツに宣戦した。我が國も東洋平和のため、日英同盟によつてドイツに宣戦し、青島を



1 西部戦線

陥れ、イタリヤも翌年聯合側に参加した。
■戦況 戦役は概ね西部・東部及び海上に於て行はれ、激烈を極めた。

西部戦線

西部戦線に於ける精銳なドイツ軍は破竹の勢を以て進軍したが、勇

2 東部戦線

■圖 圖はヴェルダン要塞頂上の光景で、大戦中最も激戦のあつた跡である



場戦古のンダルーヴ

敢なるベルギー軍のために妨げられ、またフランスのジョルジュ・ペタン將軍の沈着なる作戦によつて、マルヌ河畔に阻止され、持久戦を張るの止むなきに至つた。

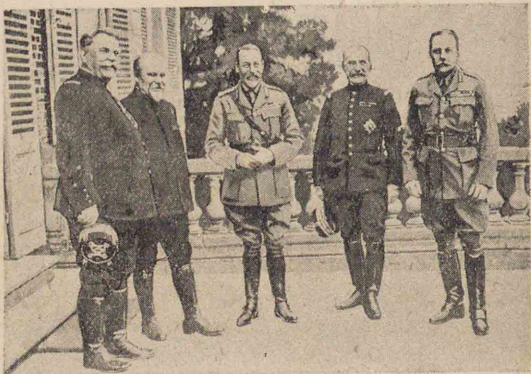
東部戦線 東部戦線に於てはドイツのヒンデンブルグ將軍の策戦によつて戦況有勢となり、遂にポーランドに攻め入つてワルソーを陥れた。この頃トルコはドイツに味方してロシアに宣戦し、またバルカン半島の諸國も多く同盟軍の勢力下に靡いた。

ヴェルダンの戦 一九一六年、ドイツは再び兵を西部戦線に集め、ヴェルダン要塞に猛襲を試みたが、フランス軍は勇敢に防いでこれを死守し、ドイツ軍は約三

3 ヴェルダンの戦

5 ユトランド沖海戦

■圖(上) イギリス皇帝が戦線を訪れた時の記念撮影で、右からヘーグ將軍(イギリス)、フオンシュユ將軍(フランス)、ジョージ五世(フランス)、大統領領事官、シカレ、ジョーンズ、フル將軍(フランス)。



物人心中の側合聯

萬の死傷者を出して敗退した。

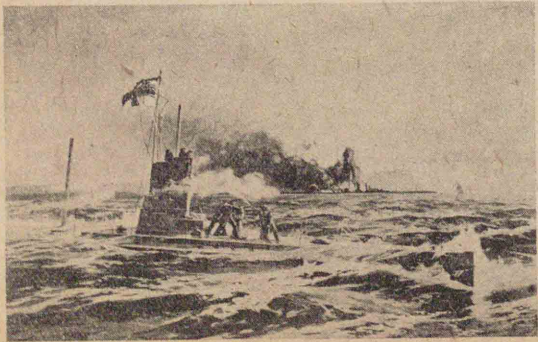
海上の戦況 この頃またユトランド沖で大海戦が行はれたが、ドイツはピーチーの率あるイギリス主力艦隊のために敗れ、制海権を失つて海上封鎖の厄をみるに至つた。そのためドイツは潜水艇を以て巧みに封鎖線を突破し、敵艦及びその商船を撃沈して奇勝を博した。

しかしこれを無制限に行つたためアメリカ合衆國の怒を買ひ、これをも敵とするに至つた。

■ロシアの革命と大戦の終局 かかる間にロシアにては革命起り、皇帝ニコラス二世は

6 潜水艇戦

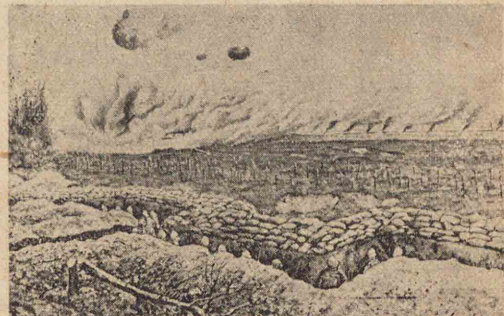
■圖(下) ドイツ潜水艇がアイルランドの海岸にあるイギリスの大貯油所を破壊してゐるところである



躍活の艇水潜

1 ソヴェト政府の成立

【圖説(上)】
 毒薬・鐵條網・毒瓦斯・煙幕などを用ひた壯烈なる西部戦場の光景である



西 部 戦 場 の 光 景

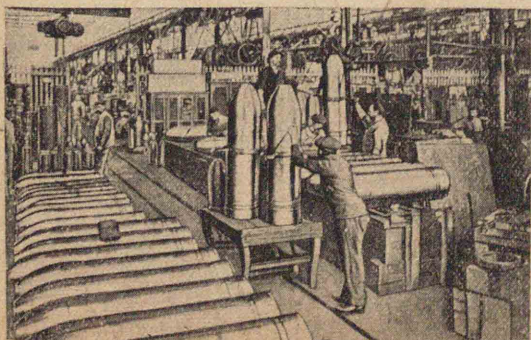
退位し、過激派のレーニン・トロツキー等が共産主義のソヴェト政府を立て、革命前の條約を破棄してドイツと單獨講和を結んだ。

最後の激戦 かくてドイツは東部の兵をひき上げ

て大軍を西部戦線に集中し、全線に互つて猛襲を開始した。フランス

のフォッシュ元帥は聯合軍の總司令官として大軍

を指揮し、隠忍持久して敵勢の衰ふるを待つて攻勢に轉ぜんとし、ここに飛行機毒瓦斯煙幕タンク巨砲機關銃等あらゆる最新武器を用ひた壯烈なる有史以來の激戦が展開せられた。しかし一九一八年三月より七月に互り、五回に及ぶドイツ軍の總攻撃も



軍 需 工 場

2 休戦

【圖説】
 一九一九年六月ヴエルサイユ宮殿「鏡の間」に於ける調印式の光景。卓による代表者の中、左より三人目はウィルソン、次はクレマンソー、次はロイド・ジョージである



ヴエルサイユ條約に對する代表者調印

効なく、最後に聯合軍の猛撃にあつて、遂に總退却の止むなきに至つた。かくてオーストリアや先づ休戦し、ドイツも食糧の缺乏、兵員補充の困難等により國內騒擾を極めたが、西部戦線に於て勝利の望を失ふに至つて、革命勃發し、ウィリヤム二世は退位し、十一月遂に休戦するに至つた。

四 パリー講和會議 ここに於て聯合國の代表者、イギリスのロイド・ジョージ、アメリカ合衆國のウィルソン、我が西園寺公望等はパリーに集まり、フランスのクレマンソーを議長として、先づドイツと講和條約を締結し、ついでオーストリア、ブルガリヤ、トルコ等とも和議が成立した。開戦以來四箇年半に互り、參加國三十二を數へ、六千八百萬

の兵員と三千餘億圓の戦費を投じ、三千三百萬の犠牲者を出した世界未曾有の大戦亂はここに終つた。

第五章 大戦後の世界情勢(上)

1 世界の改造

2 講和條項

■世界の改造 ヴェルサイユ條約の結果、幾多の重要な條項が決定されたが、そのため世界の情勢に大變化を來すこととなつた。

講和條約の主要點 ドイツは(一)エルザス・ロートリンゲンをフランスに還附し、(二)ベルギー・ポランドに地を割き、(三)ダンチヒを自由市とし、(四)巨額の賠償金(千三百億金貨)を聯合諸國に支拂ひ、(五)陸海軍の兵數を制限し、(六)海外の領土を全部放棄する(これは聯合側諸國の委任統治となる)こととなり、オーストリアは(一)民族主義により分裂してオーストリア・ハンガリア・チェコスロヴァキヤ・ユーゴスラヴィヤの四國となり、(二)イタリヤ・ルーマニヤ等に地を割くこととなつた。トルコは(一)ギリシヤ・イタリヤに地を割き、(二)シリヤ・メソポタミヤの土地を放棄することとなり、その外ロシヤ國內にありしフィンランド・エストニア等の獨立が認められた。

1 國際聯盟の成立

ウエルサイユ條約によつて新しくヨーロッパに創立された國は、チェッコスロヴァキヤ、ユーゴスラヴィヤ、ポランド、フィンランド、エストニア、ラトヴィヤ、リトワニヤ等である。

かくて民族主義を基調とする多くの新興國家が現はれ、戦敗國及び新國家は多く共和政をとることとなつたが、新舊國家ともに國家主義が高調せられて國家の發展と國力の充實とを競ふに至つた。

■國際聯盟の成立
また一方に於て國

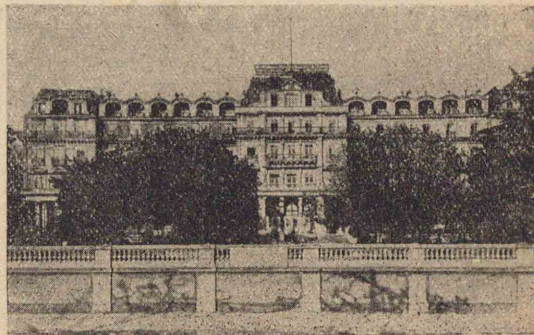


2 組織

國際聯盟には聯盟理事會と聯盟總會とがあり、國際的紛争は仲裁裁判か聯盟理事會かの審査に附することとなつた。さうして違反者に対する制裁としては一切の軍事的行動を避け、通商・交通・金融等の經濟的斷交をなすこととした。

1 國境の安全保障

2 ドイツの聯盟加入



(バーネツジ) 部本盟聯際國

際平和の思想高まり、パリ講和會議に於てウィルソンの主唱により世界平和を保障する國際聯盟が成立し、加盟國の國際的紛争を處理し、これに背くものは經濟封鎖を加ふることにした。この加盟國は五十餘に上り、國際平和の上に新紀元を劃することとなつたが、主唱國たるアメリカ合衆國の不參加は著しく聯盟の權威を疑はしめた。

ロカルノ會議 國際聯盟成立後も、ヨーロッパ

の國際關係には不安動搖があつたから、一九二五年に列國はスウィスのロカルノに會議を開いて互に國境の安全を保障し、一切の國際的紛争を仲裁裁判に附して平和的に解決することとした。この時ドイツも國際聯盟に加入して、他の諸國と協力することを約したの

1 軍備擴張

2 第一回軍縮會議

一九二一年第二十九代大統領となる

四國協約

九國條約

3 第二回軍縮會議



グンダーハ

で、ヨーロッパの平和は暫く安定するかに見えた。

軍縮會議と不戰條約 然るに列強は戦後の疲弊をも省みず軍備

の擴張に専念したので、アメリカ合衆國大統領ハーディングはこれを憂へ、一九二一年、日本、イギリス、フランス、イタリア及び支那、オランダ

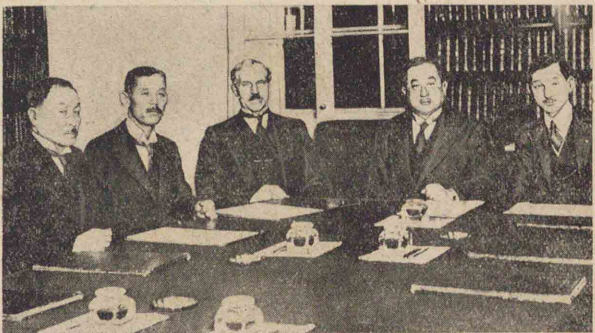
等の代表者を招いてワシントン會議を開き、

(一)日本、イギリス、アメリカ合衆國の戦艦噸數を三五・五の比率とし、十箇年その建造を中止すること、(二)太平洋問題に關し、新に日本、イギリス、アメリカ合衆國、フランスの四國協約を結び、日英同盟を廢棄すること、(三)日本は青島を、イギリスは威海衛を支那に還附し、各國は支那の領土を保全すること等を約した。

ついでアメリカ合衆國大統領クーリッジが提議して第二回軍縮會議をジュネーヴに開いたが、フランス、イタリヤの兩國は參加せず、イギ

4 第三回軍縮會議

中央はマクドナルド首相、その右が松平全權、左が若槻・財部全權、互に私的會議によつて商議を進めてゐる圖である



ロンドン會議

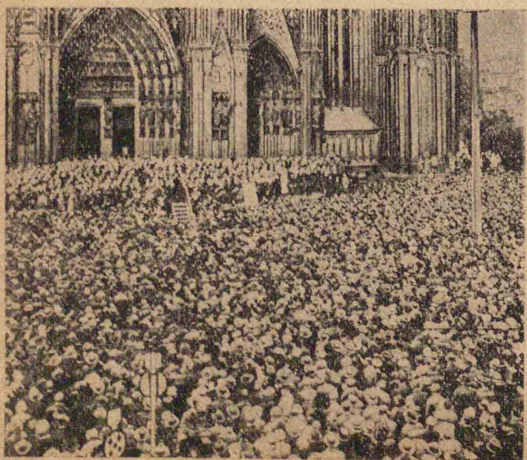
リス・アメリカ合衆國の間にも意見一致せず、結局不成立に終つた。その後、アメリカ合衆國大統領フーヴァーとイギリス首相マクドナルドの提議に基づき、日本・イギリス・アメリカ合衆國・フランス・イタリヤの五國代表はロンドンに於て第三回軍縮會議を開き、主として日本・イギリス・アメリカ合衆國の間に補助艦の比率七・一〇・一〇の保有を協定した。なほアメリカ合衆國はフランスの提案にかかる不戰條約を協議し、これを列國に勧め、¹⁹²³て世界平和の保障たらしめんとし、各國の同意を得て成立した。

5 不戰條約

第六章 大戰後の世界情勢(下)

■大戰後列國の内情 大戰後、諸國は國際聯盟及び國際會議を屢、開いて國際關係の融和に努めたが、諸國の國內事情は多難となり、經濟的危機に直面し、政治上、社會上、思想上等の動搖紛亂止む時なく、頗る不安なる情勢を續けた。

■ドイツ ドイツは大戰後、經濟上非常な窮境に陥つた。即ち莫大なる戦費と民間産業の不振とが大いに民力を疲弊せしめたる上、巨額の賠償金を課せられたので、經濟界は全く苦境に陥り、遂に支拂不能を通告するに至つた。列國は大いにドイツの不法を責め、フランスの如きは出兵して工業地帯の中心たるルール地方を占領した。



ドイツに於ける賠償反對の叫び

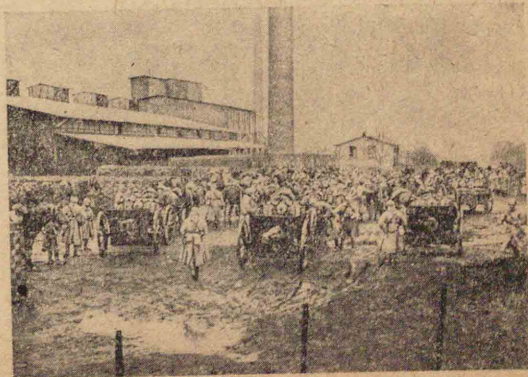
1 經濟的悲境

ドイツには大戰物發の責任は雙方にあり、ドイツのみがその責を負つて損害賠償金を負擔するは不合理なりとの國論起り、賠償反對の叫びをあげた。圖はケルン寺院前の廣場に於ける國民の示威運動である

3 賠償會議

ドーズ案

かくてドイツの産業は衰へ、財界は不振となり、紙幣は暴落し、物價は騰貴して國民の困窮はその極に達した。ここに於て列國はロンドンに會し、アメリカの財政家、ドーズの案により、ドイツの實情を調査して賠償方法を協定し、同時にフランス軍はルー地方より撤退した。その後列國委員はパリに會し、ヤング案を採用して賠償額を軽減し、ライン流域の聯合國駐屯軍を撤退し、更にローザンヌ會議に於ては今後の支拂額を三十億金貨マルクに軽減した。これによつてドイツは僅かにその經濟的危機から救はるることとなつた。



領占方地ルールの軍スラフ

ローザンヌ會議

4 共和政となる

ウィリヤム二世の退位後、ドイツは共和政を布き、ヒンデンブルグ元帥が選ばれて大統領となり、國民の信頼を求め、温和なる社會主義的政策によつて内政を整へ、特に國民精神の作興に努めたので、ドイツ國民復興の意氣は大いに上り、國力は次第に回復した。また外交上にはストレーゼマンをあげて列國と協調主義をとり、難局の打開に努めた。

ヒンデンブルグは大戦當時東部戦線にて大勝を博し勇名を馳せた。國民の信望を集めて第二次大統領となり、鋭意ドイツの復興につとめた。



グルブデンヒ

ついで一九三三年にはヒットラー現はれ、國粹社會黨(ナチス)を率ゐ

5 ヒットラー出現

一九二一年ドイツ國粹社會黨の首領となり、一九三二年の總選舉には第一黨となり、内閣を組織し、一九三四年總統の地位についた。右手をあげるのナチスの敬禮である



ーラトッヒ

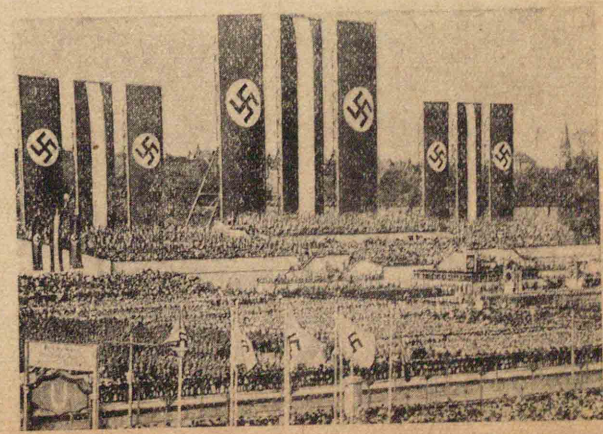
6 ドイツと日本

圖は一九三四年、ベルリン郊外テンベルホフに於て開かれたナチス大會の光景、卍はナチスの旗章である

1 ムツソリーニの獨裁政治

2 内政の充實

體主義を唱へてドイツ民族と國家の發展に渾身の努力を續けてゐる。
ドイツと日本 我が國は明治時代中期以後、ドイツに文化を學び、就中醫學理化學哲學等に於て恩恵をうくること頗る大であつた。その後ドイツは我が國情國民性等をよく理解し、一九三六年にはロシヤの共產主義宣傳に對して、日獨防共協定を結んだ。
イタリアは大戰後財政困難に陥り、且つ國內の不安に乗じて過激なる社會主義者が横行して國家の存在を危くしたが、ムツソリーニが現はれて、國民社會主義を奉ずるファシスト黨を率ゐ、武力を以てローマに進み、遂に政權を掌握した。彼はやがて國王より全權をうけて



ナチス大會

ムツソリーニは大戰後イタリアに暴動が起つた際、同志ファシスト黨員を率ゐてこれを鎮定し、一九二二年ローマに入つて首相となり大いに彼の政策を斷行するに至つた。本圖は彼がその首脳部を率ゐて大衆に獅子吼する光景である



ムツソリーの演説

3 イタリアと日本

1 ソヴェエト政府

2 國情

を征服して大いに國威を發揚した。
イタリアと日本 イタリアとは最近に至り特に文化的交渉深く、また我が國はイタリアのエチオピア併合を承認し、防共協定をも結んだ。
ロシヤ レーニン等によつてたてられたソヴェエト政府は、首府をモスコに定め、武力を以て共產主義を斷行し、一時獨立せる諸小國をも併せて、一九二二年ソヴェエト社會主義共和國聯邦を組織した。然るにソヴェエト聯邦は共產社會主義をとり、國王その他の主權を認

極端な獨裁政治を行ひ、軍備の擴充、産業の獎勵、教育の向上等着々としてその成績をあげ、諸種の社會政策を實施して一般國民の福利を増進した。また外交上に於てもヨーロッパ列強の間に伍して重要な地位を占め、最近にはエチオピア

現時のロシア政界に權勢を振ひつつあるヨセフ・スターリン



シリータス

シニール

3 新政策

めず、獨裁政治を排撃し、且つ私有財産を禁ずること等その政治經濟機構が著しく各國と異なりたる上、巧妙なる方法を以てその主義思想を各國に宣傳し、以て既成國家を混亂せしめ、自國の勢力を伸張せんとする野心を有したから、一時は國際社會より除外され、そのため經濟的に困窮し、各種の産業も衰へた。よつてソヴェト政府はその主義政策を幾分か緩和し、世界的宣傳をも稍、差控ふることとし、また新經濟政策を立つるに至つたので、列國も漸くこれを認め、その獨立を承認し、國交を結ぶこととなつた。

また産業上の五箇年計畫は着々功を奏し、國際聯盟に加入して列國と友誼を保ち、特にフランスと親交を結び、ヨーロッパの外交界に重要な地位を占めてゐる。

4 極東政策

ロシアは飛行機の數に於てまた常備軍の數に於て世界第一と稱されてゐる。圖はコザック騎兵隊が空軍に呼應して活躍する大演習の光景を示す

5 ロシヤと日本

かくてソヴェト政府は、ヨーロッパに於ける地位漸く安固となるや再び東洋に進出し、その共產思想を宣傳して支那を混亂に陥らしめ、更に滿洲國及び我が國にも手を伸ばさんとした。そのため支那は防共軍を起し、また我が國は一九三六年、ドイツと防共協定を結んだ。かくて近年ソヴェト政府は盛に軍備を整へ、空軍を擴張し、最新兵器を準備して、極東に向つて虎視眈々たるの形勢をとつてゐる。

ロシアと日本、ソヴェト、ロシアの巧妙なる共產主義宣傳は我が國にも及んだが、尊嚴なる我が國體は微動だもせず、却つてそのために國民の間には日本精神を高調し、國體觀念を明徴にした。但し今後と雖も彼等の宣傳には最も注意を要すべく、また軍備



容威の軍空ヤシロ

1 經濟界の不安

圖説
 イギリスの労働黨の首領。一九二四年イギリス最初の労働黨内閣を組織した。一九三一年英貨暴落の時は舉國一致の内閣をつくつて善處し、また増税と経費節減を斷行して國家の財政を安固にした。



ドルナドクマ

を充實して國防に努むべきであらう。

五 イギリスは大戰後海外に多くの委任統治領を得て、益々勢力範圍を擴めたが、國內に於ける經濟界の不振は財政の困難を來し、また多くの失業者を出して社會的不安を増大し、そのため一九二六年には全國労働組合の總同盟罷業が勃發した。ついて一九三一年には英貨暴落して經濟的危機に際會したが、マクドナルド首相は巧に難局を處理し、經濟界の不安を除いた。然るに大帝國內には民族自立主義が盛となり、エジプトは一九二二年その保護を逃れて獨立の姿となり、印度にも志士ガンヂー等の指導により獨立運動が行はれ、アイルランドは長年の懸案解決せられて共和國となり、本國政府はその統制に惱まされてゐる。されど廣大なる植民地と鞏固なる經濟的勢力と世

2 自立運動

圖説
 一九三七年五月戴冠式舉行の時のイギリス皇帝

3 イギリスと日本



世六ジョージ

界第一を誇る強大な海軍力とにより、今なほ外交上、軍事上、經濟上に優越なる地位を確保してゐる。

イギリスと日本 日英同盟締結以來、我が國とイギリスとは外交上、文化上に於て、極めて親密なる友誼を續けたが、殊にアジア、太平洋上にあるイギリス植民地との經濟的關係、例へば日印、日濠貿易等を始め、各地に於ける經濟的交渉は極めて深い。日英同盟は一九二一年廢棄せられたが、なほ太平洋問題、支那問題等に關する兩國の關係は依然密接である。然るに近時アジアに於ける我が商品の進出を阻止し、併せて東洋の防備に努めてゐることは、特に我等の注目すべき點である。

フランス 大戰後フランスは宿敵ドイツを完全に抑へて、意氣高く外交上支配的地位を保つた。けれども經濟上に於ては戰後の不況により財政著しく悲境に陥り、國民は貨幣の下落と物價騰貴に悩んだが、ポアンカレーが舉國一致内閣を組織して、この難局を打開し、

1 國內の充實

政治家にして學士院會員である。一九一三年大統領となり、大戦中この職にあつて國家のために盡した。一九二六年の經濟的危機に際しては反對黨をも入れて内閣を組織し、その難局を處理した。



—レカンアボ

ドイツよりの賠償金と産業の恢復により、完全に整理復興して國力を充實することが出來た。

外交上に於ては常に國際聯盟を樞軸とし、ヴェルサイユ條約の維持につとめ、以て自國の地位を安固ならしめんとしてゐるが、最近ドイツの急激なる勃興により、少からざる脅威を受けてゐる。

2 外交政策
3 フランスと日本

フランスと日本 明治以來、我が國とフランスとは文化的交渉多く、特に文藝美術に於て彼に學ぶところが多かつた。なほ大戦後も友好關係を續けてきたが、特に東洋に於けるその植民地との間には近年交渉が頻繁となつてきた。

1 戦後の繁榮

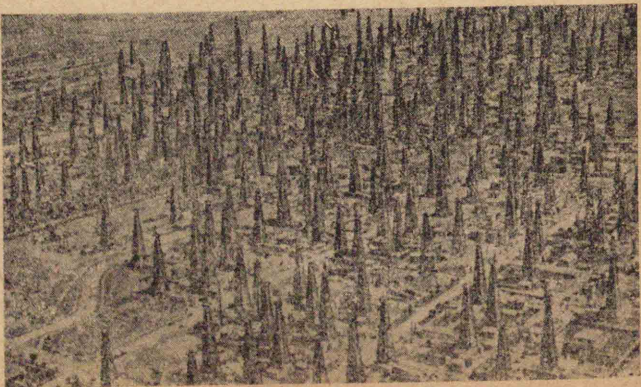
アメリカ合衆國 アメリカ合衆國は大戦中に莫大なる物資を交戰國に供給して巨利を博し、大戦後は巨額の資本と豊富なる天然資源とを利用し、生産の科學的研究及び能率増進を圖つて世界第一の

2 外交上の優越

羅斯アンゼルス 附近油井櫛の林立する壯觀を示す

産業國たる地位を得、物質文化の繁榮は、眞に世界に冠たるものがある。

外交に於ても常に指導的地位に立ち、大統領ウイルソン、ハーディング、クローリッヂ、フーヴァーの國際會議條約締結等に於ける活躍は目覺ましかつた。なほ傳統的國策としての汎米主義總アメリカ主義は、外交上にも現はれて、南北兩アメリカ大陸にある諸國を威壓し、太平洋方面にも進出し、極東問題にまでも干渉するに至つた。また現大統領ルーズヴェルトは産業復興法を設けて世界的産業不振の禍を



田油大ヤニルオフリカ

4 極東問題

一九三二年第三十二代大統領となり、一九三六年再選せられた



トルエヴズール

産業復興法を設けて世界的産業不振の禍を

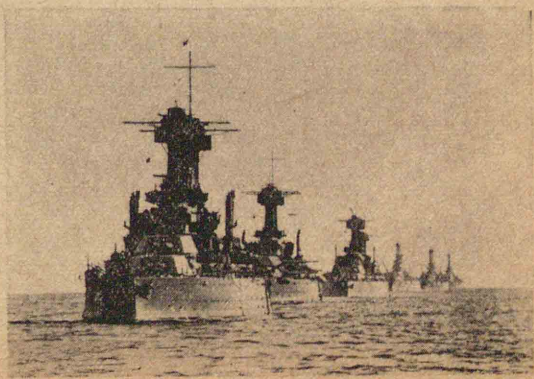
除き、大規模なる海軍擴張案を立てて太平洋制覇を望んでゐる。

5 アメリカと日本

アメリカ合衆國は世界大戰に至るまでイギリス・ドイツについて世界第三位の海軍國であつたが、ワシントン條約後イギリスと對等の世界第一の海軍力を保有する基礎を確立した

【圖説】

アメリカと日本 アメリカと日本とは太平洋を隔てて對峙し、また我が南洋諸島への道と彼がグム・フィリピンへの道とは交錯してゐる。明治以來、日米の經濟的・文化的關係は最も密接であり、我が國よりの移民も多く、外交關係もまた緊密である。大戰後軍縮會議と太平洋問題により協調を保ち、我もまたその低率を甘受したが、一九三六年軍縮會議の決裂後は所謂太平洋無條約時代となり、彼は大規模なる海軍擴張案により大艦隊を太平洋に集中する計畫を立てた。



アメリカ太平洋艦隊

1 國際聯盟の破綻

國際聯盟の成立以來、イギリス・フランスはその中心勢力となつて活躍したが、これらの利害を等しくする諸國が相集つて常に專横を極め、また不合理・不備な點が多かつたから、我が國を始めドイツ・イタリヤ等脱退する國が多かつた。

國際聯盟・國際條約の破綻

2 ヴェルサイユ條約の破棄

またヴェルサイユ條約も戰勝國の利益のみを主として、戰敗國及び諸小國を不當に壓迫したから、先づドイツが條約の破棄を宣言して着々これを實行し、その後これに倣はんとする國も漸く現はれた。

3 軍縮條約の破綻

次に軍縮會議は名を國際平和の美名にかりて、他國の興隆を阻止し、自國の優越を計らんとするものであつたから、我が國はその後の國際情勢に鑑み、遂にワシントン條約の破棄を通告した。茲に於てイギリス・アメリカ合衆國等の諸國は何れも自己の野心を遂げんとして陸・海・空軍の擴大強化に努むることとなつた。

かくて不合理なる國際聯盟・ヴェルサイユ條約・軍縮條約等が相ついで破綻したるに反し、日・獨・伊等の新興勢力が擡頭するに至つた。

世界の最新情勢 日獨伊三國は先に防共協定を結び共同防衛の陣を固めたが、その後更に文化協定をも結んだ。かくて我が國は東洋

1939

1937

1939

1 防共・文化協定

2 日・獨・伊三國の活躍

に於て、滿洲國の獨立發達を助け、ついで容共反日の蔣介石を膺懲して日滿華を連ぬる東亞新秩序の建設に努めてゐるが、これに呼應してドイツは失地回復とドイツ民族の糾合及び國運の進展を計らんとして、軍備を整へ、外交を巧にして、オーストリア・ボヘミア等を併せ、

1938

1939

スロヴァキヤと保護條約を結び、イタリヤは

1938

エチオピア併合の後、更にアルバニヤを併

1939

せた。然るに一九三九年八月に至り、ダン

チヒ問題をめぐつてドイツ・ポーランド關

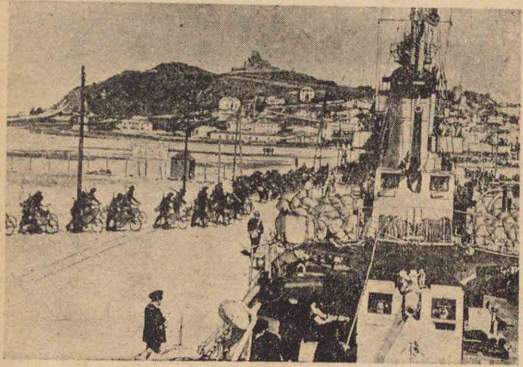
係が悪化し、イギリスはポーランドを支持

する態度をとつたが、ドイツはソヴェト聯

邦と不可侵條約を結び、優秀なる空陸軍を

派してポーランド軍を撃破し、ダンチヒを

併せ、またソヴェト聯邦と共にポーランド



陸上ヤニバルアの軍ヤリタイ

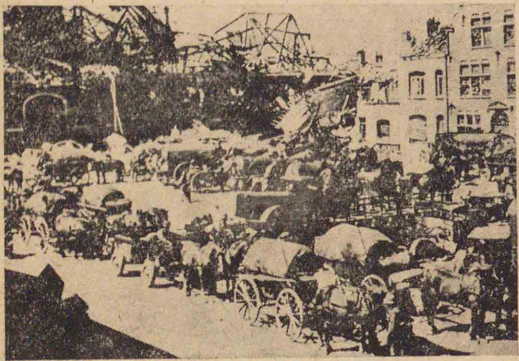
3 獨ソ不可侵條約

4 ポーランド分割

5 英・佛の對ドイツ宣戰

6 ドイツ軍の電撃作戦

ダンケルクはベルギー國境に近きフランスの港市で、英・佛等の聯合軍がドイツ軍と激烈なる戰鬪を交へた要衝である



城入クルケンの軍ツイド

を分割してこれを軍事的に占領した。茲に於てイギリス・フランス兩國はドイツに對して戰爭状態に入る旨を宣し、フランスはイギリス軍の援をうけてマチノ線によりドイツ軍と對峙した。かくて始めは互に宣傳戰經濟封鎖等を盛に行つたが、翌一九四〇年四月、ドイツは電撃作戦によつてデンマルク・ノルウェーを占領し、更に五月にはオランダ・ベルギー・フランスに進出した。ドイツ軍の電撃作戦は、先づ空軍によつて爆撃破壊を敢行し、戦車機械化部隊等が最新兵器を用ひて猛烈なる進撃を行ふもので、かくてオランダを席卷し、マチノ線を突破して敵の大軍をベルギーの野に包圍殲滅し、更に南進してパリを陥れたが、この時イタリヤの參

7 フランスの降服

8 英本土攻撃

9 バルカン作戦

1 日獨伊三國同盟

2 世界新秩序の建設

戦が宣せられ、フランスは遂に休戦協定を結ぶに至つた。これは開戦より僅か六週間を出でず、誠に世界史上稀なる戦果である。

ドイツは更に英本土攻撃に全力を挙げ、敵の重要都市・軍事施設を爆撃し、また飛行機潜水艦等によつて敵の船艦を襲撃して経済的打撃をも與へて武威を振つてゐるが、更にバルカン作戦等によつて大いに戦果を擴大したので、イギリスは窮地に陥り、ためにアメリカ合衆國の參戰の機運は濃厚となつた。

世界新秩序の建設 この間一九四〇年九月にはベルリンに於て日獨伊三國が同盟を結び、我が國と獨伊兩國とは互に大東亞及び歐洲に於ける新秩序建設に關する指導的地位を認め、且つこれを相互に尊重することを約した。我が國が東亞共榮圈の樹立を宣言せるも蓋し獨伊と共に世界新秩序の建設に處する所以に外ならず、この同盟はやがて國際政局に一轉機を豫約するものといふべきである。

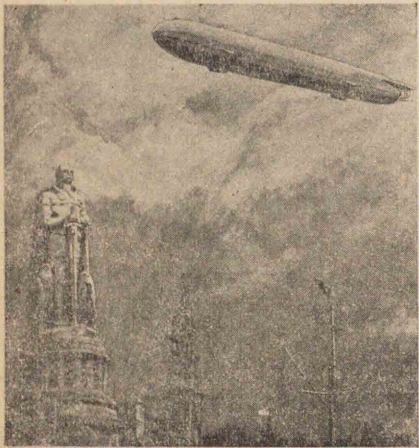
第七章 現代の文化

現代文化の特質 二十世紀の文化は、大體に於て十九世紀文化の繼續と見るべく、物質文化と自由主義とがその根本基調をなして、更に大なる發達をなした。けれども大戰後の世界的變化に従ひ、そこに多くの特質をもつに至りしことはいふまでもない。

科學の應用と工業の發達 十九世紀以來研究せられたる科學は、現代に入つてあらゆる方面に應用せられた。まづ交通に於ては、飛行機・飛行船の急速なる發達によつて、今や全世界に航空輸送路が開かれ、歐米・歐亞・米亞・歐濠等の定期航空路を見るに至り、陸上に

1 交通の發達

ドイツのツェッペリン飛行船がハンブルグのピスマルク像上を飛行してゐる雄姿である



船行飛ンリベツェツ

2 通信の發達

3 動力の發達

圖

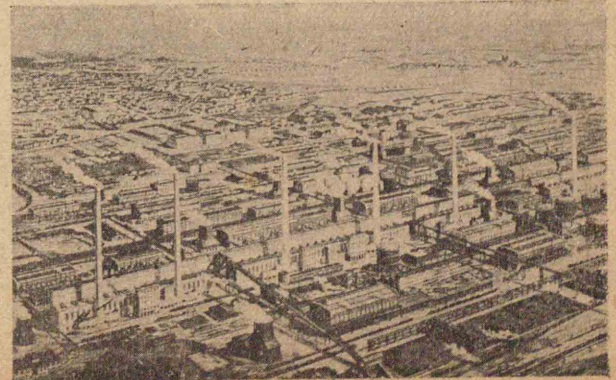
ドイツのライプ
チヒ附近メルゼ
ブルグ市の工場
の一部を示す

4 大工場の設
立

5 建築の發達

1 經濟の發達

於ける優秀なる汽車・自動車の出現、海上に於ける巨船の建造と共に未曾有の發展を遂げた。通信もラヂオ・無線電話の發達により世界各地に於て直ちに通話し得ることとなつた。また動力に於ては、ガソリン・モーター・ディーゼル・エンジン及び電力の利用著しく、工業に於ては、鐵・輕金屬等の研究が進み、大規模にして精巧なる機械工業が發達し、到る處に廣大なる工場の設立をみるに至つた。建築・土木に於ても實用的にして堅牢なる鐵筋コンクリート式が現はれ、各所に巨大なる施設經營を誇つてゐる。



現代工場之景觀

經濟政策の重要　かくの如き交通及び工業の進歩は、また商業・貿

2 經濟と國家

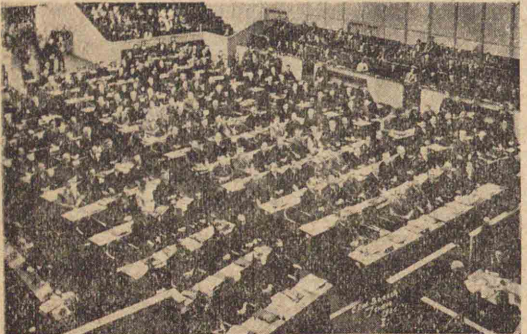
易及び金融の發達を促し、更にこれらの經濟現象は一般國民の生活を向上せしめ、國家經營及び國運の發展にも重大なる貢獻をなしてゐる。世界大戰の勝敗が科學及び經濟の發達に深い關係のあつたこと、及び大戰後の經濟的不況により多くの社會的・國家的問題を惹

3 經濟政策

圖

昭和十一年ジュ
ネーヴに開催さ
れた労働會議

4 重要國策と
なる



萬國労働會議

起し、國運の進展を阻止せること等については各國共に苦い經驗を嘗めたところである。されば各國に於ては經濟政策・財政政策・社會政策等を重要視し、或は労働問題を解決し、或は産業復興法を設け、或は産業の合理化・經濟統制等を行つてゐる。經濟政策が國策として重要視することは、確かに物質文化が現代文化に於て重きをなす一特相といふべきである。

- 1 民族自決主義
- 2 民主的共和政

自由主義とその没落 十九世紀の頃自由主義は民族の自由統一運動となつて現はれたが大戦後は民族自決主義となつて多くの新興國家が現出し、それらは民主的共和政體をとつた。然るに自由主義は個人の自由・権利のみを尊重し、全體的國家的觀念が薄く、統合精神に缺くるところが多いため次第に没落し、亡國の悲運を見るもの、或は國家主義に轉向するもの等が漸く多くなつた。

- 1 國家主義の強調
- 2 國家主義の風靡

國家主義の隆昌 自由主義・國際主義の衰頹に引きかへ、近時國家主義が大いに興つた。個人よりも全體及び國家を重んじ、國家は國家の有する當然の權利を主張し、その權益を擁護し、他國よりの不法侵略を防ぐため軍備を強化し、民族精神を昂め、國家の歴史と光榮とを尊び、その傳統的文化を強調し、以て國運の隆昌を計らんとするものである。この風潮はドイツ・イタリヤ等を始め現時廣く世界を風靡してゐる。

第八章 西洋史上より觀たる我が國の使命と

國民の覺悟

- 1 日本文化の發達
- 2 新秩序の建設

西洋史上の日本 我が國が西洋史上に於て歐米諸國と交渉し始めたのは近世以後に屬するけれども、優秀なる日本民族は固有の文化の發達を圖ると共に、西洋文化をも攝取醇化して、遂に彼等の壘を摩し、殊に明治以後は國運も急激に進展して列國を驚かし、日露戦争後は世界強國の一として國際間にも重きをなすに至り、更に最近は獨伊兩國と相提携して世界新秩序建設に關する指導的地位に立つこととなつた。

日本の使命 抑、世界新秩序の建設とは、萬邦をして各、その所を得しめ、共存共榮によつて恒久の世界平和を樹立せんとするものであつて、これはやがて我が肇國の精神たる八紘一宇の大理想に合致す

世 近		世 近 最	
世紀	十八	十八	十九
西紀	一七八〇 マリヤアテレサの死 一七六三 ヴェルサイユ和約 一七六九 ワシントン大統領となる 一七九〇 フランス革命起る	一七九二 フランス第一回同盟 一七九三 恐嚇政治○ルイ十六世の死刑 一七九四 都督政府の成立○パーゼルの和約 一七九六 ナポレオンのイタリヤ侵入 一七九七 カンポロフォルミオの和約 一七九八 ナポレオンのエジプト遠征○ 一七九九 アフキル海戦の海戦 一八〇〇 フランス第二回同盟○統領政府の成立	一八〇一 ナポレオンの即位 一八〇二 フランス第三回同盟○トラ 一八〇三 アルガル海戦○アウステ 一八〇四 大陸封鎖令○ライオン同盟の成 一八〇五 立○神聖ローマ帝国の滅亡 一八〇六 チルジットの和約 一八〇七 ナポレオンのロシア遠征 一八〇八 対フランス第四回同盟○ライ 一八〇九 ブチツピの戦
國史・東洋史	一七六二 大槻玄澤の蘭學 一七六六 シヤム、清に入貢 一七九〇 安南、清に入貢	一七九二 林子平の禁錮 一七九三 高山彦九郎自決	一八〇四 レサノフ来る 一八〇七 ロシア人蝦夷に 一八〇八 イギリス船長崎 に侵入
世紀	十八	十八	十九
西紀	一七九二 一七九三 一七九四	一八二二 一八二三 一八二四 一八二五	一八三三 一八三四 一八三五 一八三六 一八三七 一八三八
西 洋 史	ポージランド第二分割 ポージランド第三分割 パリ陥落○ルイ十八世の即 位 ウィーン會議○ワテルロー の戦○神聖同盟の成立 ギリシヤの獨立戦争起る モンローの宣言 ギリシヤの獨立 七月革命○ベルギーの獨立 イギリス選舉法改正案の通過 ○ポージランド、ロシアに併合 さる○ゲーテ死す ドイツの關稅同盟成る	ナポレオン三世の即位○第二 帝政の始 クリミア戦役起る イタリヤ統一の役起る	ウィリアム一世、ドイツ皇帝と なる○パリ開城○ドイツの 統一完成 フランス第三共和制の確立 ロシア、トルコ戦役起る○イ ギリス、印度を直轄す サンステファン條約○ベルリ ン列國會議 イタリヤ・トルコ戦役 第一次バルカン戦役 第二次バルカン戦役 世界大戦起る○パナマ運河竣 工 ワルソー陥落 ヴェルダン攻撃 ロシアの革命○アメリカ合衆 國の參戰 世界大戦終る パリ講和會議 國際聯盟成立 ワシントン軍縮會議 イタリヤ、ムツツリニの獨裁 政治始まる○ソウヴェト社會 主義共和國聯邦の創建
國史・東洋史	一八二四 伊能忠敬の沿海 實測全圖成る 一八二五 清阿片輸入を嚴 禁す 一八三三 外國船隻捕合の 發布 一八三七 松平定信死す	一八三三 長髮賊の亂 一八三五 ベリイ來朝 一八三六 安政の假條約 一八三九 フランスのサイ ゴン占領○安政 の大獄	一八三三 廢藩置縣 一八三七 臺灣征伐 一八三七 西南の役起る 一八三三 大正天皇踐祚○ 清の滅亡 一八三三 中華民國の承認 一八九四 日本ドイツに宣 戰 一九〇六 袁世凱死す 一九〇八 シベリヤ出兵 一九一四 排日運動起る 一九二三 關東大震火災

世 近 最		代 現		
世紀	十九	十九	二十	
西紀	一八〇〇 ドイツ・フランス戦役○イタ リヤの統一完成 一八〇六 スエズ運河開通 一八〇九 イギリス、エジプトの實権を 握る 一八一三 フランス、安南を保護國とす 一八一八 ○三國同盟成立 一八二〇 ドイツのウィリアム二世即位 一八二一 二國同盟成立 一八二二 ファショダ事件 一八二七 トルコ、ギリシヤと開戦 一八二八 米西戦争起る 一八二九 南アフリカ戦争起る○ハーグ 萬國平和會議 一八三〇 日英同盟成立 一八三二 日露戦役起る 一八三三 モロッコ問題起る○シベリヤ 鐵道の完成 一八三六 三國協約成立 一八四〇 南アフリカ聯邦成立	一八〇六 下關砲撃 一八〇七 大政奉還 一八一〇 伊豫事件解決 一八一三 憲法發布 一八一八 第一回議會召集 一八二〇 日清戦役起る 一八二四 北清事變起る 一八二五 清と列國の和議 成立 一八二六 日佛・日露協約成 立 一八三〇 韓國併合	一八二二 一八二三 一八二四 一八二五 一八二六 一八二七 一八二八 一八二九 一八三〇 一八三二 一八三三 一八三六 一八三七 一八三九 一八四〇 一八四一	西 洋 史 イタリヤ・トルコ戦役 第一次バルカン戦役 第二次バルカン戦役 世界大戦起る○パナマ運河竣 工 ワルソー陥落 ヴェルダン攻撃 ロシアの革命○アメリカ合衆 國の參戰 世界大戦終る パリ講和會議 國際聯盟成立 ワシントン軍縮會議 イタリヤ、ムツツリニの獨裁 政治始まる○ソウヴェト社會 主義共和國聯邦の創建 一八三三 關東大震火災
世紀	十九	十九	二十	
西紀	一八〇六 一八〇七 一八〇八 一八〇九 一八一〇 一八一三 一八一六 一八一七 一八一八 一八一九 一八二〇 一八二一 一八二二 一八二三 一八二四 一八二五 一八二六 一八二七 一八二八 一八二九 一八三〇 一八三二 一八三三 一八三六 一八三七 一八三九 一八四〇 一八四一	一八〇六 一八〇七 一八〇八 一八〇九 一八一〇 一八一三 一八一六 一八一七 一八一八 一八一九 一八二〇 一八二一 一八二二 一八二三 一八二四 一八二五 一八二六 一八二七 一八二八 一八二九 一八三〇 一八三二 一八三三 一八三六 一八三七 一八三九 一八四〇 一八四一	一八三三 關東大震火災	

附 録 年 表

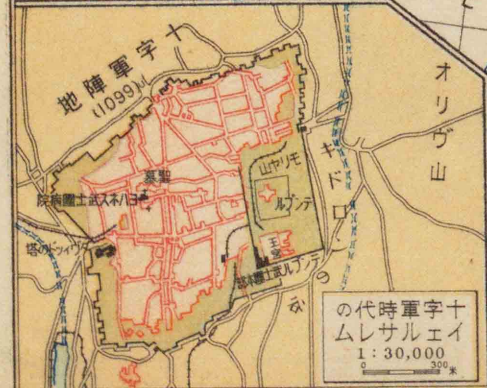
現 代		世紀
二十		西紀
一九二四	ロンドン協定成る	國史・東洋史
一九二五	ヒンデンブルグ大統領となる	
一九二六	イギリス労働大争議○ポアンカレ一挙閣内閣の成立	
一九二七	ジュネーヴ軍縮會議	
一九二八	不戦條約調印	
一九二九	ヤング案に基づく賠償會議	
一九三〇	ロンドン軍縮會議	
一九三一	ローザンヌ會議	
一九三二	ドイツ、ヒットラーの獨裁政治始まる○ドイツの國際聯盟脱退通告	
一九三三	フランス・ロシアの協定○ドイルカン四國協約○ロシアの國際聯盟加入	
一九三四	ザール地方のドイツ復歸○フランス・イタリア協定○ストレーザ會議○イタリア・エチオピア開戦○フィリッピン獨立宣言○ロンドン軍縮會議	
一九三五	ドイツ軍ライン地方進入○イタリヤ・エチオピアを併合○イスパニヤ革命起る○日獨防共協定の成立	
一九三六	今日上皇御即位○國民政府成立	
一九三七	滿洲事變	
一九三八	上海事變○滿洲國成立	
一九三九	日本の國際聯盟脱退通告	
一九四〇	滿洲國帝政實施	
二十		世紀
二十		西紀
一九四一	日獨伊防共協定の成立○イタリヤの滿洲國承認○イスパニヤ革命政府と滿洲國の相互承認○イタリヤの國際聯盟脱退通告	國史・東洋史
一九四二	ドイツの滿洲國承認○ドイツ、オーストリアを併合○ミュンヘン四國協定(獨伊英佛)○ドイツ、チェコスロヴァキヤのズデーテン地方を併合	
一九四三	ホンガリア、防共協定に参加○イスパニヤ戦争終る○ドイツ、ポヘミア・モラヴィヤ(チェコスロヴァキヤ)を併合○イタリヤ、アルバニヤを併合○獨伊同盟	
一九四四	○アメリカ合衆國、日米通商條約の廢棄を通告○獨伊同盟の締結○ポーランド不可侵條約の締結○フランスの對ドイツ戦争状態の宣言	
一九四五	ドイツ軍のデンマルク・ノルウェー進撃○ドイツ軍のオランダ・ベルギー進撃○イタリヤの参戦○フランスの降服○日獨伊三國同盟の成立	
一九四六	ドイツ・イタリヤ軍のバルカン進撃○日ソ中立條約の締結○ドイツ、ソウエトの開戦	
一九四七	支那事變起る○中華の南京占領時政府の成立	
一九四八	中華民國維新政府の成立○張鼓峰事件○わが軍の漢口占領	
一九四九	滿洲國、防共協定に参加○ノモンハン事件	
一九五〇	中華民國新國民政府成立	
一九五一	日本、タイ、佛領印度支那間の國境紛争を調停	



圖地要パッローヨ世中
1:22,000,000
す示をのもの時當征遠軍字十回一第は境國

パッローヨ世中
圖通交
1:40,000,000
600 里

路進の軍字十
(年九九〇一—年六九〇一) 回一第
(年二九一—年八九一) 回三第
領所ドラグンイを於に内スラフ

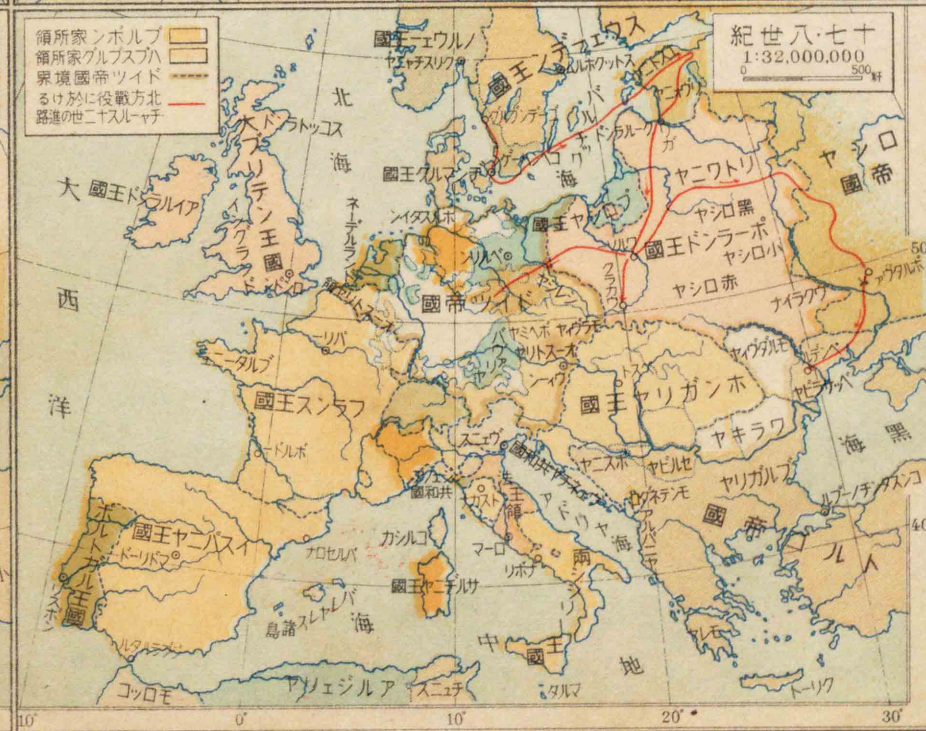
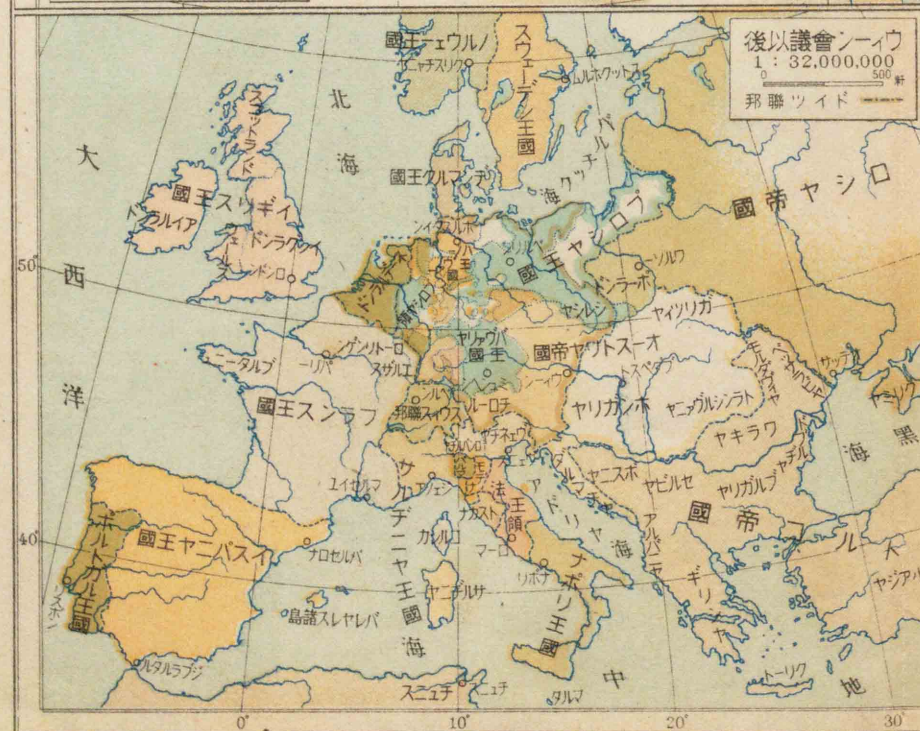
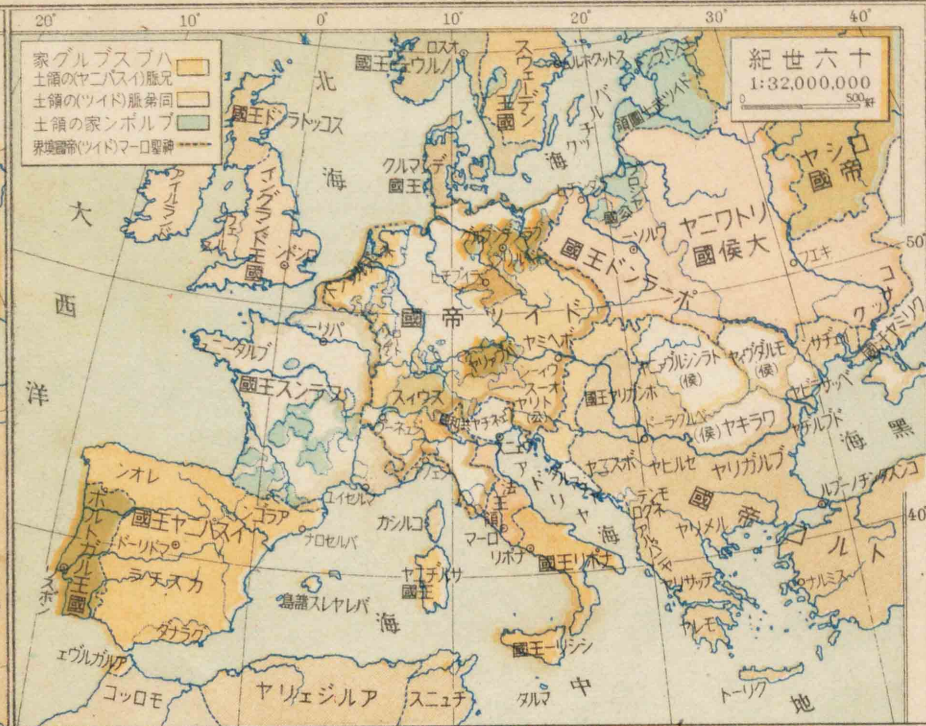


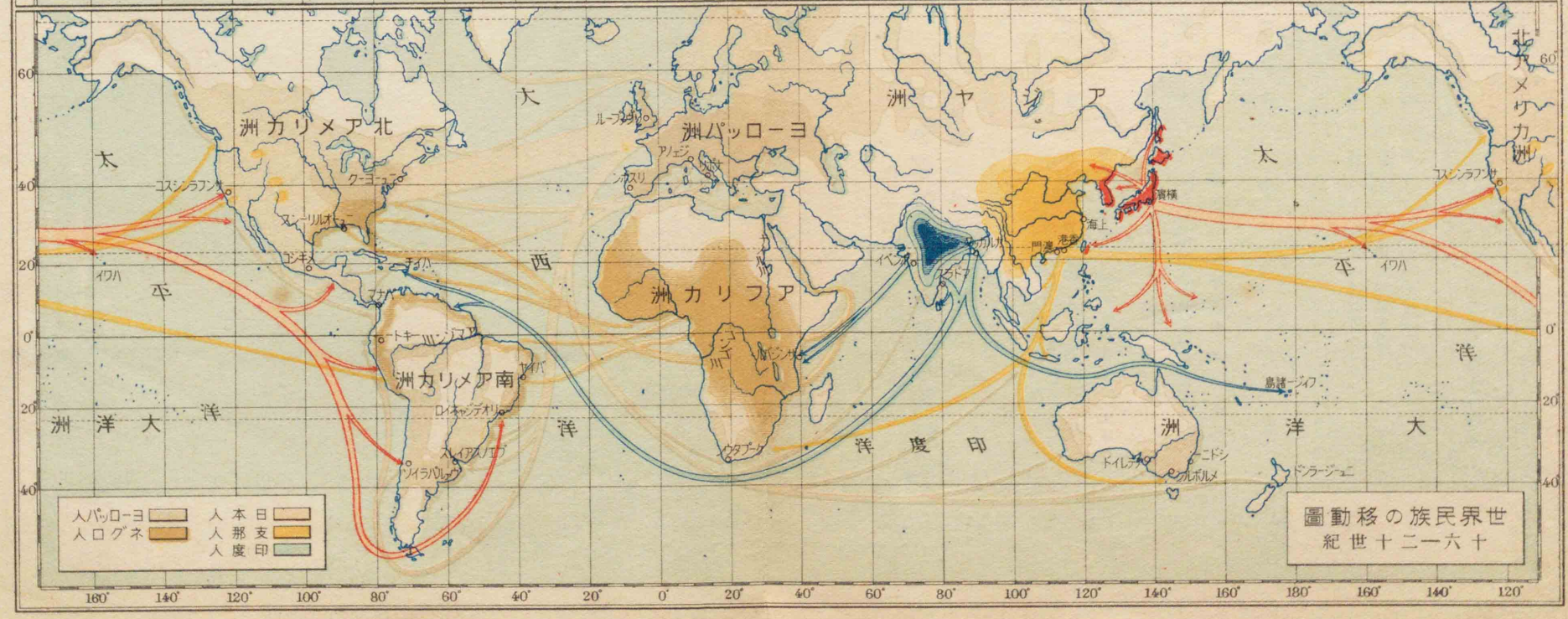
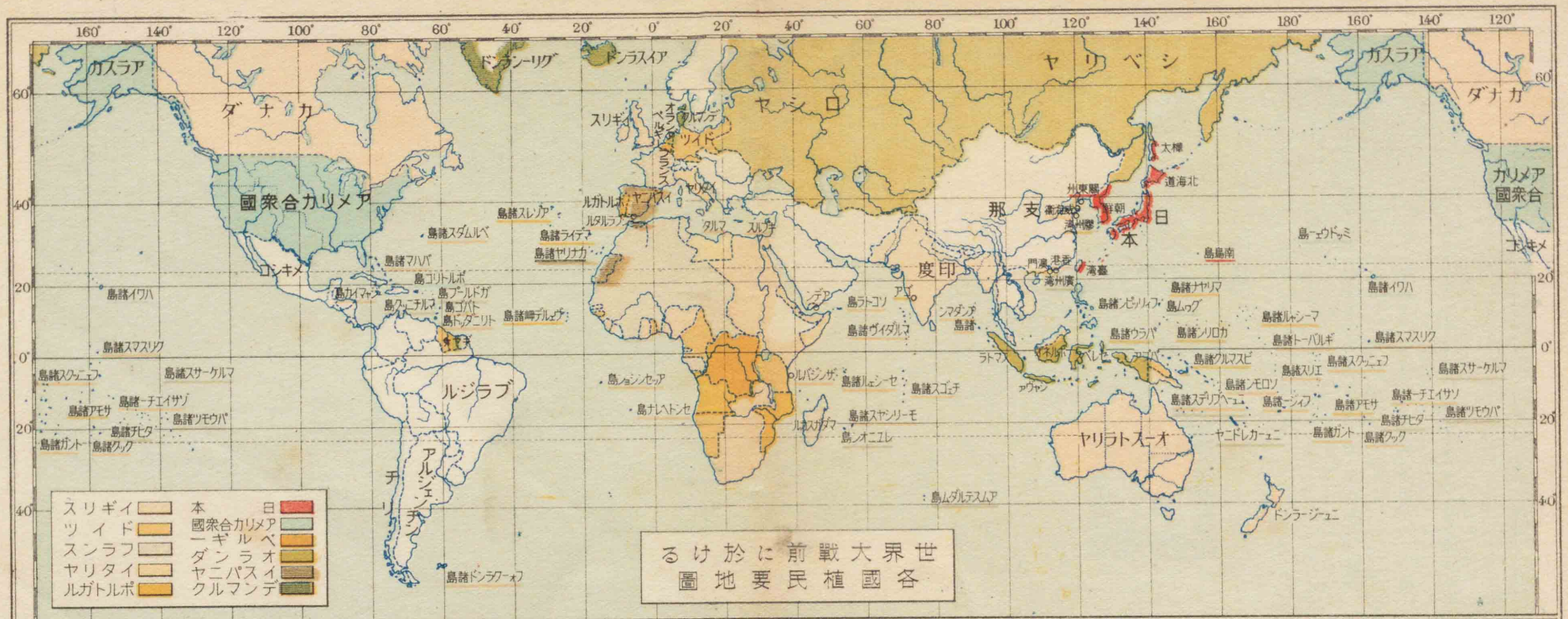
陸路
海路の盟同ザンハ
海路の人スニエヴ
海路の人アノエジ

一三	一三
共協定の成立	際聯盟加入
イスパニヤ革命起る	ザール地方のドイツ復興
ドイツ軍ライン地方進入	オビヤ開戦
オビヤ開戦	ラリガス
ドイツ軍ライン地方進入	オビヤ開戦
オビヤ開戦	ラリガス
ドイツ軍ライン地方進入	オビヤ開戦
オビヤ開戦	ラリガス
ドイツ軍ライン地方進入	オビヤ開戦
オビヤ開戦	ラリガス

一三	一三
ドイツ軍の進撃	ドイツ軍の進撃
ドイツ軍の進撃	ドイツ軍の進撃
ドイツ軍の進撃	ドイツ軍の進撃
ドイツ軍の進撃	ドイツ軍の進撃

一四	一四
日本政府の支那問題	中華民国の新政府成立
日本政府の支那問題	中華民国の新政府成立





最新中等西洋史

定價金壹圓四拾錢



昭和十二年七月二十四日印刷
昭和十二年七月二十八日發行
昭和十二年十二月二十六日訂正再版發行

昭和十六年八月十一日修正三版發行
昭和十八年六月二十六日修正四版印刷
昭和十八年六月三十日修正四版發行

(略名) 開成中川西史

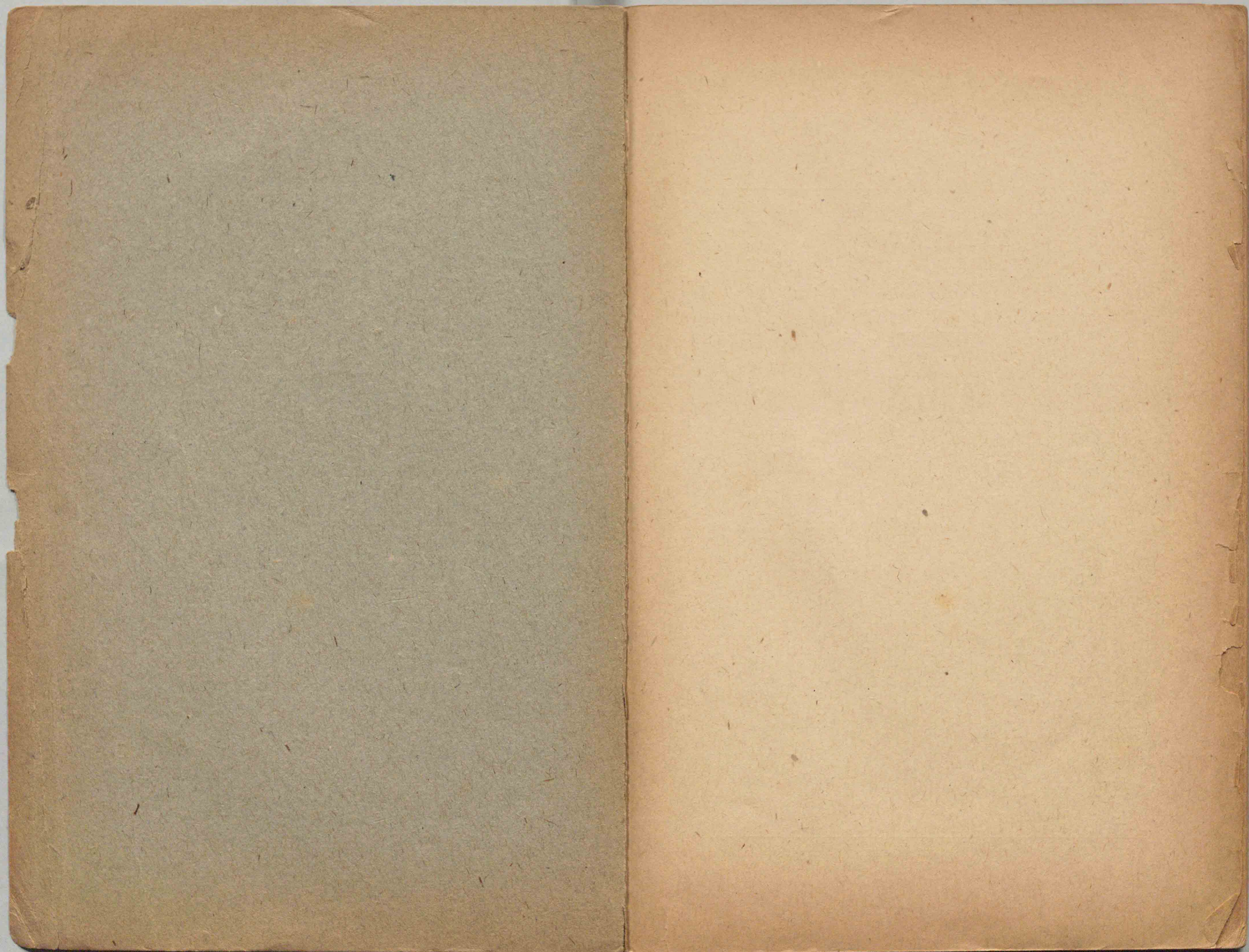
著者 中川 一 男

發行者 東京市神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
代表者 山本 慶 治

印刷者 東京市小石川區松ヶ枝町十六番地
株式會社 美濃部製本所
代表者 加藤 忠 三

發行所

東京市神田區岩本町三番地
中等學校教科書株式會社
日本出版會會員番號 一一七五二二



広島大学図書

2000073476

